

# 人権に関する市民意識調査報告書

平成21年9月  
下松市

# — 目 次 —

## I 調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査項目	1
3 調査の方法	1
4 回収状況	1
5 回収の属性	2
6 調査結果の見方	3

## II 調査結果

### 1 人権について

(1) 基本的人権に関する認知度	5
(2) 関心のある基本的人権	7
(3) 山口県人権推進指針の周知度	10
(4) 山口県人権推進指針を知ったきっかけ	12
(5) 山口県人権推進指針の内容に対する感想	15
(6) 山口県における人権尊重意識の定着状況	17
(7) 人権を侵害された経験	19
(8) 人権を侵害されたと思った内容	21
(9) 人権を侵害された際の対処法	26

### 2 女性の人権について

女性に関する人権上の問題点	29
---------------	----

### 3 子どもの人権について

子どもに関する人権上の問題点	32
----------------	----

### 4 高齢者の人権について

高齢者に関する人権上の問題点	35
----------------	----

### 5 障害のある人の人権について

障害者に関する人権上の問題点	40
----------------	----

### 6 同和問題について

(1) 同和問題に関する人権上の問題点	45
(2) 同和問題の解決に必要なこと	48

### 7 外国人の人権について

外国人に関する人権上の問題点	51
----------------	----

### 8 感染症患者等(H I V感染者・患者等)の人権について

感染症患者等に関する人権上の問題点	54
-------------------	----

<b>9</b>	<b>ハンセン病問題（ハンセン病患者・元患者等）について</b>	
	ハンセン病問題に関する人権上の問題点.....	57
<b>10</b>	<b>罪や非行を犯した人の人権について</b>	
	罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点.....	60
<b>11</b>	<b>その他の人権について</b>	
	(1) プライバシーの保護に関する人権上の問題点.....	63
	(2) インフォームド・コンセントに関する医療機関の対応.....	66
	(3) 犯罪被害者に関する人権上の問題点.....	68
<b>12</b>	<b>人権教育・啓発の取組</b>	
	(1) 啓発活動への接触度.....	73
	(2) 人権に関する取組の今後の条件整備.....	78
	(3) 今後、山口県人権推進指針に盛り込むべき人権課題.....	81

**<参考資料>**

	平成20年度「人権に関する市民意識調査」調査票.....	85
--	------------------------------	----

# I 調査の概要

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

この調査は、市民の人権に関する意識を把握し、今後の人権に関する施策を推進する上での基礎資料とする。

## 2 調査項目

- (1) 人権一般
- (2) 人権の個別分野ごとの課題
- (3) 人権教育・啓発の取組

## 3 調査の方法

- (1) 調査地域  
下松市全域
- (2) 調査対象者及び標本抽出方法  
市内に居住する20歳以上の者を対象として、住民基本台帳から1,696人を無作為抽出法により抽出した。
- (3) 調査方法  
郵送法・無記名方式
- (4) 調査期間  
平成20年10月20日から平成20年11月7日まで

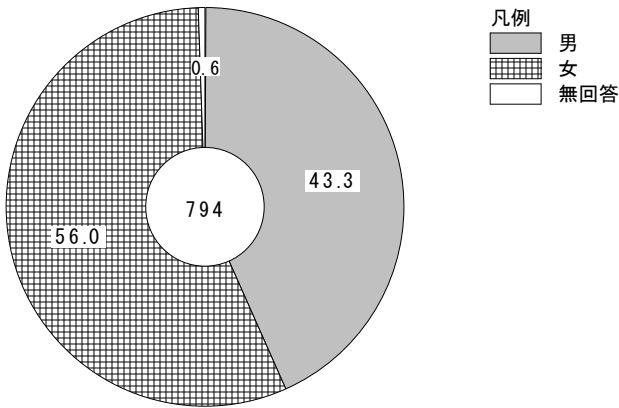
## 4 回収状況

- (1) 調査票配布数 1,696票
- (2) 有効回収数 794票 有効回収率 46.8%

※山口県が実施した「人権に関する県民意識調査」における下松市内在住の対象者の回答票も集計に含んでいます。(有効回収数 53票)

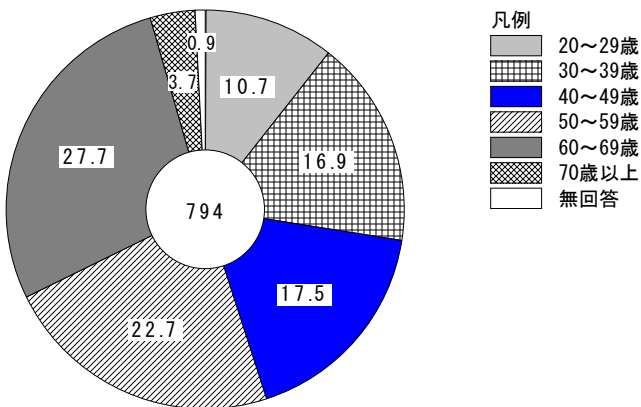
## 5 回収の属性

### [1] 性別



男性	344人	43.3%
女性	445人	56.0%
無回答	5人	0.6%
合計	794人	100.0%

### [2] 年齢



20～29歳	85人	10.7%
30～39歳	134人	16.9%
40～49歳	139人	17.5%
50～59歳	180人	22.7%
60～69歳	220人	27.7%
70歳以上	29人	3.7%
無回答	7人	0.9%
合計	794人	100.0%

### [3] 職業



農林業者	10人	1.3%
漁業者	0人	0.0%
経営者・自営業者	72人	9.1%
企業等の勤め人	219人	27.6%
学校の教職員	17人	2.1%
医療等の関係者	42人	5.3%
その他の公務員	10人	1.3%
他の専門職・自由業	9人	1.1%
臨時職、パート	92人	11.6%
主婦（夫）	197人	24.8%
学生	12人	1.5%
その他	105人	13.2%
無回答	9人	1.1%
合計	794人	100.0%

## 6 調査結果の見方

- (1) 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比（％）で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- (2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- (3) 報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。
- (4) 選択肢の中から回答可能数（「✓は1つ」、「✓は3つまで」等）を超えている場合は、「無効」として集計した。

## II 調查結果



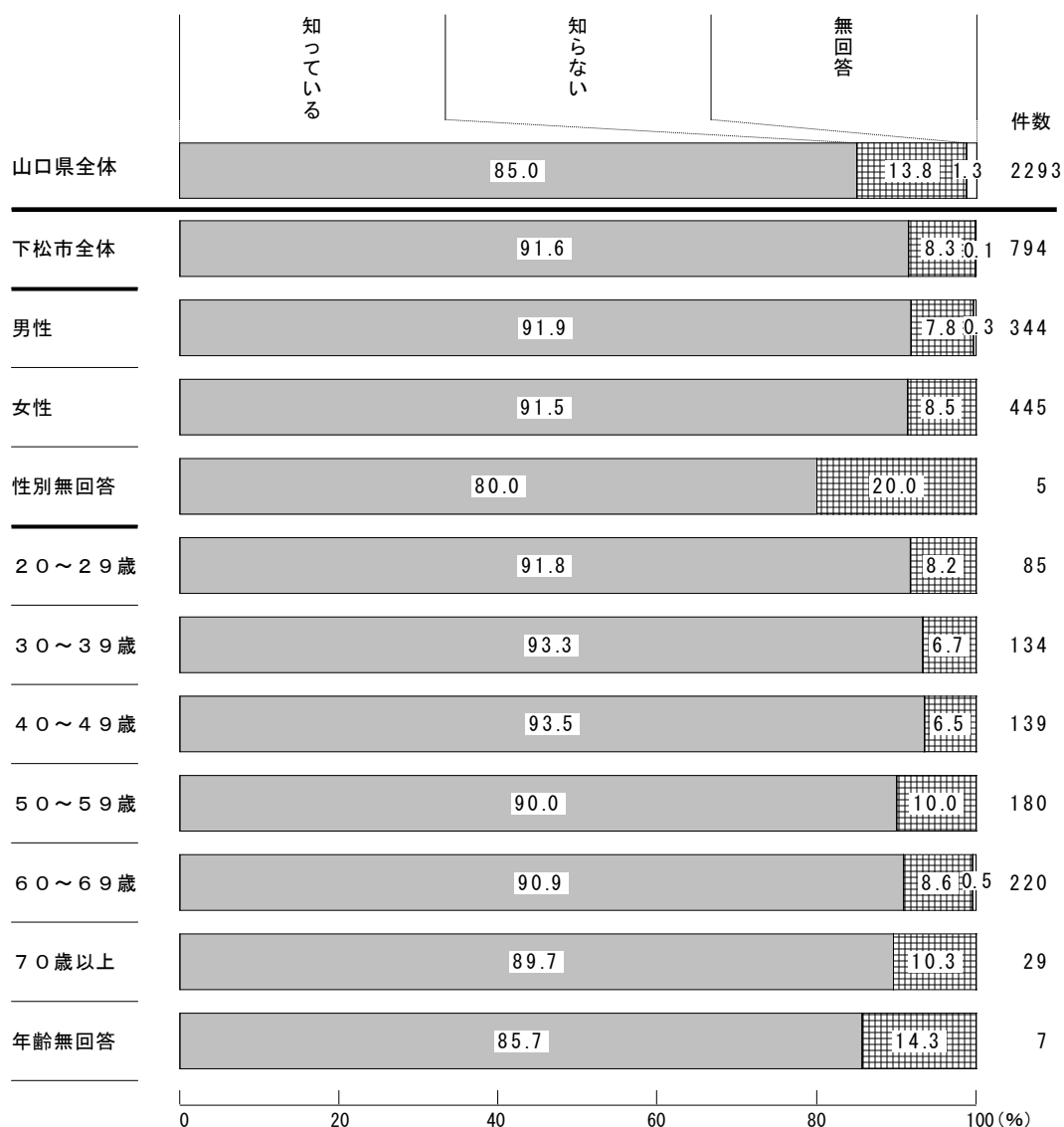
## Ⅱ 調査結果

### 1 人権について

#### (1) 基本的人権に関する認知度

問1 あなたは、基本的人権は侵すことのできない永久の権利として、憲法で保障されていることを知っていますか。(✓は1つ)

図1-1 基本的人権に関する認知度(県全体・下松市全体・性別・年齢別)



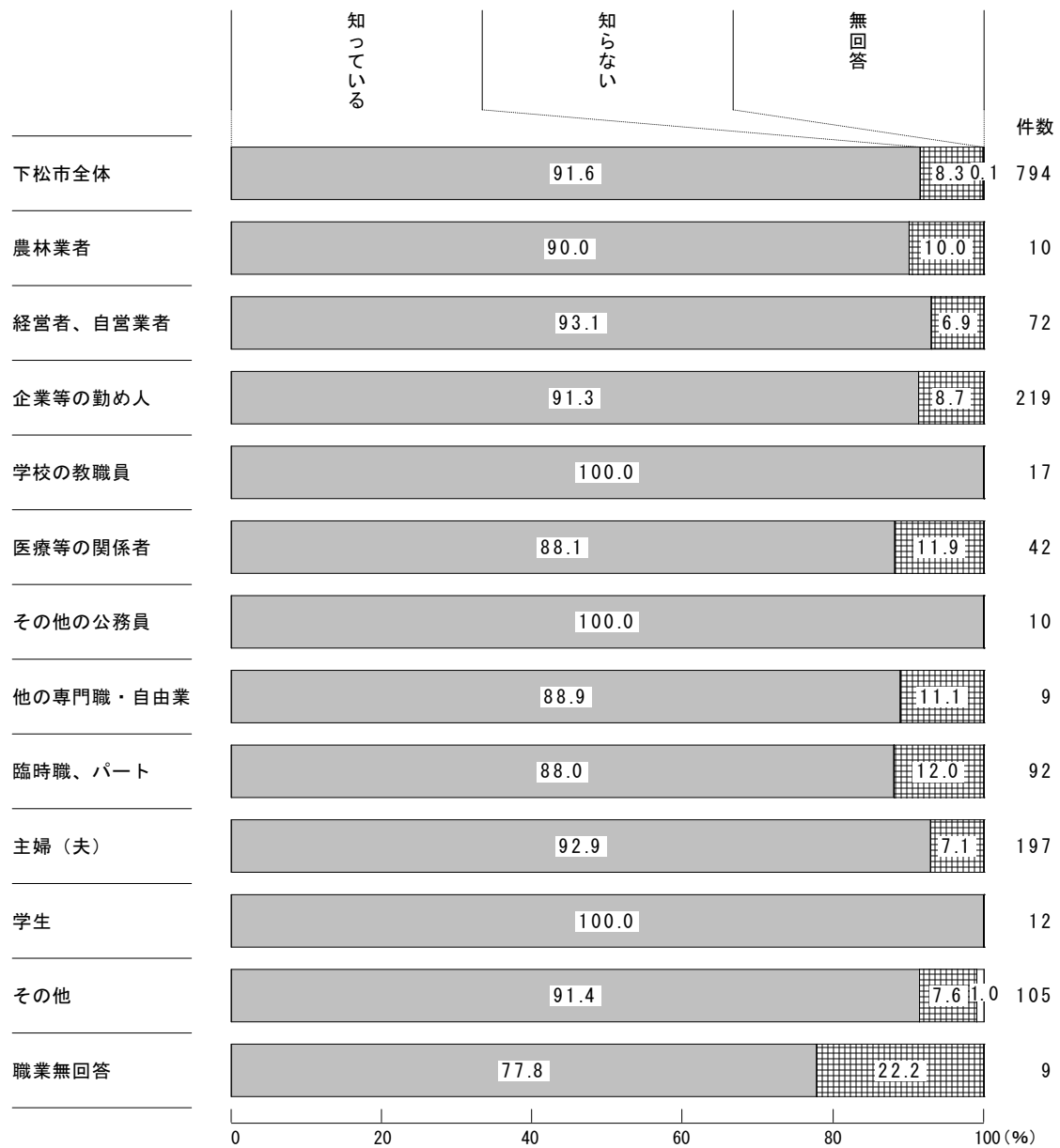
基本的人権の認知度について、「知っている」との回答が91.6%と9割を超え、認知度は高くなっている。

山口県全体と比較すると、「知っている」との回答は本市が山口県全体を6.6ポイント上回っている。

性別にみると、「知っている」との回答が男女ともに9割を超え、男女間に差はみられない。

年齢別にみると、すべての年齢層において「知っている」との回答が9割前後となっている。

図1-2 基本的人権に関する認知度(職業別)



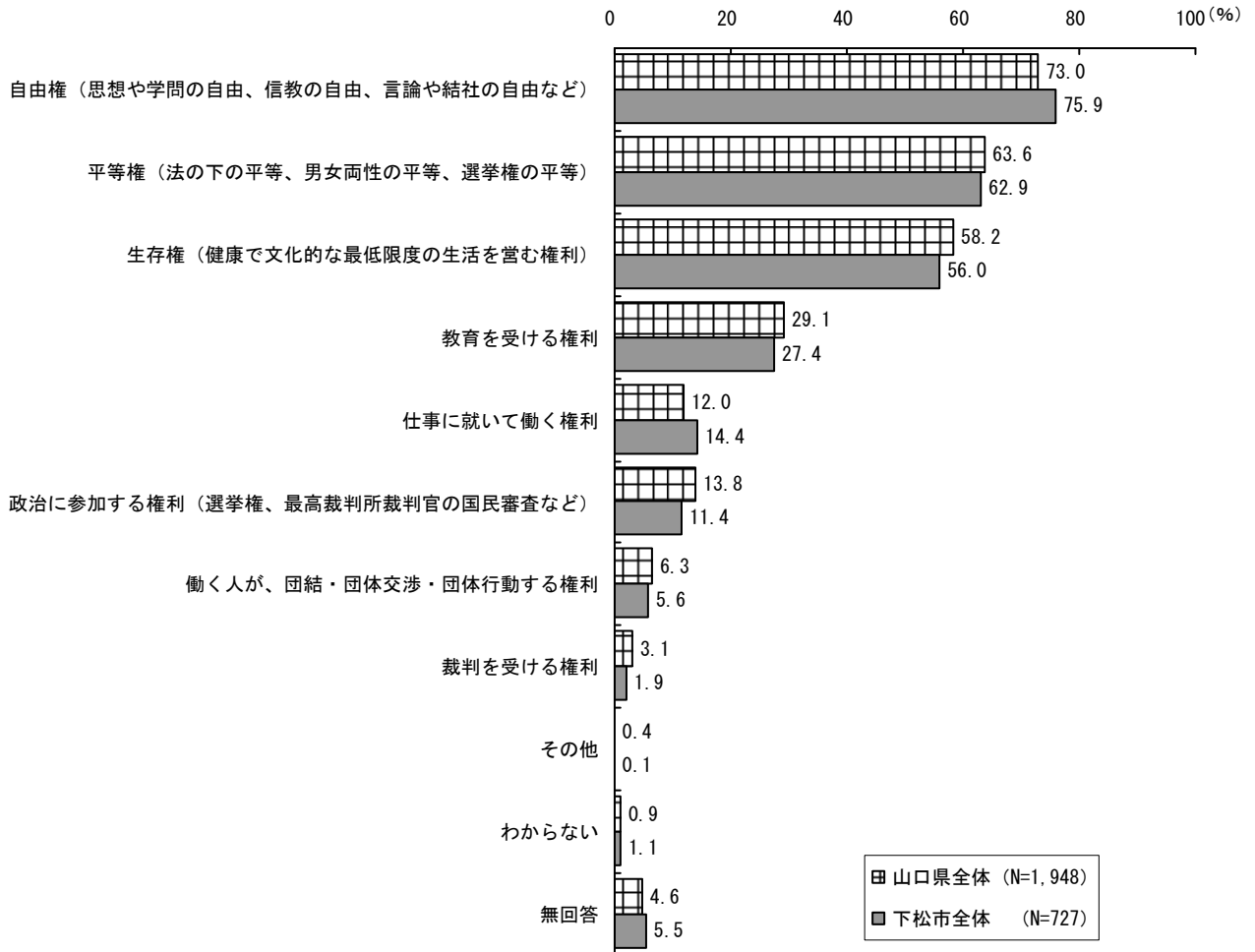
基本的人権に関する認知度について職業別にみると、すべての職業において「知っている」との回答が8割を超えて高くなっている。

## (2) 関心のある基本的人権

【問1で「1知っている」を選んだ人のみ回答】

問1-2 憲法で保障されている基本的人権のうち、あなたが日常生活の中で、特に関心をもっているものはどれですか。(✓は3つまで)

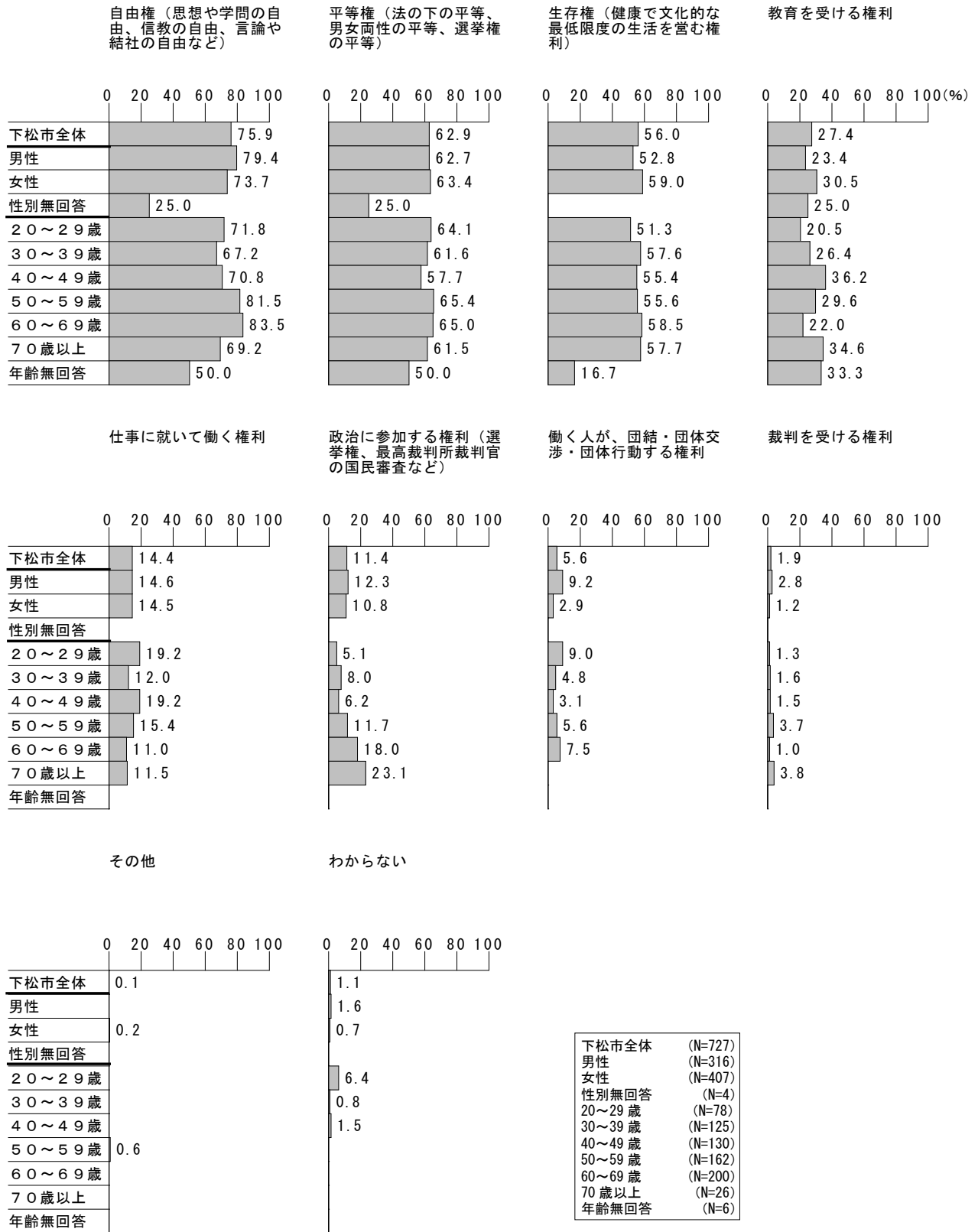
図1-2-1 関心のある基本的人権(県全体・下松市全体)



関心のある基本的人権について、「自由権(思想や学問の自由、信教の自由、言論や結社の自由など)」との回答が75.9%で最も高く、次いで「平等権(法の下での平等、男女両性の平等、選挙権の平等)」(62.9%)、「生存権(健康で文化的な最低限度の生活を営む権利)」(56.0%)などの順となっている。

山口県全体と比較すると、すべての項目において大きな差はみられない。

図1-2-2 関心のある基本的人権(性別・年齢別)

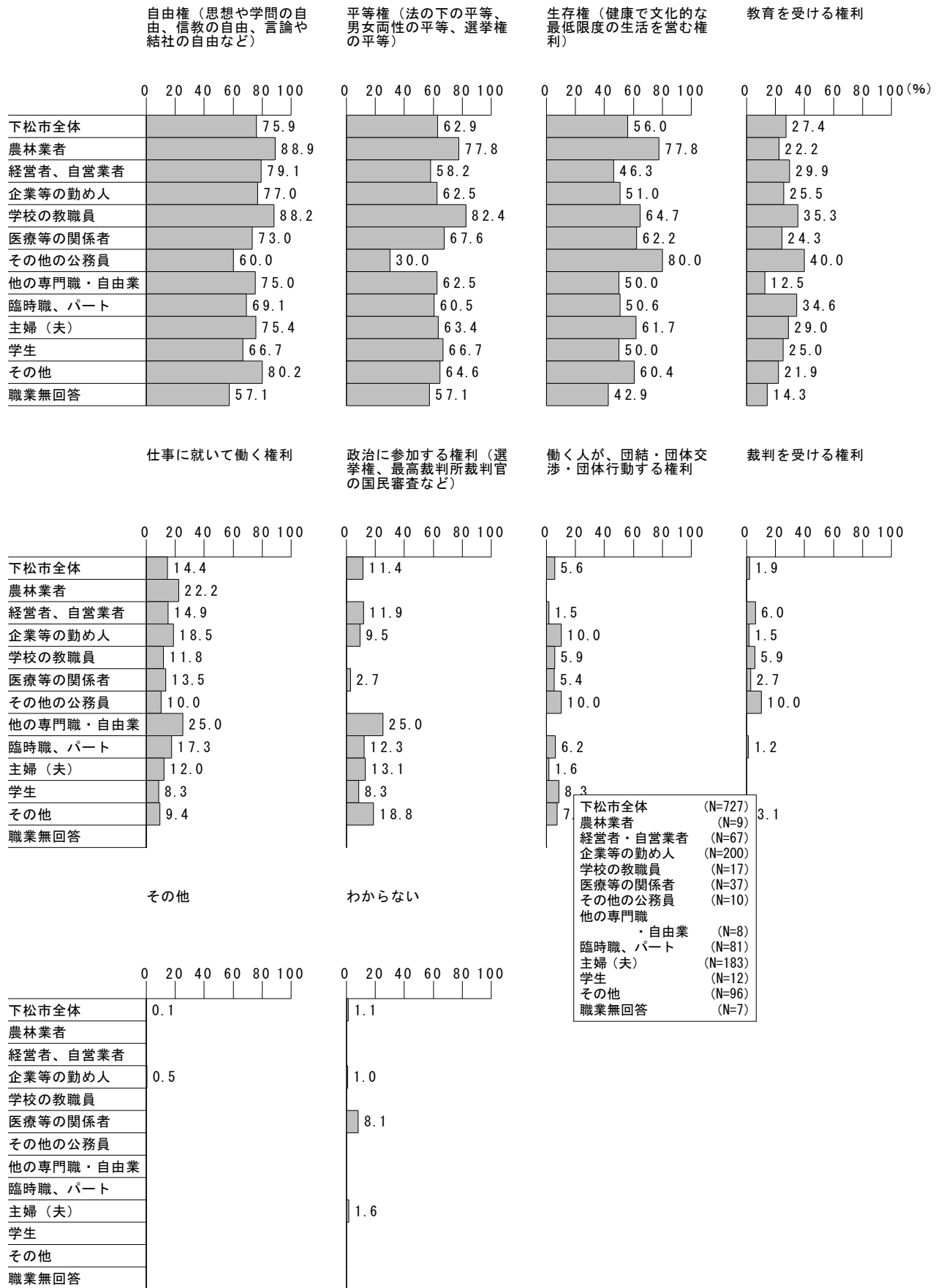


下松市全体 (N=727)  
 男性 (N=316)  
 女性 (N=407)  
 性別無回答 (N=4)  
 20~29歳 (N=78)  
 30~39歳 (N=125)  
 40~49歳 (N=130)  
 50~59歳 (N=162)  
 60~69歳 (N=200)  
 70歳以上 (N=26)  
 年齢無回答 (N=6)

関心のある基本的人権について、性別にみると、「教育を受ける権利」との回答は女性が男性を7.1ポイント上回っている。

年齢別にみると、「自由権 (思想や学問の自由、信教の自由、言論や結社の自由など)」、「平等権 (法の下での平等、男女両性の平等、選挙権の平等)」との回答は50~59歳、60~69歳で、「教育を受ける権利」との回答は40~49歳、70歳以上で、「政治に参加する権利 (選挙権、最高裁判所裁判官の国民審査など)」との回答は70歳以上でそれぞれ高くなっている。

図1-2-3 関心のある基本的人権(職業別)

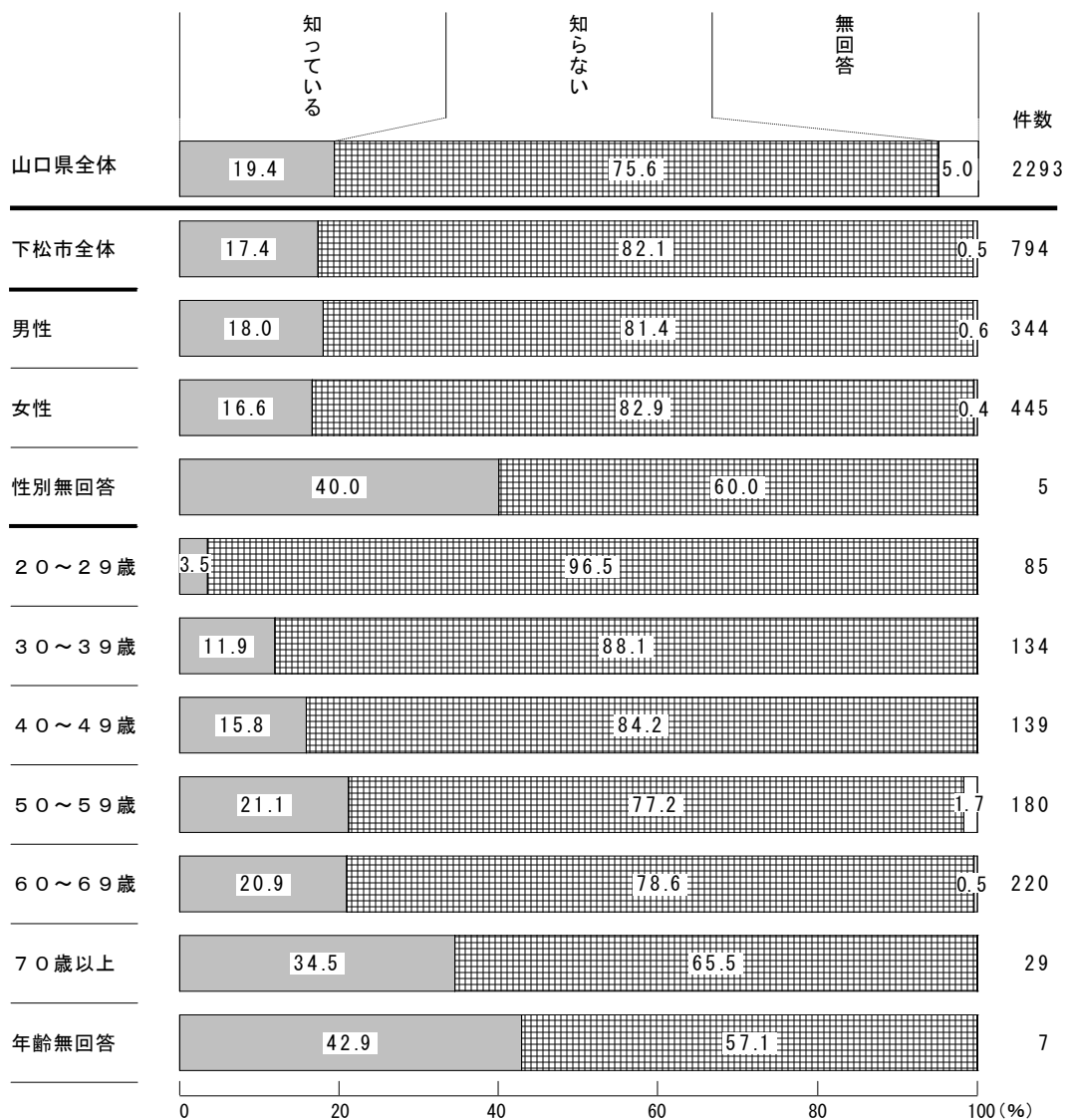


関心のある基本的人権について、職業別にみると、「平等権（法の下での平等、男女両性の平等、選挙権の平等）」との回答は学校の教職員で、「生存権（健康で文化的な最低限度の生活を営む権利）」との回答はその他の公務員、農林業者で、「教育を受ける権利」との回答はその他の公務員でそれぞれ高くなっている。

### (3) 山口県人権推進指針の周知度

問2 山口県では、幅広い人権課題への対応や、より一層の人権尊重を踏まえた行政の推進など、人権に関する総合的な取組を推進するため、平成14年(2002年)3月に「山口県人権推進指針」を策定し、これに基づき人権諸施策を推進していますが、あなたはこの「山口県人権推進指針」を知っていますか。(✓は1つ)

図2-1 山口県人権推進指針の周知度(県全体・下松市全体・性別・年齢別)



山口県人権推進指針の周知度について、「知っている」との回答は17.4%と2割に満たない。山口県全体と比較しても、大きな差はみられない。

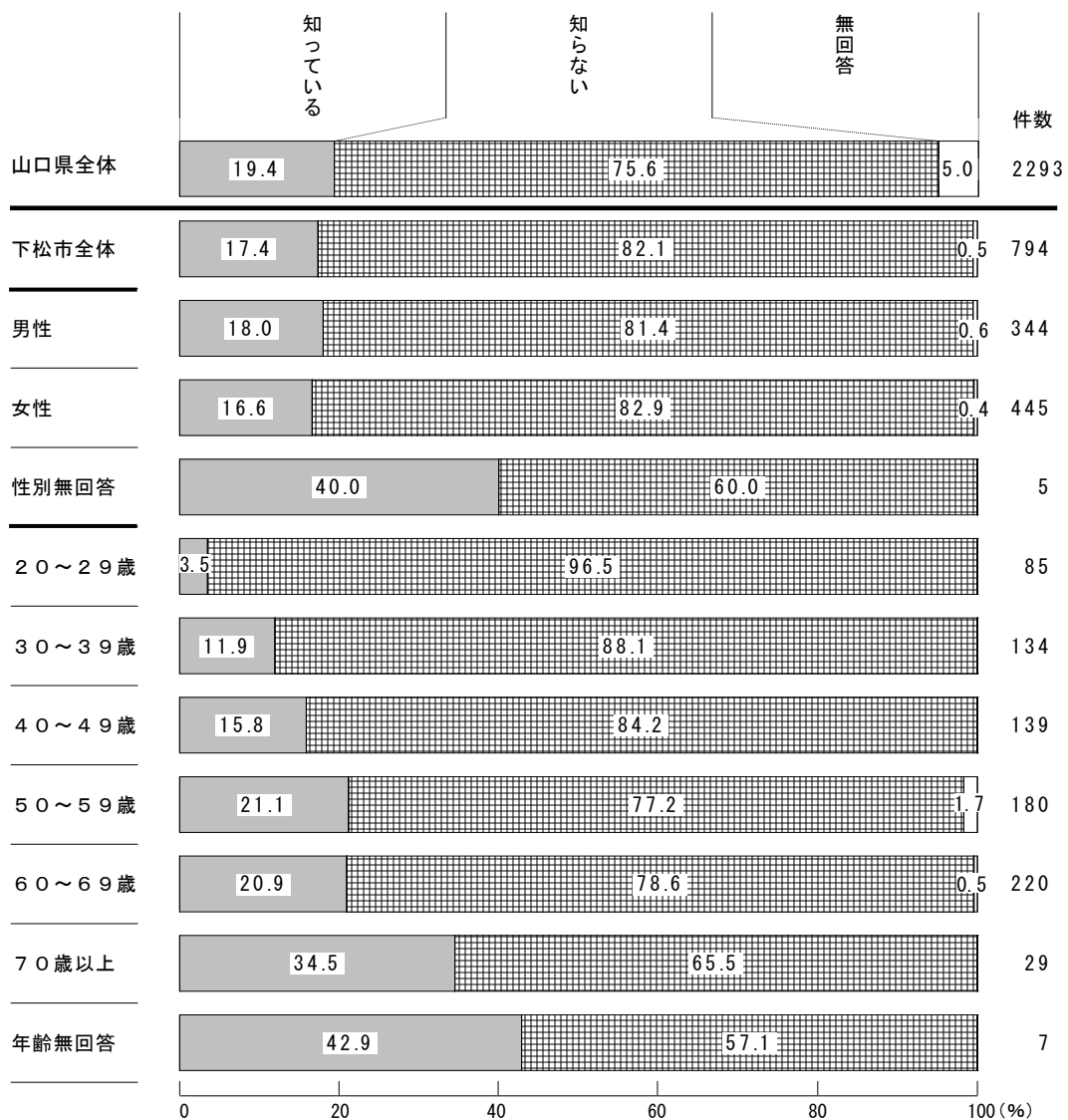
性別にみると、男女ともに「知っている」との回答が2割に満たない。

年齢別にみると、「知っている」との回答は若年層ほど低くなっており、20~29歳で3.5%となっている。

### (3)山口県人権推進指針の周知度

問2 山口県では、幅広い人権課題への対応や、より一層の人権尊重を踏まえた行政の推進など、人権に関する総合的な取組を推進するため、平成14年(2002年)3月に「山口県人権推進指針」を策定し、これに基づき人権諸施策を推進していますが、あなたはこの「山口県人権推進指針」を知っていますか。(✓は1つ)

図2-1 山口県人権推進指針の周知度(県全体・下松市全体・性別・年齢別)

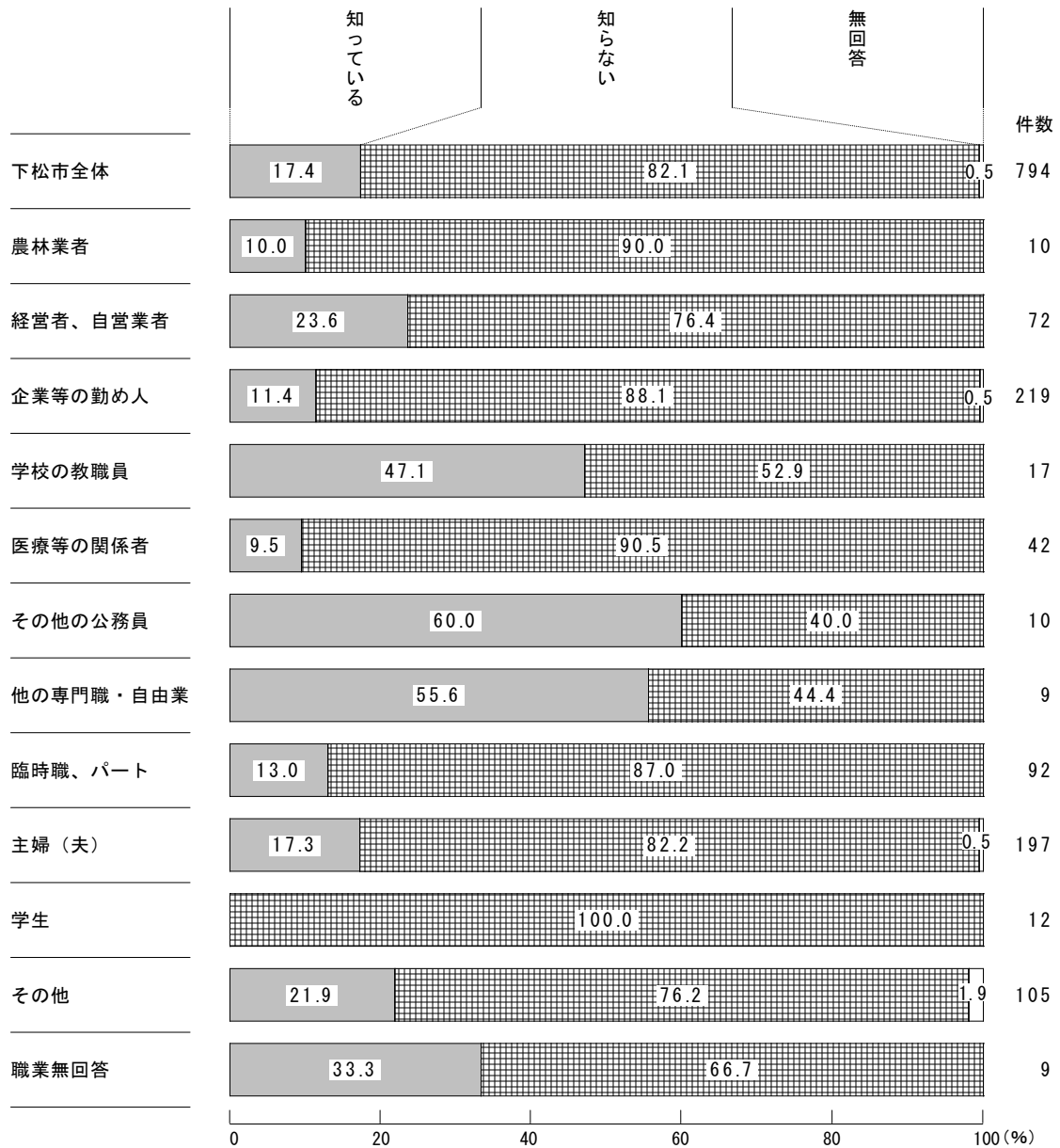


山口県人権推進指針の周知度について、「知っている」との回答は17.4%と2割に満たない。山口県全体と比較しても、大きな差はみられない。

性別にみると、男女ともに「知っている」との回答が2割に満たない。

年齢別にみると、「知っている」との回答は若年層ほど低くなっており、20~29歳で3.5%となっている。

図2-2 山口県人権推進指針の周知度(職業別)



山口県人権推進指針の周知度について、職業別にみると、「知っている」との回答はその他の公務員、他の専門職・自由業、学校の教職員で高くなっている。学生の周知度は0%となっている。

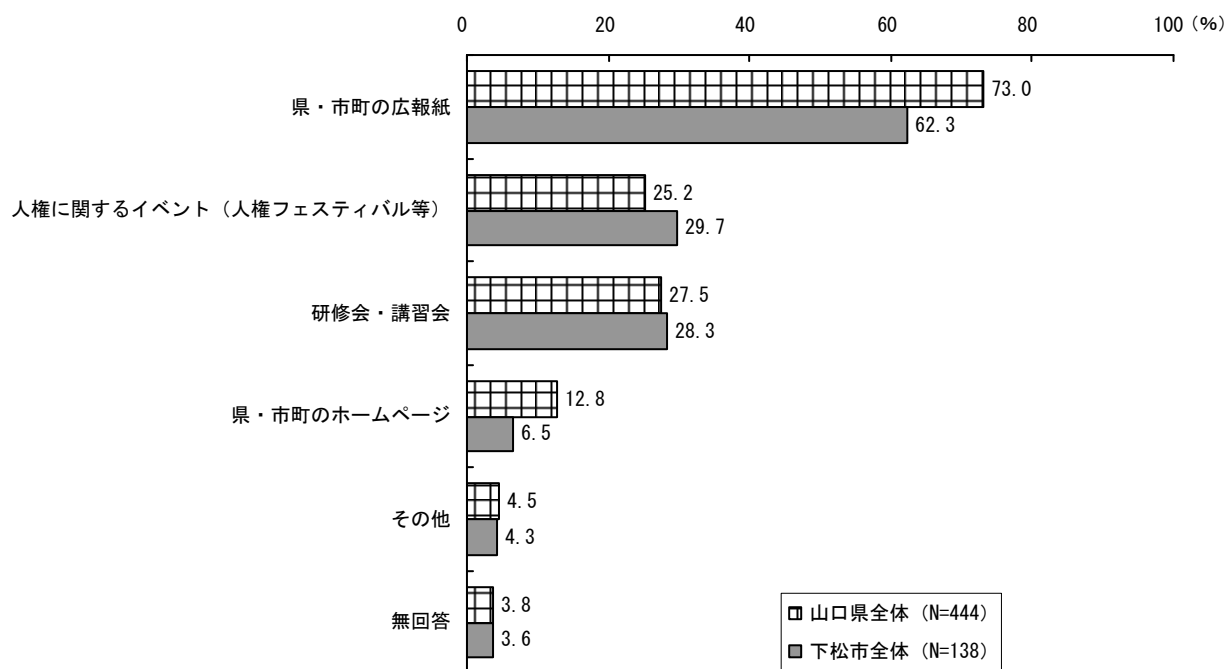


#### (4) 山口県人権推進指針を知ったきっかけ

【問2で「1 知っている」を選んだ人のみ回答】

(1) あなたが、山口県人権推進指針を知ったきっかけは何からですか。(✓はいくつでも)

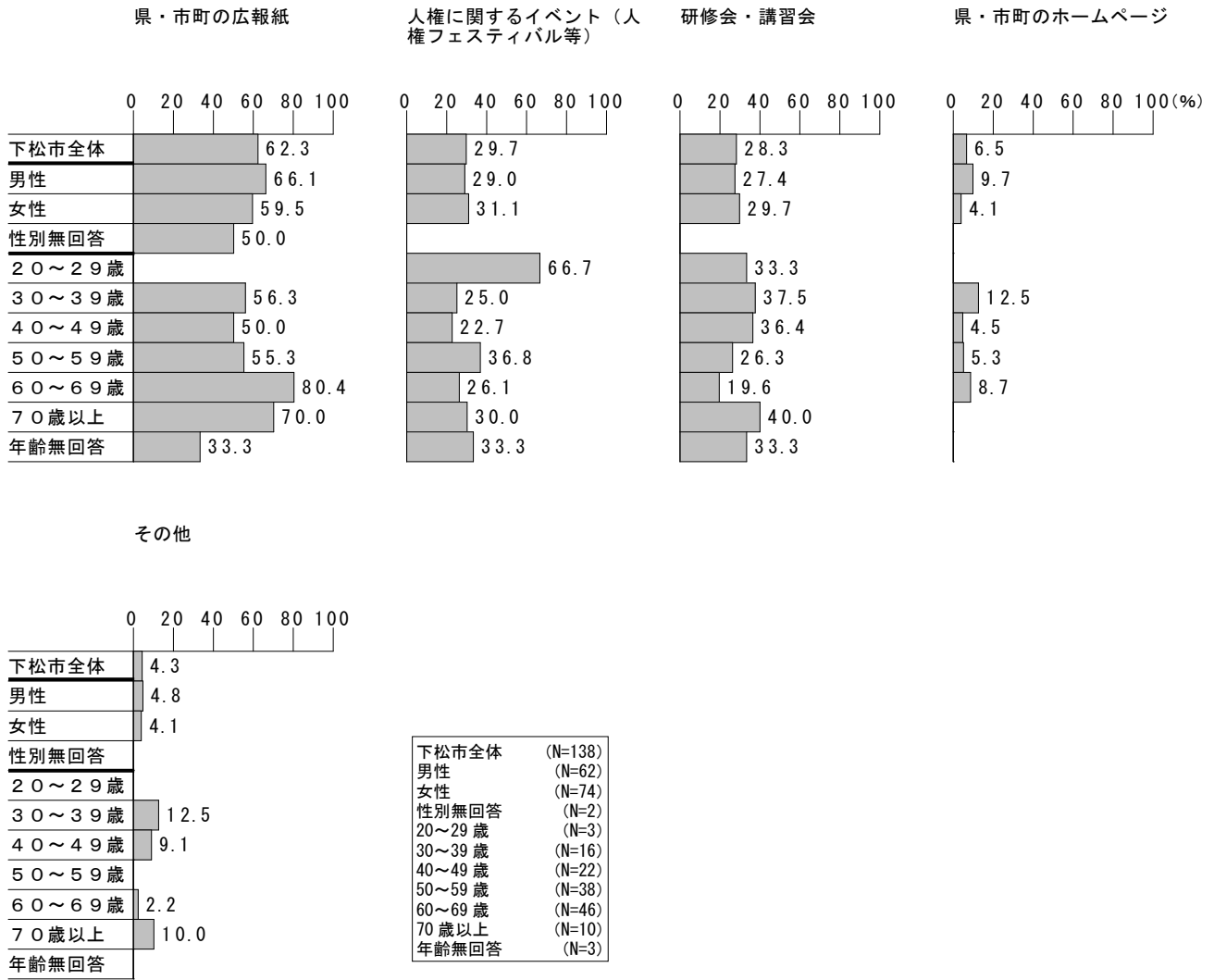
図2-1-1 山口県人権推進指針を知ったきっかけ(県全体・下松市全体)



山口県人権推進指針を知ったきっかけについて、「県・市町の広報紙」が 62.3%と最も高く、次いで「人権に関するイベント (人権フェスティバル等)」(29.7%)、「研修会・講習会」(28.3%)などの順となっている。

山口県全体と比較すると、「県・市町の広報紙」との回答は本市が山口県全体を 10.7 ポイント下回っている。

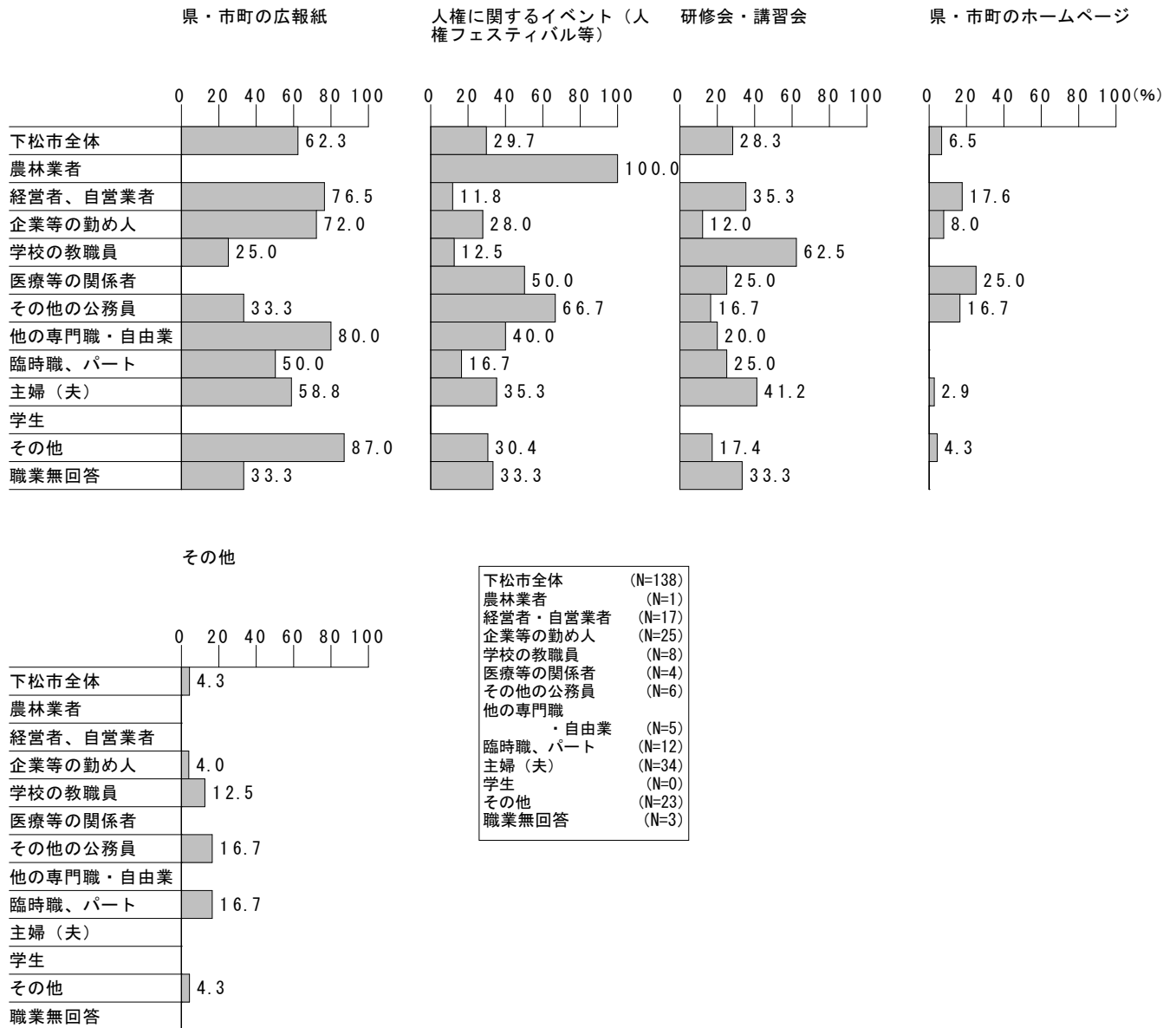
図2-1-2 山口県人権推進指針を知ったきっかけ(性別・年齢別)



山口県人権推進指針を知ったきっかけについて、性別にみると、「県・市町の広報紙」との回答は男性が女性を6.6ポイント上回っている。

年齢別にみると、回答者の少ない20~29歳を除くと、「県・市町の広報紙」との回答が60~69歳で高くなっている。

図2-1-3 山口県人権推進指針を知ったきっかけ(職業別)

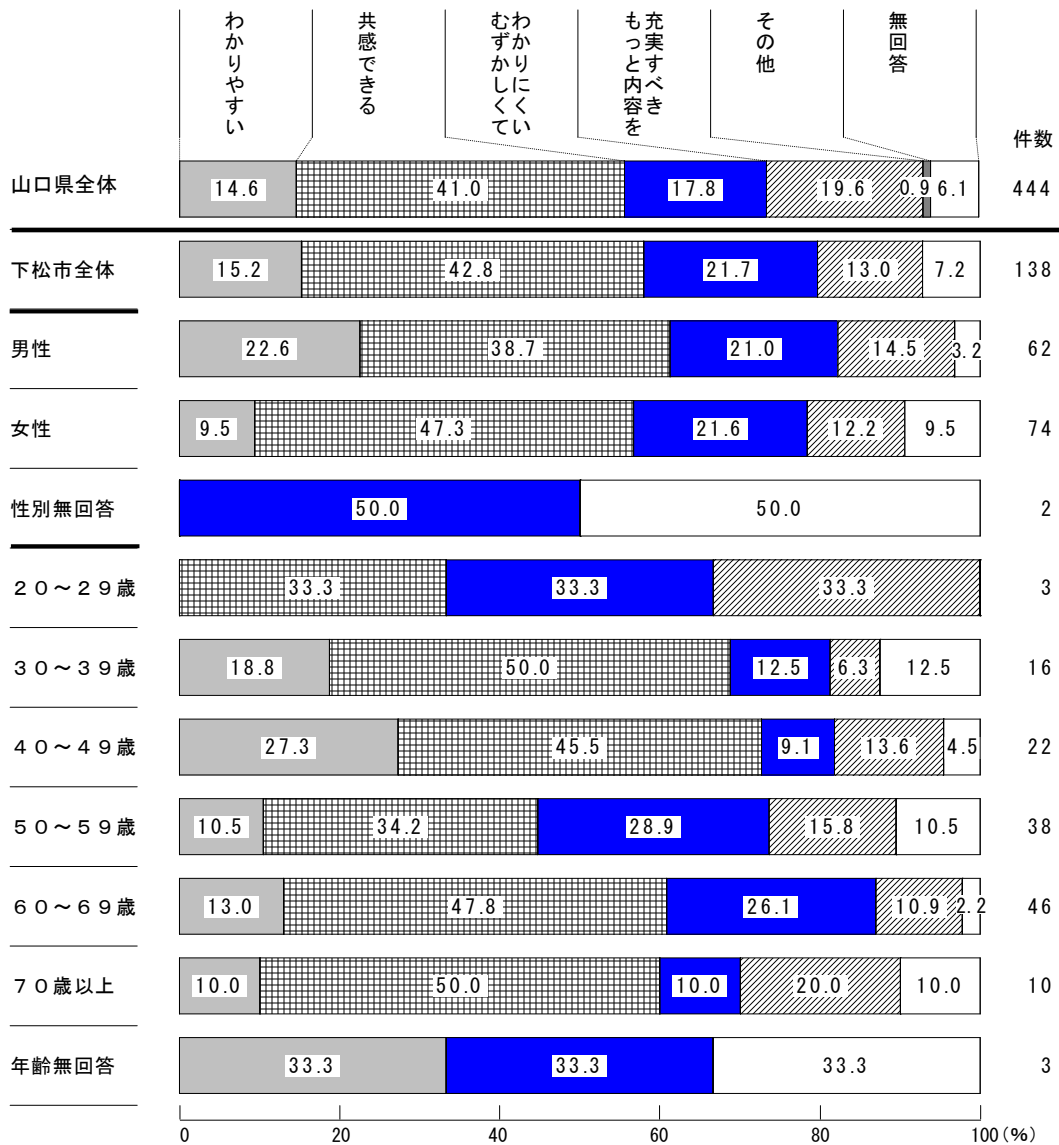


山口県人権推進指針を知ったきっかけについて、職業別にみると、いずれの職業においても回答件数は少なくなっているが、「県・市町の広報紙」との回答はその他で、「研修会・講習会」との回答は学校の教職員でそれぞれ高くなっている。

(5) 山口県人権推進指針の内容に対する感想

(2) 山口県人権推進指針について、どのように思いましたか。(✓は1つ)

図2-2-1 山口県人権推進指針の内容に対する感想(県全体・下松市全体・性別・年齢別)



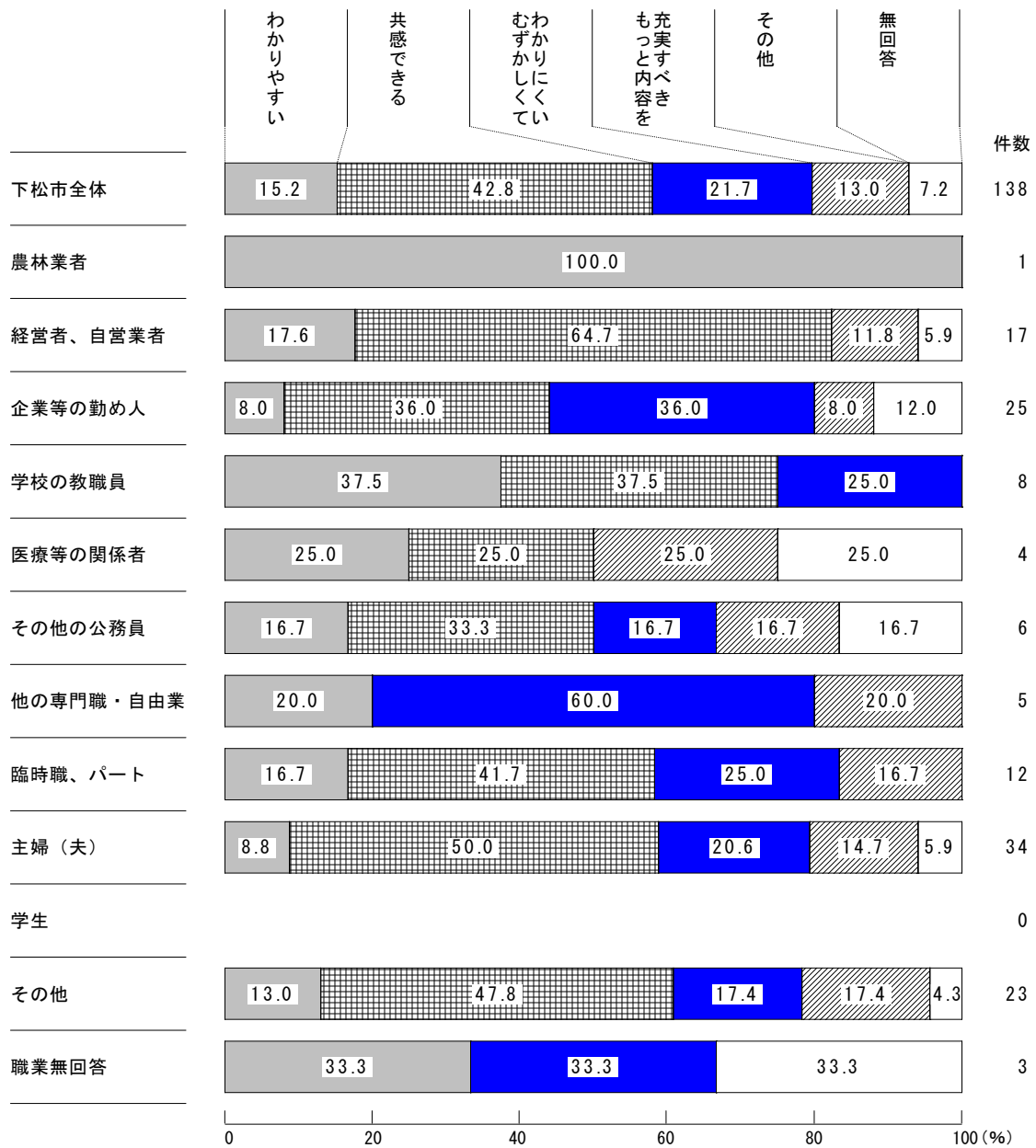
山口県人権推進指針の内容について、「共感できる」が42.8%、「わかりやすい」が15.2%で、両回答を合わせると5割を超える人が理解を示している。

山口県全体と比較すると、ともに「共感できる」との回答が最も高くなっている。また、「むずかしくてわかりにくい」との回答は本市が山口県全体をやや上回っている。

性別にみると、「わかりやすい」との回答は男性が女性を13.1ポイント、「共感できる」との回答は女性が男性を8.6ポイントそれぞれ上回っている。

年齢別にみると、「わかりやすい」、「共感できる」との肯定的な回答は40～49歳、30～39歳で高くなっている。

図2-2-2 山口県人権推進指針の内容に対する感想について(職業別)

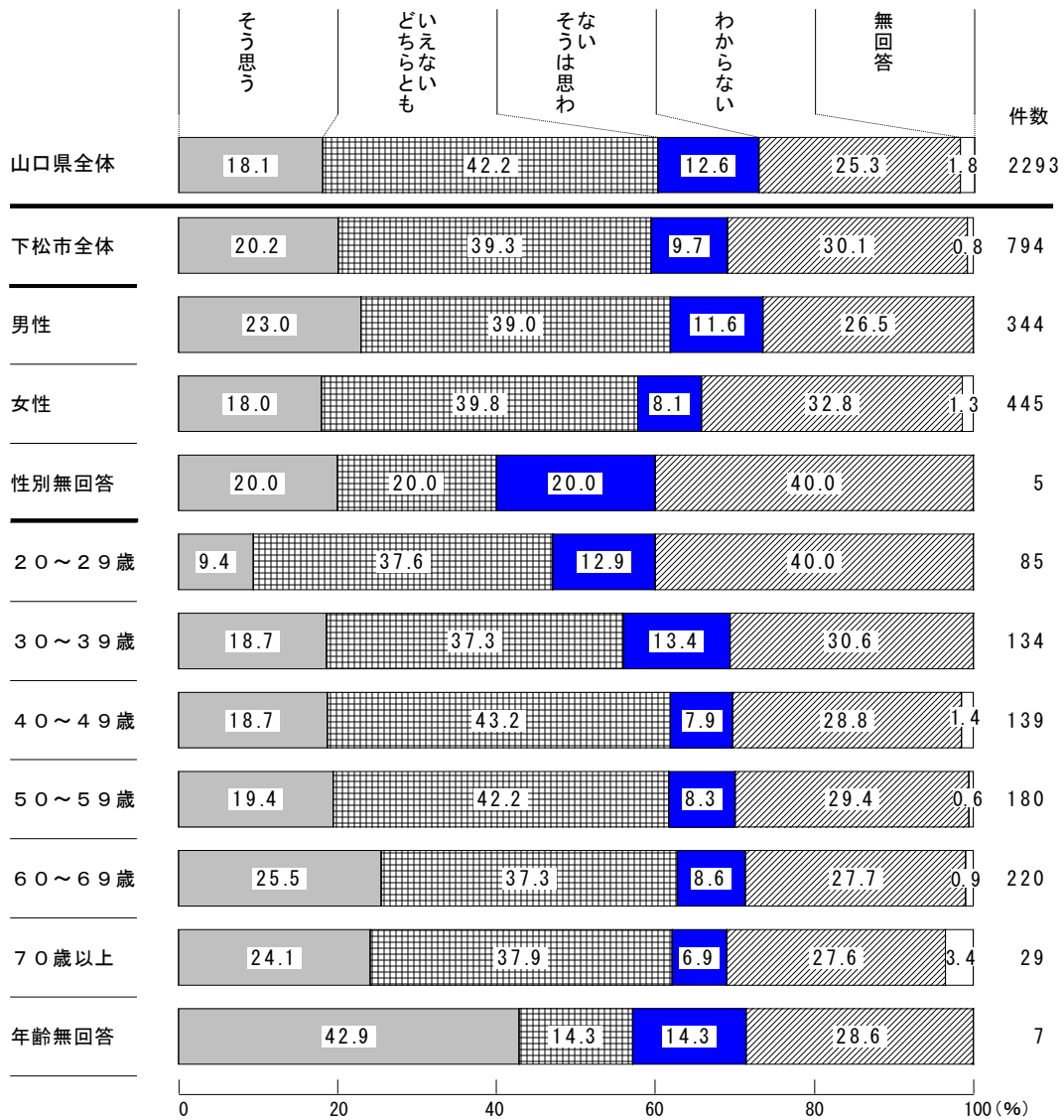


山口県人権推進指針の内容に対する感想について、職業別にみると、回答件数が少ない職業を除くと、「わかりやすい」、「共感できる」との肯定的な回答が経営者で高くなっている。

(6) 山口県における人権尊重意識の定着状況

問3 今の山口県は、人権が尊重された県になっていると思いますか。あなたの気持ちに一番近いものをお答えください。(✓は1つ)

図3-1 山口県における人権尊重意識の定着状況(県全体・下松市全体・性別・年齢別)



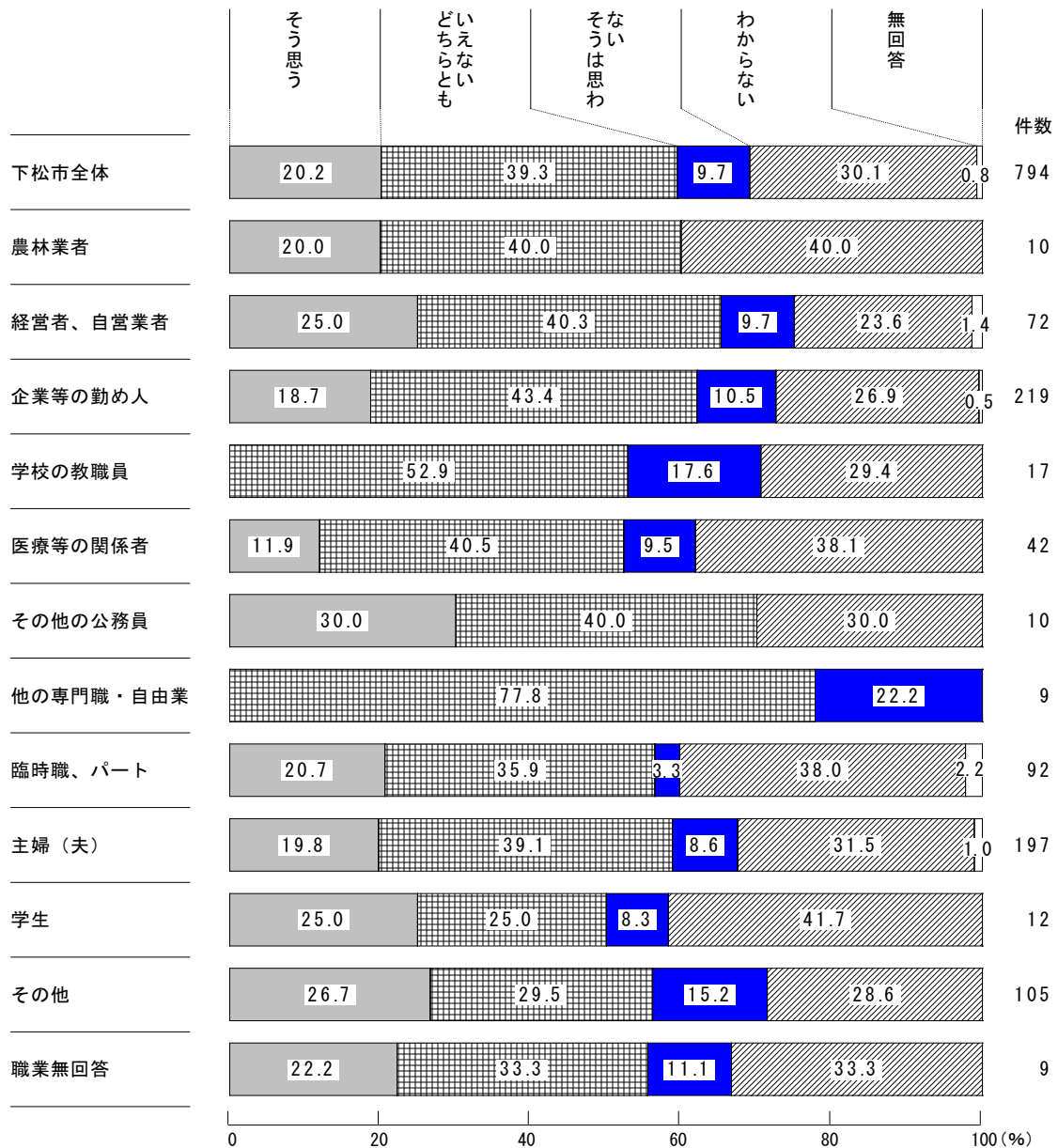
山口県における人権尊重意識の定着状況について、「そう思う」との回答は20.2%と2割を超えているが、「どちらともいえない」が39.3%と最も高くなっている。

山口県全体と比較すると、「そう思う」との回答は本市が山口県全体をやや上回っている。

性別にみると、「そう思う」との回答は男性が女性を5.0ポイント上回っている。

年齢別にみると、「そう思う」との回答は60～69歳、70歳以上で2割を超え、高くなっている。

図3-2 山口県における人権尊重意識の定着状況(職業別)

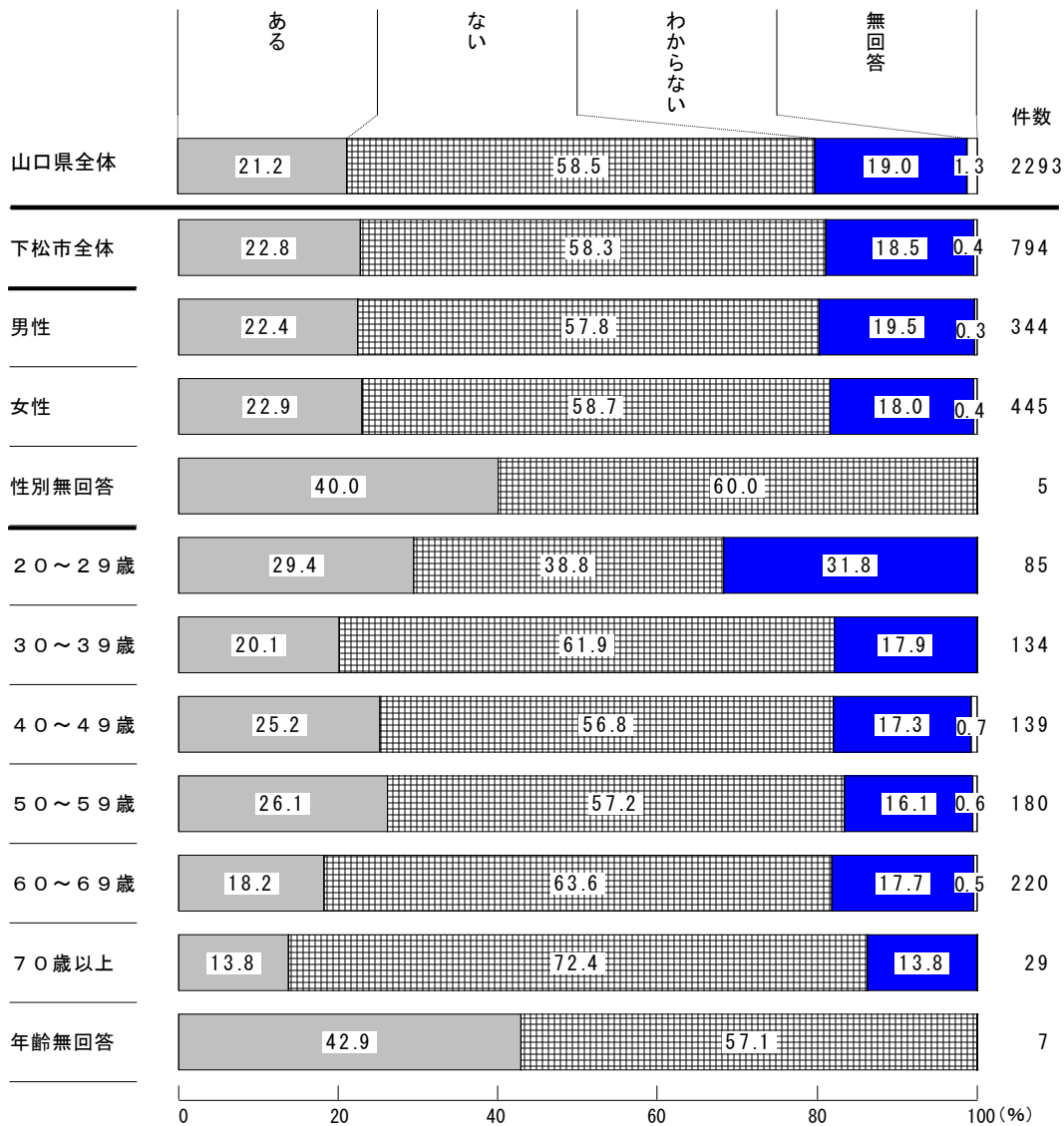


山口県における人権尊重意識の定着状況について、職業別にみると、すべての職業において、「どちらともいえない」との回答が最も高くなっている。

(7)人権を侵害された経験

問4 あなたは、今までに、ご自分の人権が侵害されたと感じたことがありますか。  
(✓は1つ)

図4-1 人権を侵害された経験(県全体・下松市全体・性別・年齢別)



人権を侵害された経験の有無について、「ある」との回答が22.8%であり、「ない」との回答が58.3%となっている。

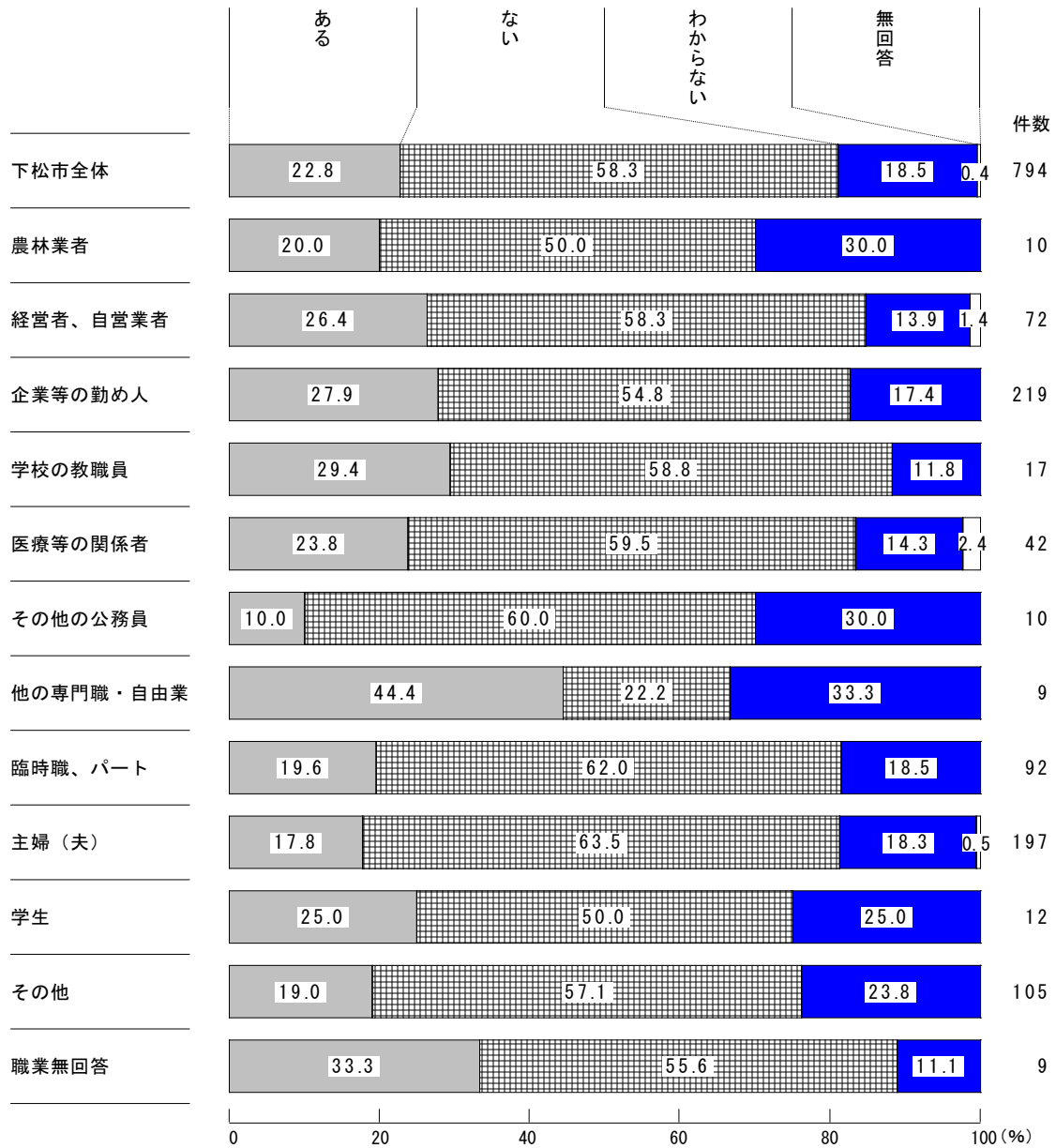
山口県全体と比較すると、ともに「ある」との回答が2割台となっており、大きな差はみられない。

性別にみると、男女ともに「ある」との回答が2割を超えている。

年齢別にみると、「ある」との回答は20~29歳で高くなっている。



図4-2 人権を侵害された経験(職業別)



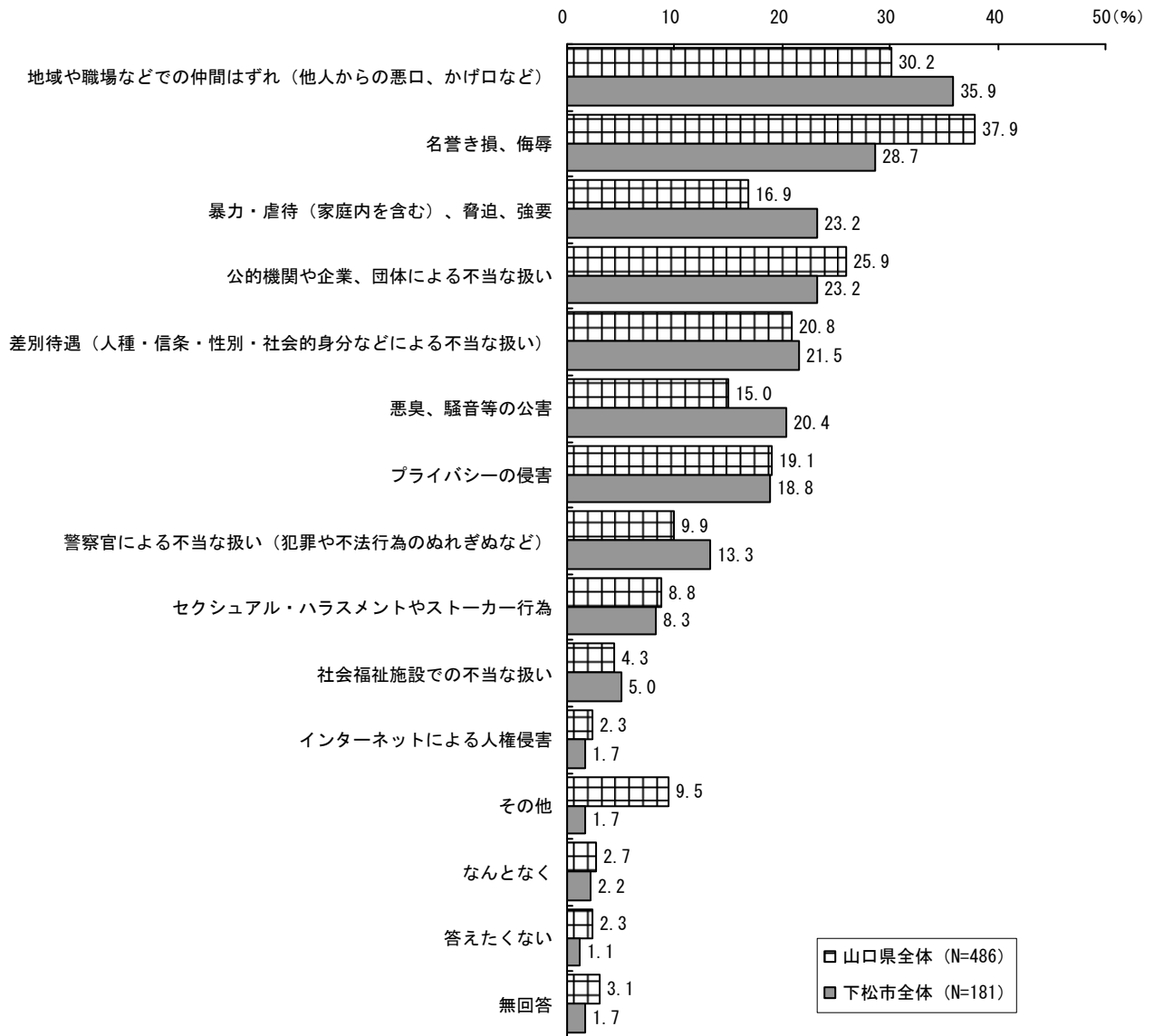
人権を侵害された経験の有無について、職業別にみると、「ある」との回答は他の専門職・自由業で高くなっている。

## (8) 人権を侵害されたと思った内容

【問4で「1ある」を選んだ人のみ回答】

(1) あなたが侵害されたと思った内容はどのようなものでしたか。(✓はいくつでも)

図4-2-1 人権を侵害されたと思った内容(県全体・下松市全体)



人権を侵害されたと思った内容について、「地域や職場などでの仲間はずれ(他人からの悪口、かげ口など)」との回答が35.9%と最も高く、次いで「名誉き損、侮辱」(28.7%)、「暴力・虐待(家庭内を含む)、脅迫、強要」(23.2%)、「公的機関や企業、団体による不当な扱い」(23.2%)、「差別待遇(人種・信条・性別・社会的身分などによる不当な扱い)」(21.5%)などの順となっている。

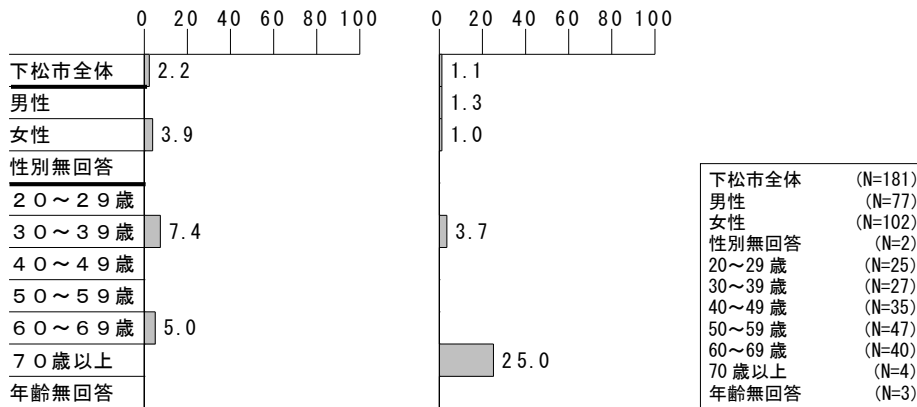
山口県全体と比較すると、「暴力・虐待(家庭内を含む)、脅迫、強要」との回答は6.3ポイント、「地域や職場などでの仲間はずれ(他人からの悪口、かげ口など)」との回答は5.7ポイント、本市が山口県全体をそれぞれ上回っている。反対に「名誉き損、侮辱」との回答では本市が山口県全体を9.2ポイント下回っている。

図4-2-2 人権を侵害されたと思った内容(性別・年齢別)



なんとなく

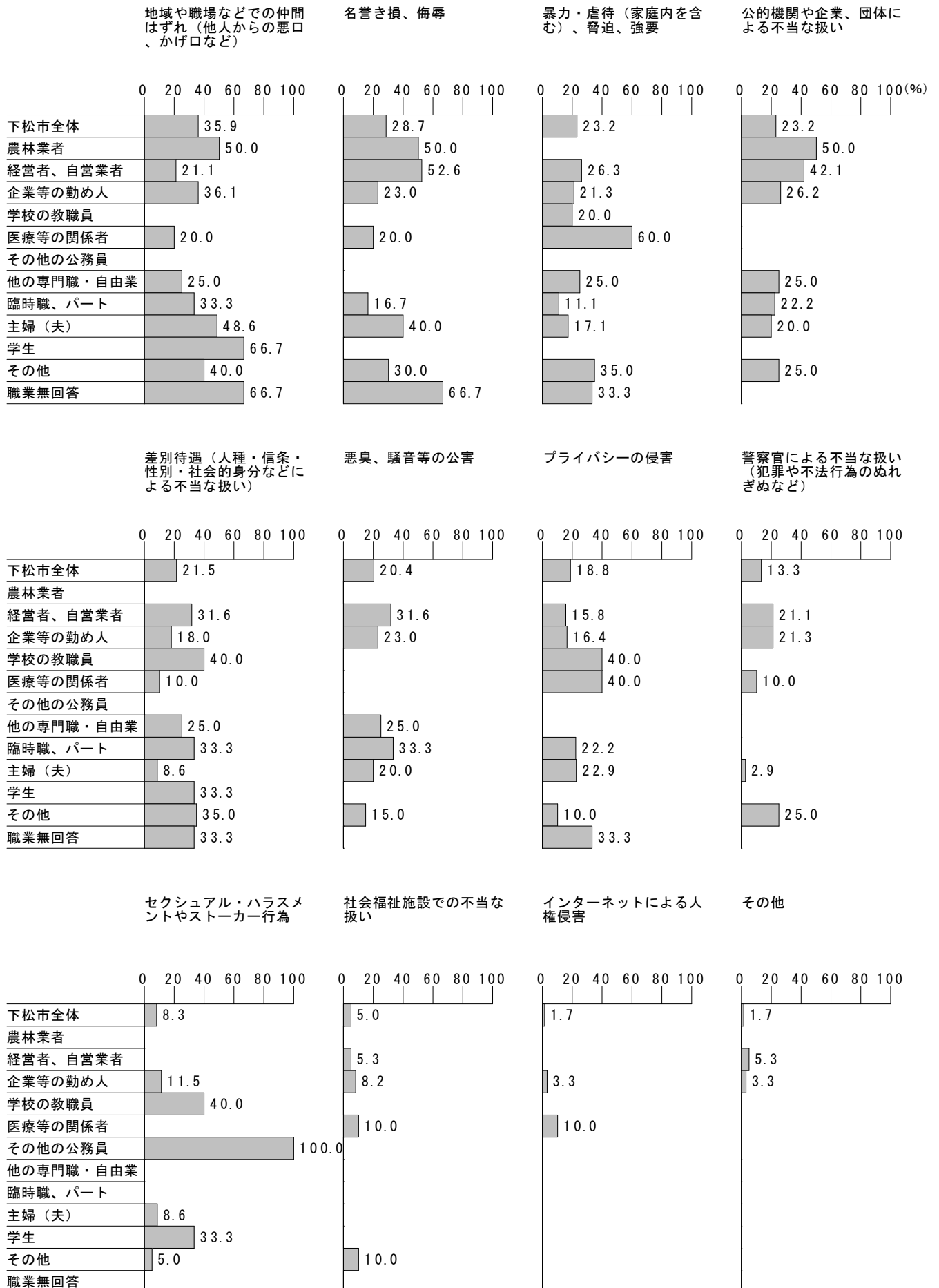
答えたくない



人権を侵害されたと思った内容について、性別にみると、「地域や職場などでの仲間はずれ(他人からの悪口、かげ口など)」との回答は女性が男性を14.9ポイント、「公的機関や企業、団体による不当な扱い」との回答は男性が女性を11.3ポイントそれぞれ上回っている。

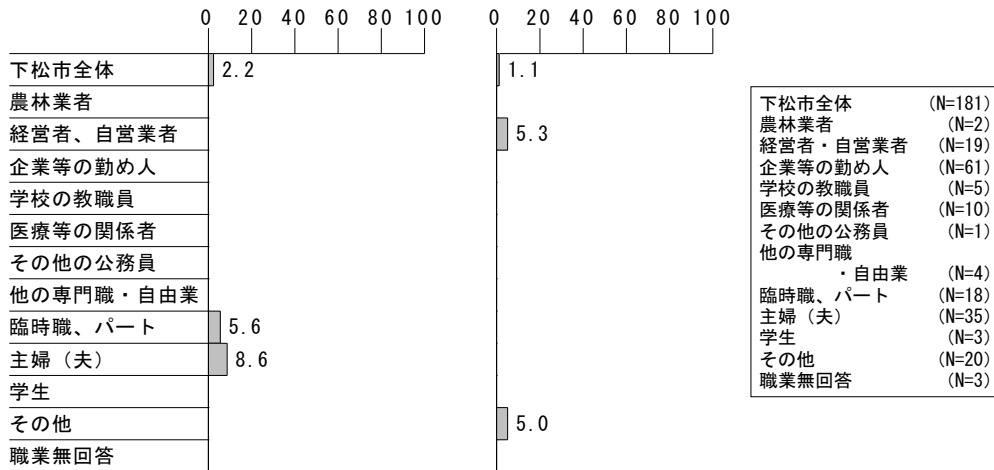
年齢別にみると、「地域や職場などでの仲間はずれ(他人からの悪口、かげ口など)」との回答は30～39歳で、「悪臭、騒音等の公害」との回答は60～69歳でそれぞれ高くなっている。

図4-2-3 人権を侵害されたと思った内容(職業別)



なんとなく

答えたくない



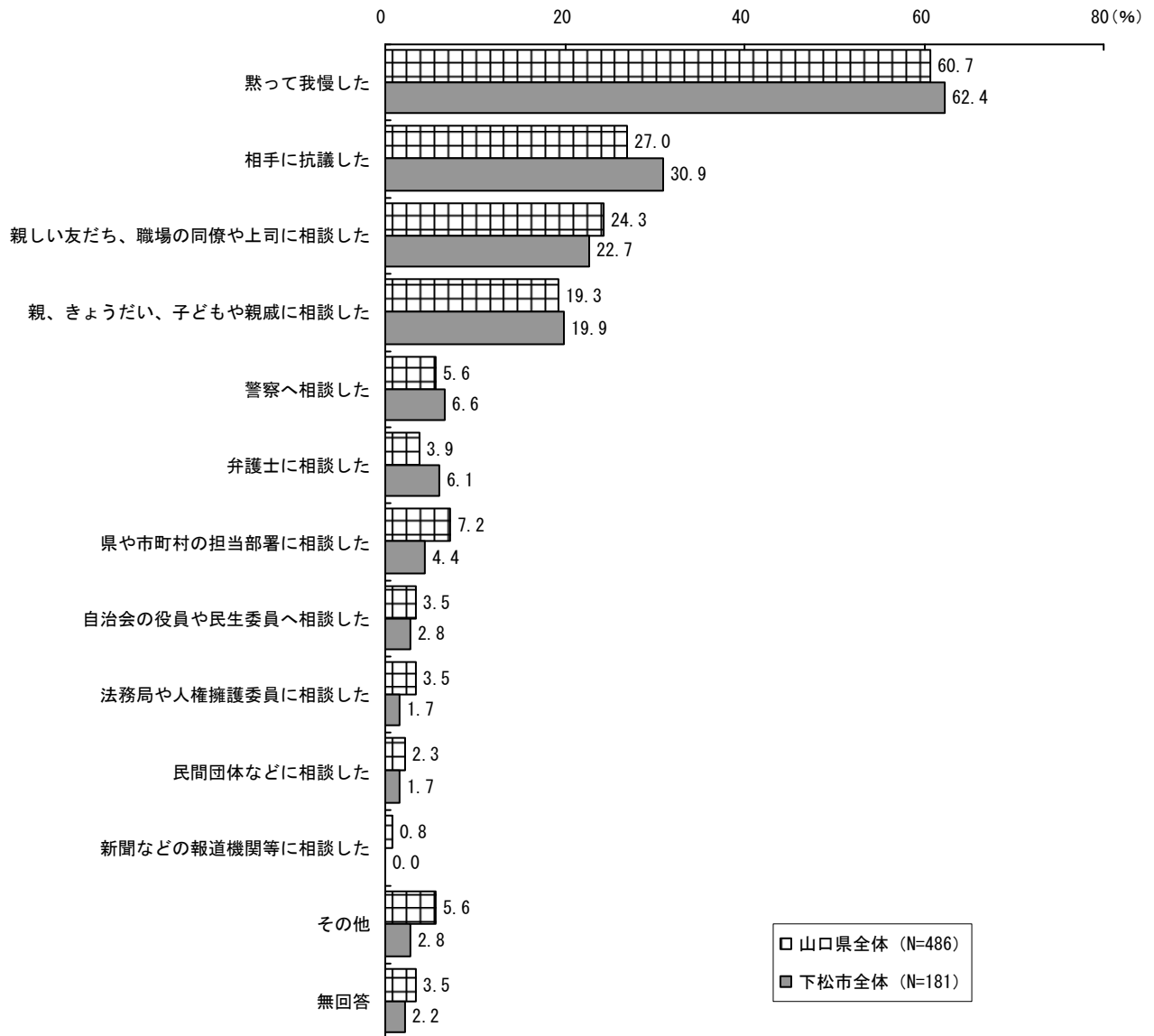
人権を侵害されたと思った内容について、職業別にみると、回答者数は少ないが、「地域や職場などでの仲間はずれ(他人からの悪口、かげ口など)」との回答は学生で、「名誉き損、侮辱」との回答は農林業者、経営者、自営業者で、「暴力・虐待(家庭内を含む)、脅迫、強要」との回答は医療等の関係者でそれぞれ高くなっている。

## (9) 人権を侵害された際の対処法

【問4で「1ある」を選んだ人のみ回答】

(2) そのとき、あなたはどのようにされましたか。(✓はいくつでも)

図4-3-1 人権を侵害された際の対処法(県全体・下松市全体)



人権を侵害された際の対処法について、「黙って我慢した」が62.4%と最も高く、次いで「相手に抗議した」(30.9%)、「親しい友だち、職場の同僚や上司に相談した」(22.7%)、「親、きょうだい、子どもや親戚に相談した」(19.9%)などの順となっているが、公的機関である「警察へ相談した」(6.6%)、「県や市町村の担当部署に相談した」(4.4%)、「法務局や人権擁護委員に相談した」(1.7%)などは1割に満たない。

山口県全体と比較すると、ともに「黙って我慢した」との回答が最も高く上位項目に大きな差はみられない。

図4-3-2 人権を侵害された際の対処法(性別・年齢別)



人権を侵害された際の対処法について、性別にみると、「黙って我慢した」との回答は女性が男性を9.6ポイント上回っている。

年齢別にみると、「相手に抗議した」との回答は40~49歳で、「親しい友だち、職場の同僚や上司に相談した」、「親、きょうだい、子どもや親戚に相談した」との回答は30~39歳でそれぞれ高くなっている。



図4-3-3 人権を侵害された際の対処法(職業別)



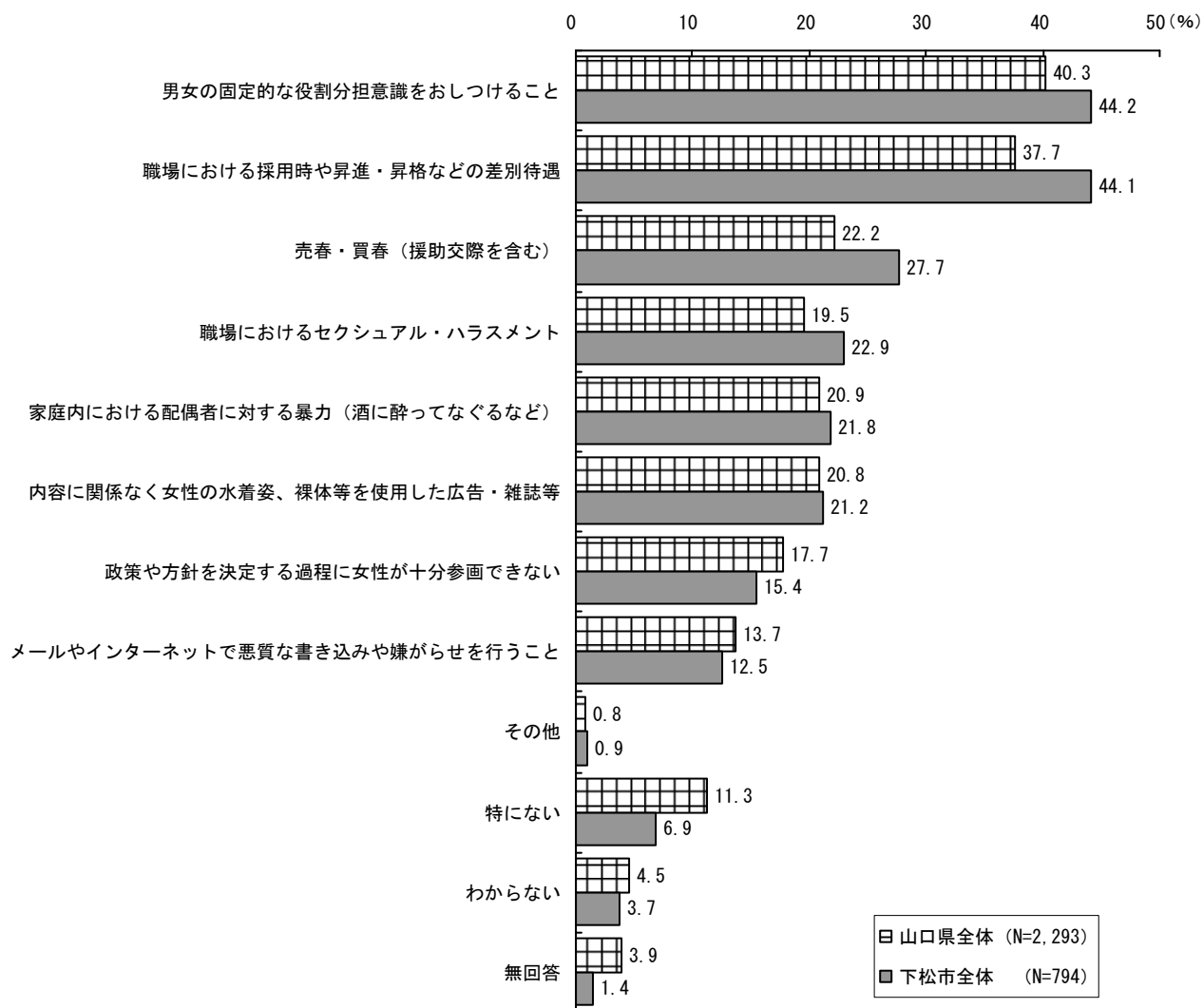
下松市全体 (N=181)  
 農林業者 (N=2)  
 経営者・自営業者 (N=19)  
 企業等の勤め人 (N=61)  
 学校の教職員 (N=5)  
 医療等の関係者 (N=10)  
 その他の公務員 (N=1)  
 他の専門職・自由業 (N=4)  
 臨時職、パート (N=18)  
 主婦(夫) (N=35)  
 学生 (N=3)  
 その他 (N=20)  
 職業無回答 (N=3)

人権を侵害された際の対処法について、職業別にみると、いずれの職業においても回答者数が少ないが農林業者、学校の教職員、その他の公務員を除く職業で「黙って我慢した」との回答が最も高くなっている。

## 2 女性の人権について

問5 あなたは、女性に関することからで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

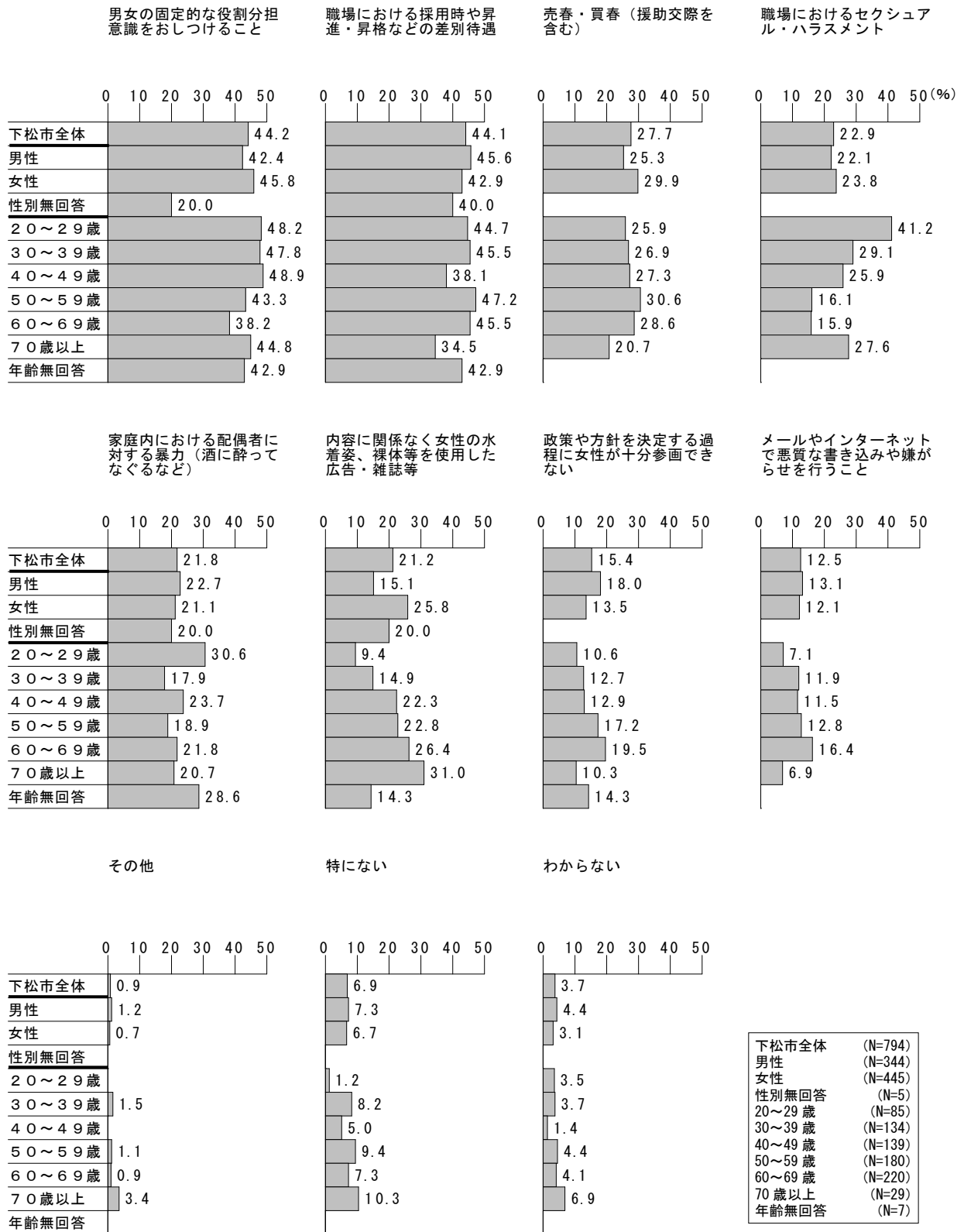
図5-1 女性に関する人権上の問題点(県全体・下松市全体)



女性に関する人権上の問題点について、「男女の固定的な役割分担意識をおしつけること」(44.2%)、「職場における採用時や昇進・昇格などの差別待遇」(44.1%)との回答が4割を超え高くなっており、「売春・買春(援助交際を含む)」、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」、「家庭内における配偶者に対する暴力(酒に酔ってなぐるなど)」、「内容に関係なく、女性の水着姿、裸体等を使用した広告・雑誌等」などが2割を超えている。

山口県全体と比較すると、「職場における採用時や昇進・昇格などの差別待遇」との回答は本市が山口県全体を6.4ポイント上回っている。

図5-2 女性に関する人権上の問題点(性別・年齢別)

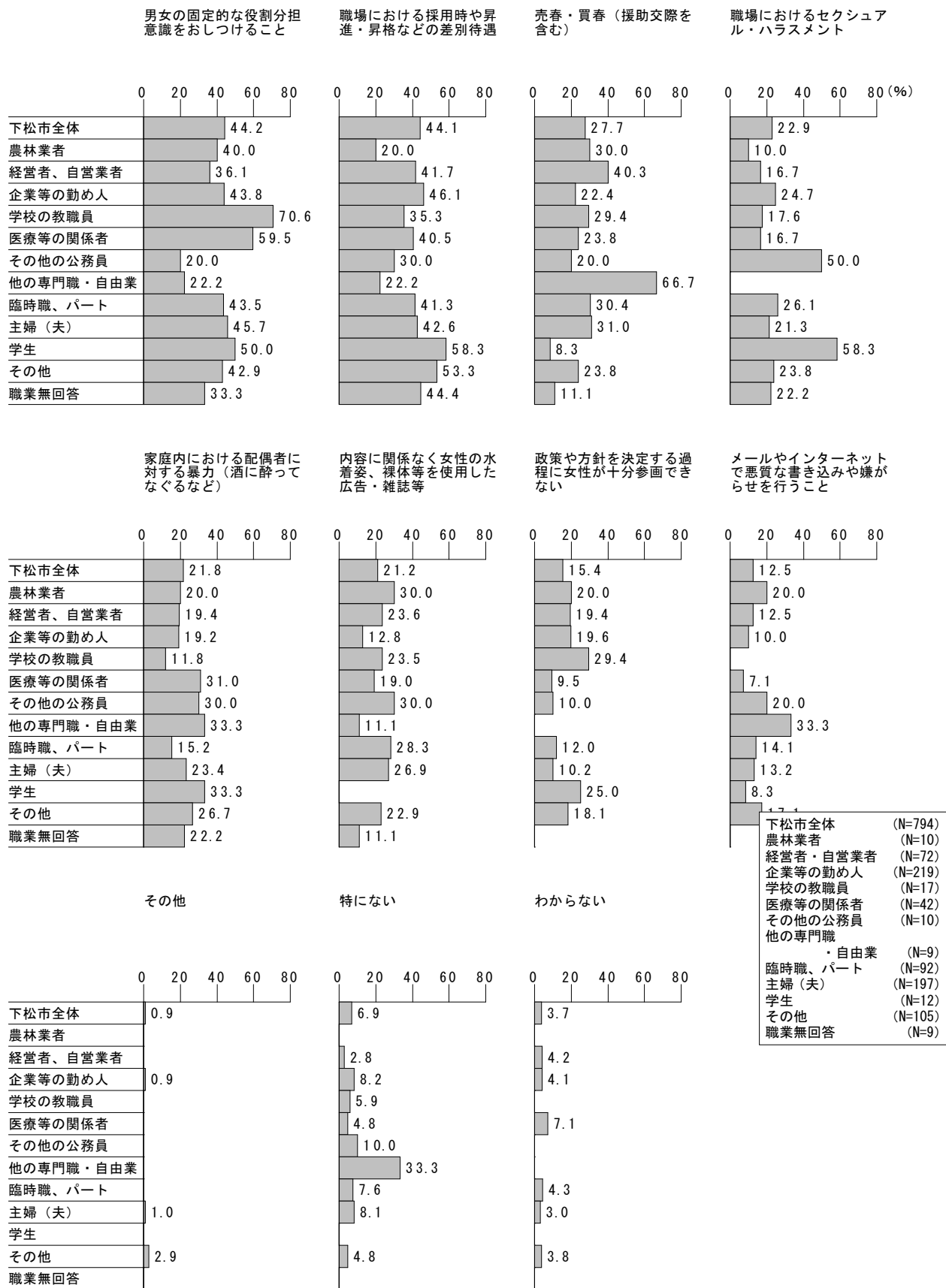


下松市全体 (N=794)  
 男性 (N=344)  
 女性 (N=445)  
 性別無回答 (N=5)  
 20~29歳 (N=85)  
 30~39歳 (N=134)  
 40~49歳 (N=139)  
 50~59歳 (N=180)  
 60~69歳 (N=220)  
 70歳以上 (N=29)  
 年齢無回答 (N=7)

女性に関する人権上の問題点について、性別にみると、「内容に関係なく女性の水着姿、裸体等を使用した広告・雑誌等」との回答は女性が男性を 10.7 ポイント、「政策や方針を決定する過程に女性が十分参画できない」との回答は男性が女性を 4.5 ポイントそれぞれ上回っている。

年齢別にみると、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」、「家庭内における配偶者に対する暴力(酒に酔ってなぐるなど)」との回答は 20~29 歳で、「内容に関係なく女性の水着姿、裸体等を使用した広告・雑誌等」との回答は 70 歳以上でそれぞれ高くなっている。

図5-3 女性に関する人権上の問題点(職業別)



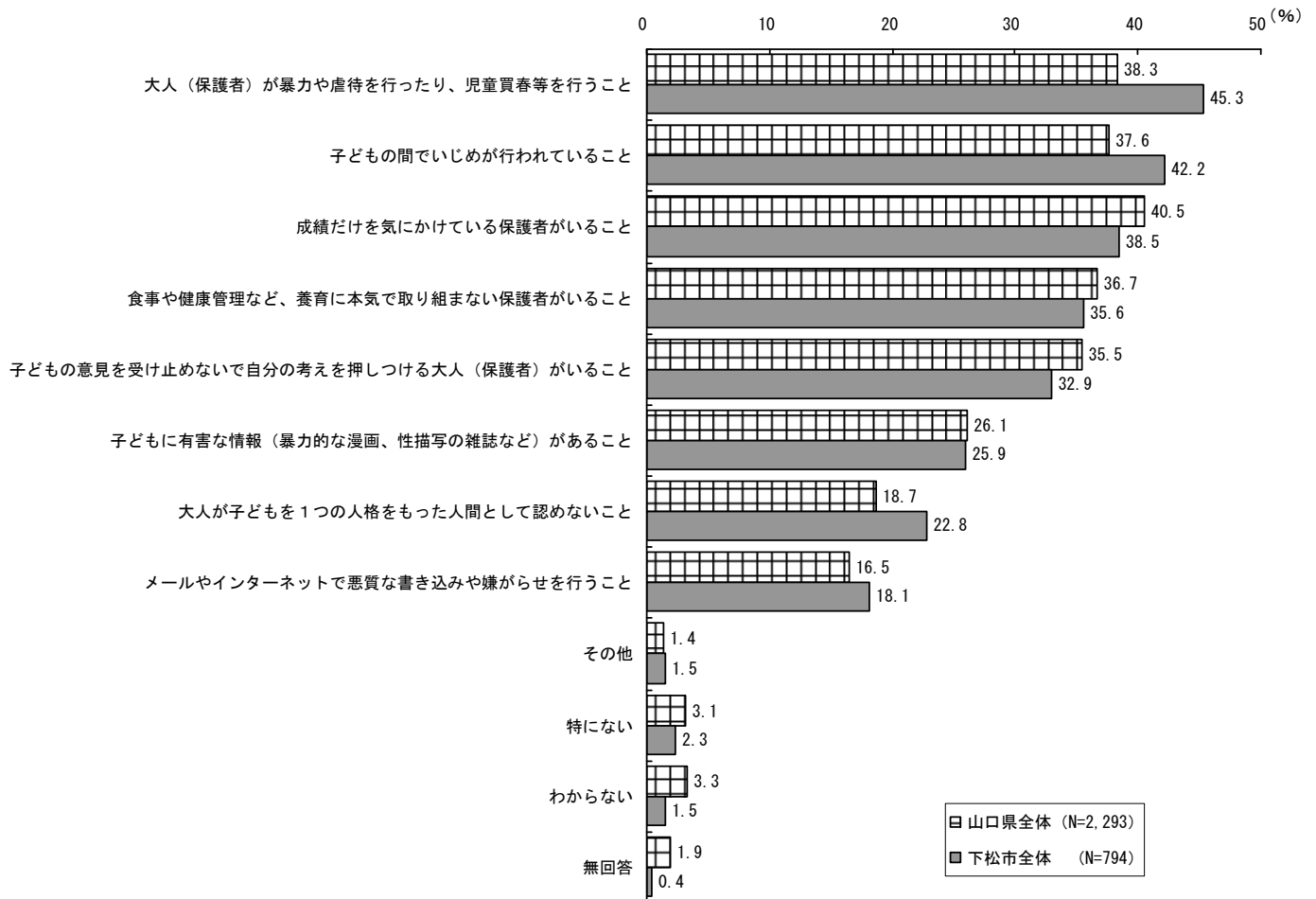
下松市全体 (N=794)  
 農林業者 (N=10)  
 経営者・自営業者 (N=72)  
 企業等の勤め人 (N=219)  
 学校の教職員 (N=17)  
 医療等の関係者 (N=42)  
 その他の公務員 (N=10)  
 他の専門職・自由業 (N=9)  
 臨時職、パート (N=92)  
 主婦 (夫) (N=197)  
 学生 (N=12)  
 その他 (N=105)  
 職業無回答 (N=9)

女性に関する人権上の問題点について、職業別にみると、「男女の固定的な役割分担意識をおしつけること」との回答は学校の職員で、「職場における採用時や昇進・昇格などの差別待遇」との回答は学生で、「売春・買春 (援助交際を含む)」、との回答は他の専門職・自由業で、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」との回答は学生、その他の公務員でそれぞれ高くなっている。

### 3 子どもの人権について

問6 あなたは、子どもに関することから、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

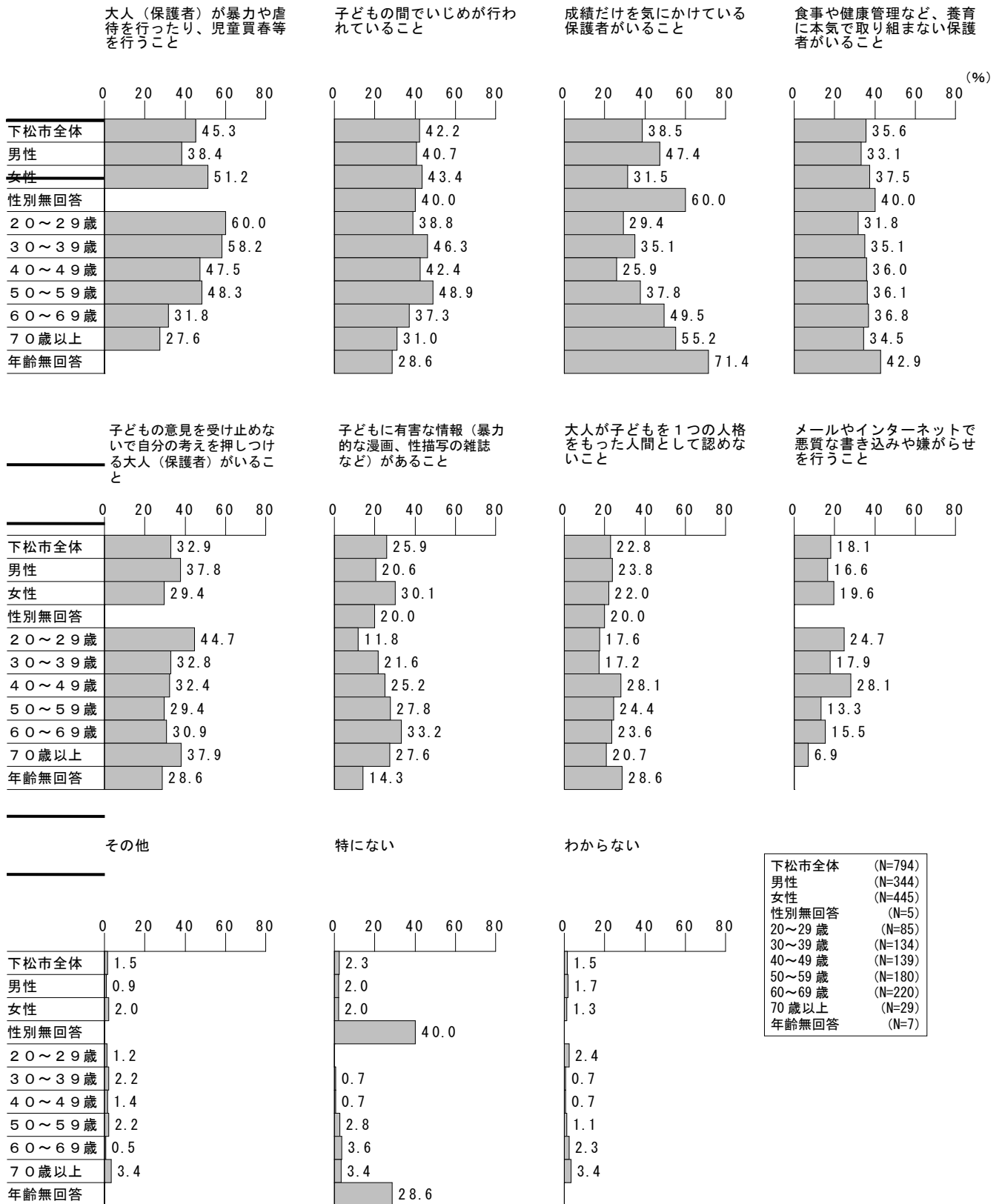
図6-1 子どもに関する人権上の問題点(県全体・下松市全体)



子どもに関する人権上の問題点について、「大人(保護者)が暴力や虐待を行ったり、児童買春等を行うこと」(45.3%)、「子どもの間でいじめが行われていること」(42.2%)との回答が4割を超え高く、次いで「成績だけを気にかけている保護者がいること」(38.5%)、「食事や健康管理など、養育に本気で取り組まない保護者がいること」(35.6%)、「子どもの意見を受け止めないで自分の考えを押しつける大人(保護者)がいること」(32.9%)などの順となっている。

山口県全体と比較すると、「大人(保護者)が暴力や虐待を行ったり、児童買春等を行うこと」との回答は7.0ポイント、「子どもの間でいじめが行われていること」との回答は4.6ポイント、本市が山口県全体をそれぞれ上回っている。

図6-2 子どもに関する人権上の問題点(性別・年齢別)

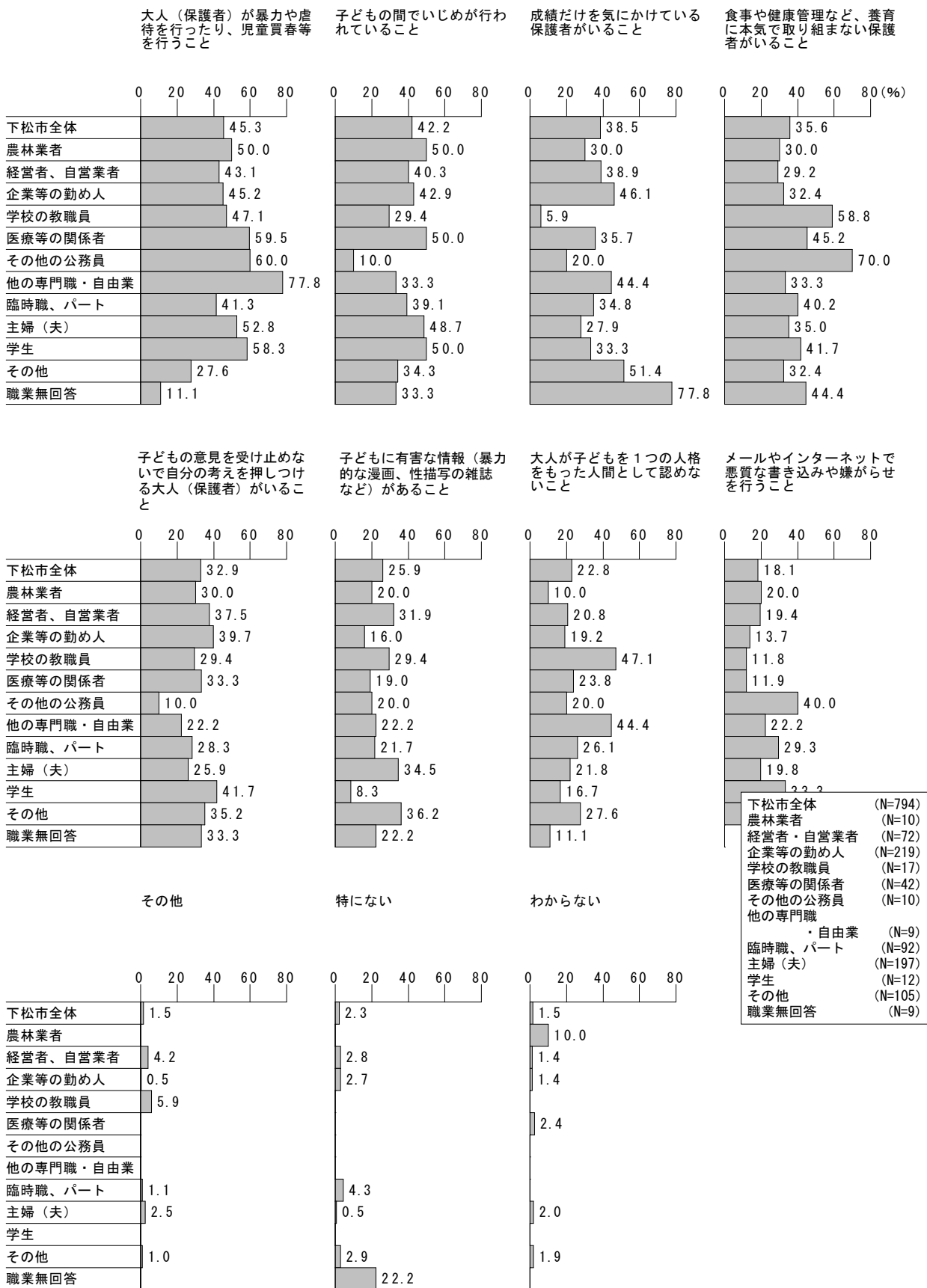


下松市全体 (N=794)  
 男性 (N=344)  
 女性 (N=445)  
 性別無回答 (N=5)  
 20~29歳 (N=85)  
 30~39歳 (N=134)  
 40~49歳 (N=139)  
 50~59歳 (N=180)  
 60~69歳 (N=220)  
 70歳以上 (N=29)  
 年齢無回答 (N=7)

子どもに関する人権上の問題点について、性別にみると、「成績だけを気にしている保護者がいること」との回答は男性が女性を15.9ポイント、「大人(保護者)が暴力や虐待を行ったり、児童買春等を行うこと」との回答は女性が男性を12.8ポイントそれぞれ上回っている。

年齢別にみると、「大人(保護者)が暴力や虐待を行ったり、児童買春等を行うこと」との回答は20~29歳、30~39歳で、「成績だけを気にしている保護者がいること」との回答は60~69歳、70歳以上でそれぞれ高くなっている。

図6-3 子どもに関する人権上の問題点(職業別)

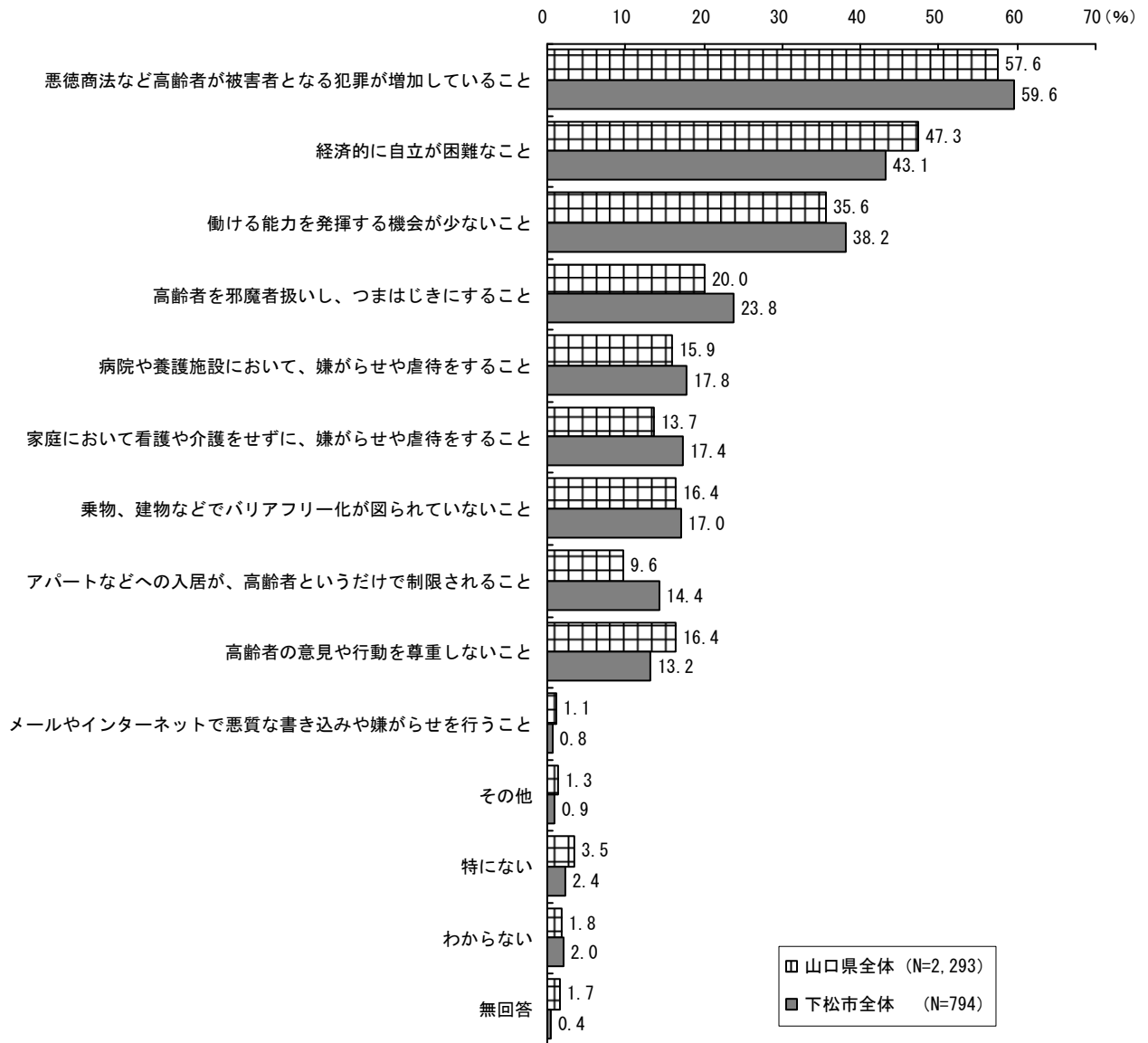


子どもに関する人権上の問題点について、職業別にみると、「大人(保護者)が暴力や虐待を行ったり、児童買春等を行うこと」との回答は他の専門職・自由業で、「成績だけを気にしている保護者がいること」との回答は企業等の勤め人、他の専門職・自由業で、「食事や健康管理など、養育に本気で取り組まない保護者がいること」との回答はその他の公務員でそれぞれ高くなっている。

## 4 高齢者の人権について

問7 あなたは、高齢者に関することから、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

図7-1 高齢者に関する人権上の問題点(県全体・下松市全体)



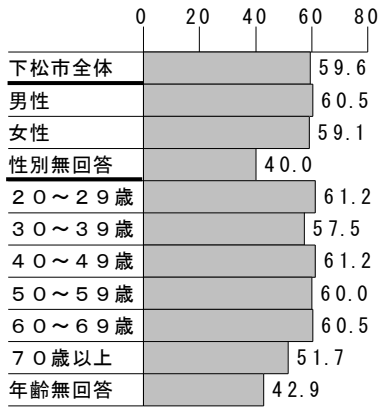
高齢者に関する人権上の問題点について、「悪徳商法など高齢者が被害者となる犯罪が増加していること」が59.6%で最も高く、次いで「経済的に自立が困難なこと」(43.1%)、「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」(38.2%)などの順となっている。

山口県全体と比較すると、「経済的に自立が困難なこと」との回答は本市が山口県全体を4.2ポイント下回っている。

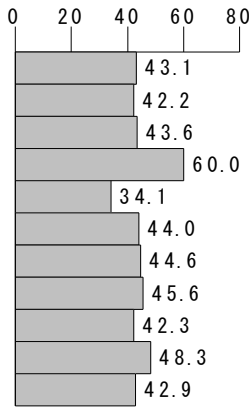


図7-2 高齢者に関する人権上の問題点(性別・年齢別)

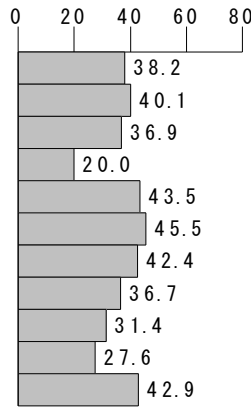
悪徳商法など高齢者が被害者となる犯罪が増加していること



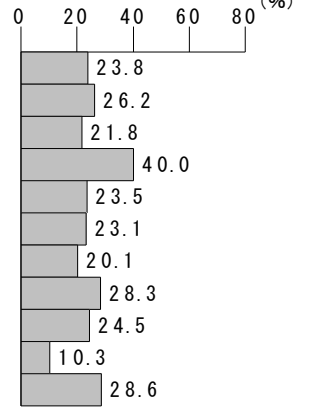
経済的に自立が困難なこと



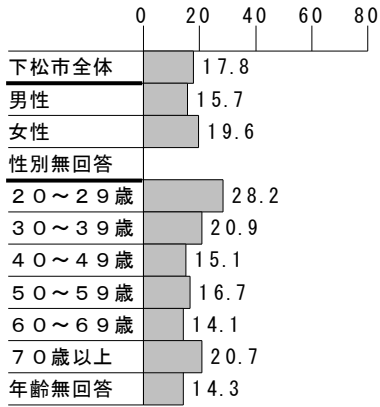
働ける能力を発揮する機会が少ないこと



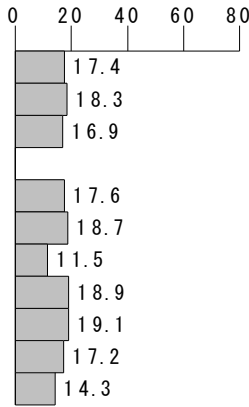
高齢者を邪魔者扱い、つまはじきすること



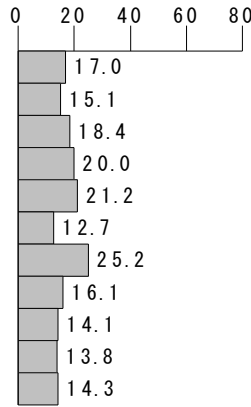
病院や養護施設において、嫌がらせや虐待をすること



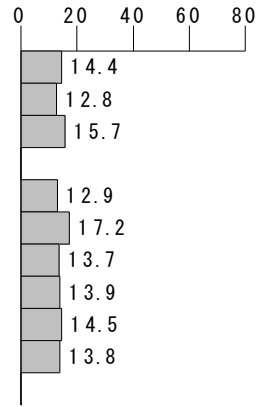
家庭において看護や介護をせずに、嫌がらせや虐待をすること



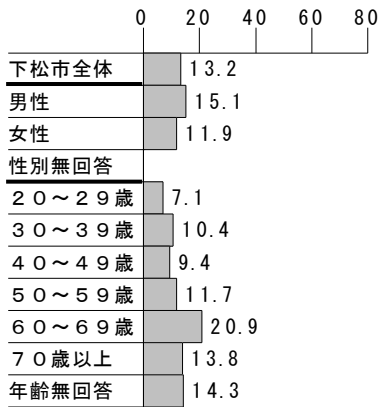
乗物、建物などでバリアフリー化が図られていないこと



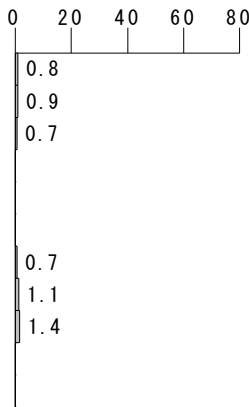
アパートなどへの入居が、高齢者というだけで制限されること



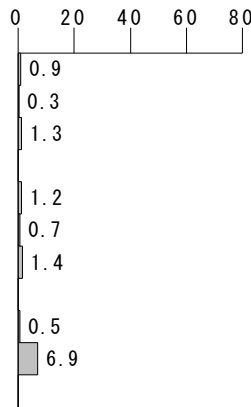
高齢者の意見や行動を尊重しないこと



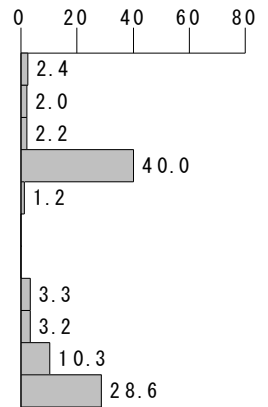
メールやインターネットで悪質な書き込みや嫌がらせを行うこと



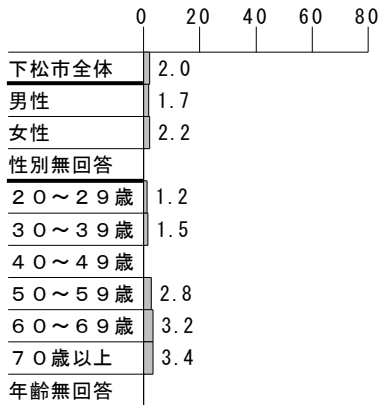
その他



特になし



わからない

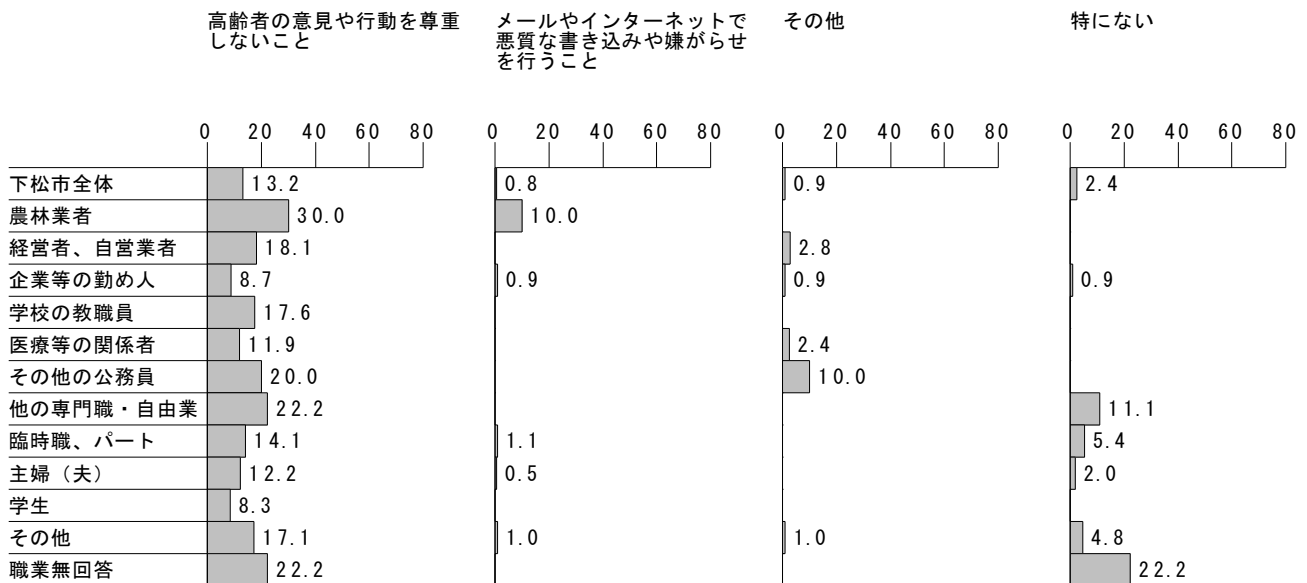
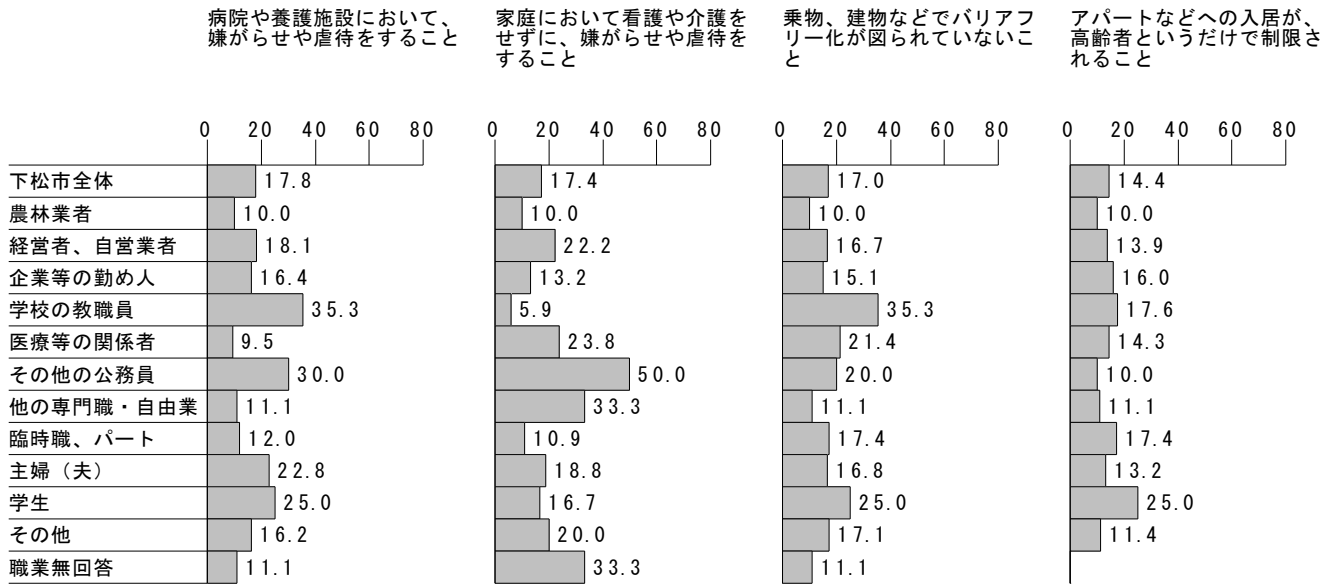
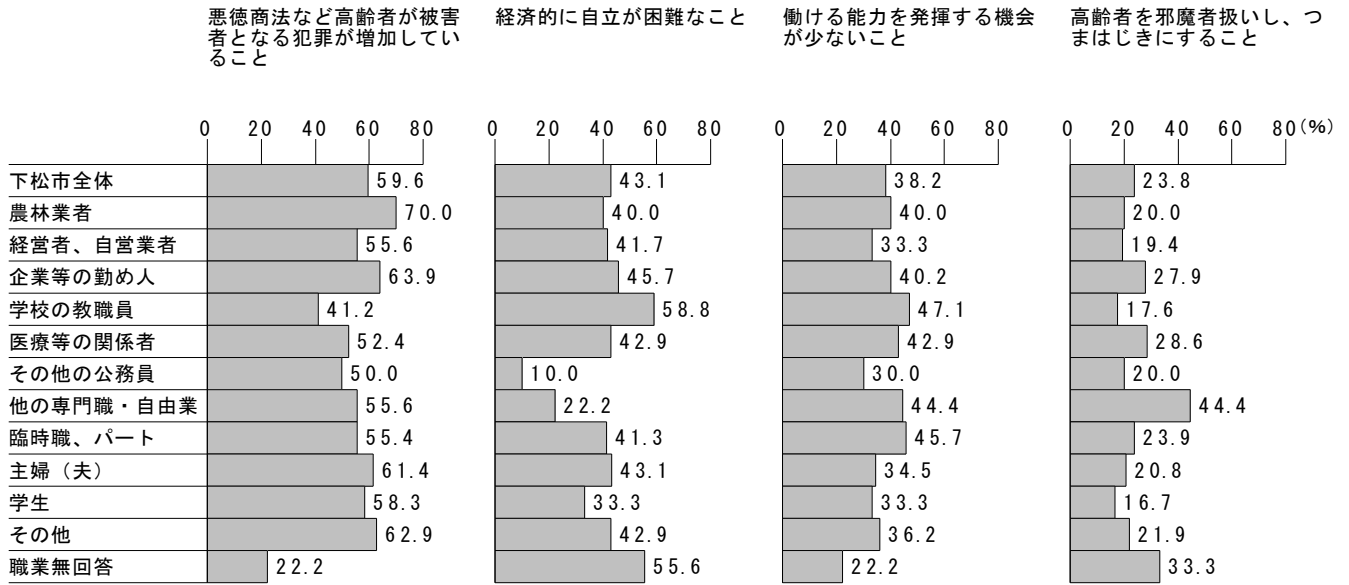


下松市全体	(N=794)
男性	(N=344)
女性	(N=445)
性別無回答	(N=5)
20~29歳	(N=85)
30~39歳	(N=134)
40~49歳	(N=139)
50~59歳	(N=180)
60~69歳	(N=220)
70歳以上	(N=29)
年齢無回答	(N=7)

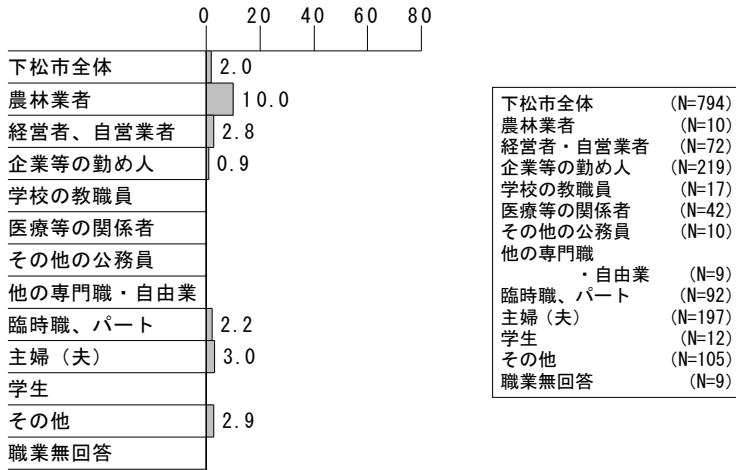
高齢者に関する人権上の問題点について、性別にみると、男女ともに「悪徳商法など高齢者が被害者となる犯罪が増加していること」との回答が最も高く、大きな差はみられない。

年齢別にみると、いずれの年齢においても「悪徳商法など高齢者が被害者となる犯罪が増加していること」との回答が最も高くなっている。また、「病院や養護施設において、嫌がらせや虐待をすること」との回答は20~29歳で、「乗物、バリアフリー化が図られていないこと」との回答は40~49歳で、「高齢者の意見や行動を尊重しないこと」との回答は60~69歳でそれぞれ高くなっている。

図7-3 高齢者に関する人権上の問題点(職業別)



わからない

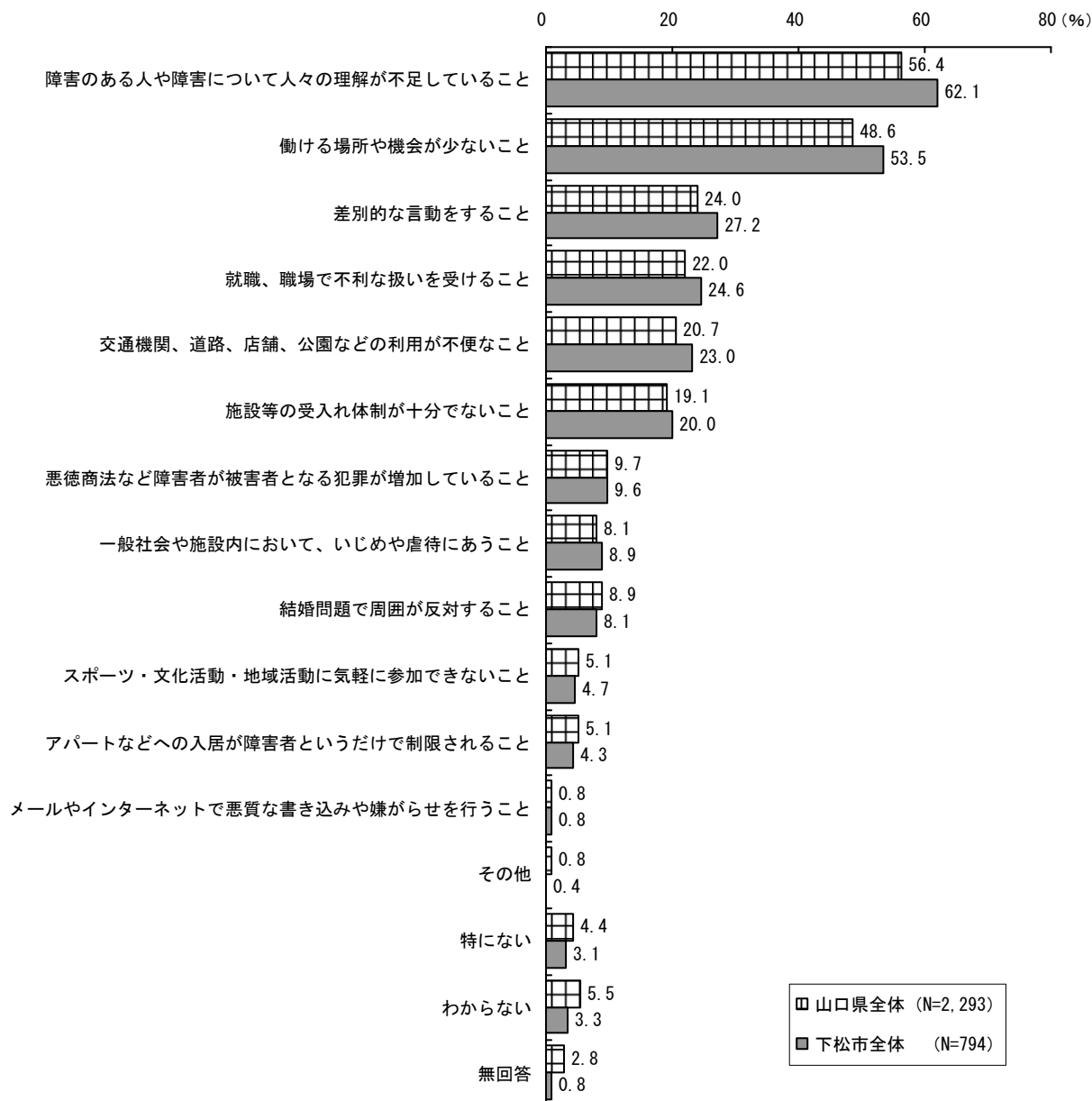


高齢者に関する人権上の問題点について、学校の教職員を除くすべての職業で「悪徳商法など高齢者が被害者となる犯罪が増加していること」との回答が5割を超えて最も高くなっている。また、「経済的に自立が困難なこと」、「病院や養護施設において、嫌がらせや虐待をすること」、「乗物、バリアフリー化が図られていないこと」との回答は学校の教職員で、「高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにすること」との回答は他の専門職・自由業でそれぞれ高くなっている。

## 5 障害のある人の人権について

問8 あなたは、障害のある人に関することがらで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

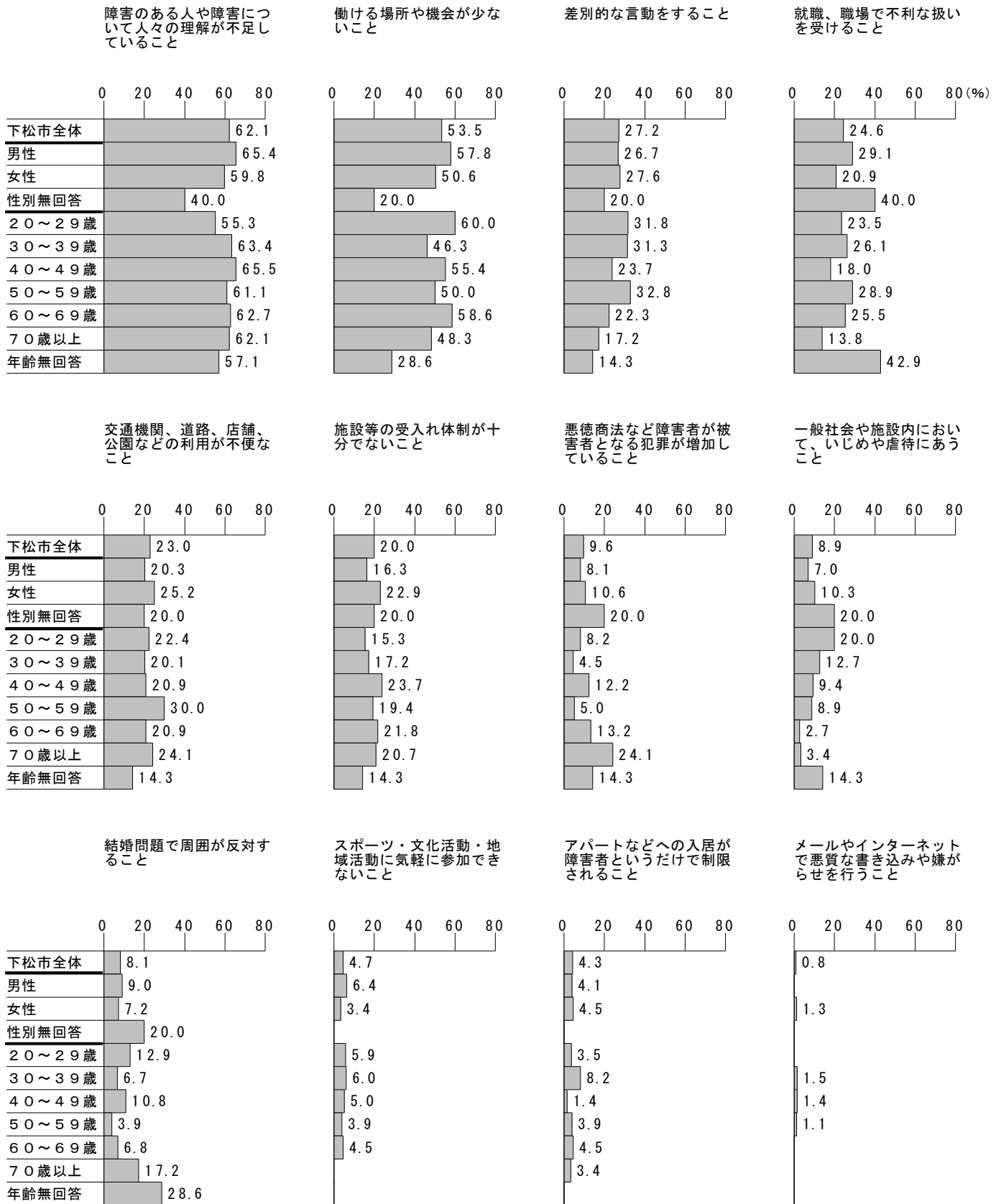
図8-1 障害のある人に関する人権上の問題点(県全体・下松市全体)

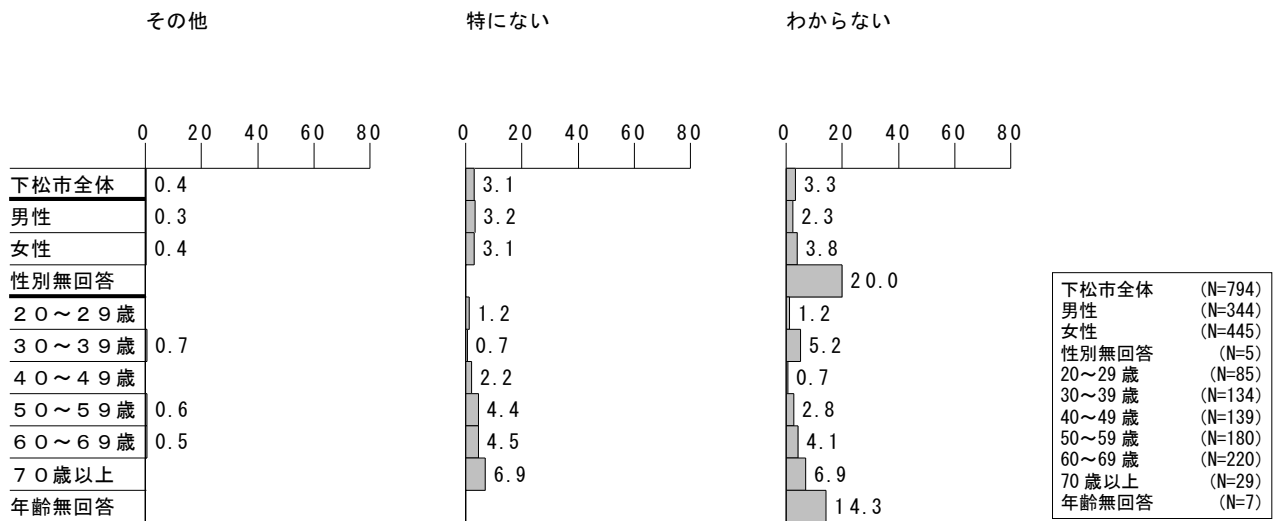


障害のある人に関する人権上の問題点について、「障害のある人や障害について人々の理解が不足していること」が62.1%と最も高く、次いで「働ける場所や機会が少ないこと」(53.5%)、「差別的な言動をすること」(27.2%)、「就職、職場で不利な扱いを受けること」(24.6%)、「交通機関、道路、店舗、公園などの利用が不便なこと」(23.0%)などの順となっている。

山口県全体と比較すると、「障害のある人や障害について人々の理解が不足していること」との回答は5.7ポイント、「働ける場所や機会が少ないこと」との回答は4.9ポイント、本市が山口県全体をそれぞれ上回っている。

図8-2 障害のある人に関する人権上の問題点(性別・年齢別)

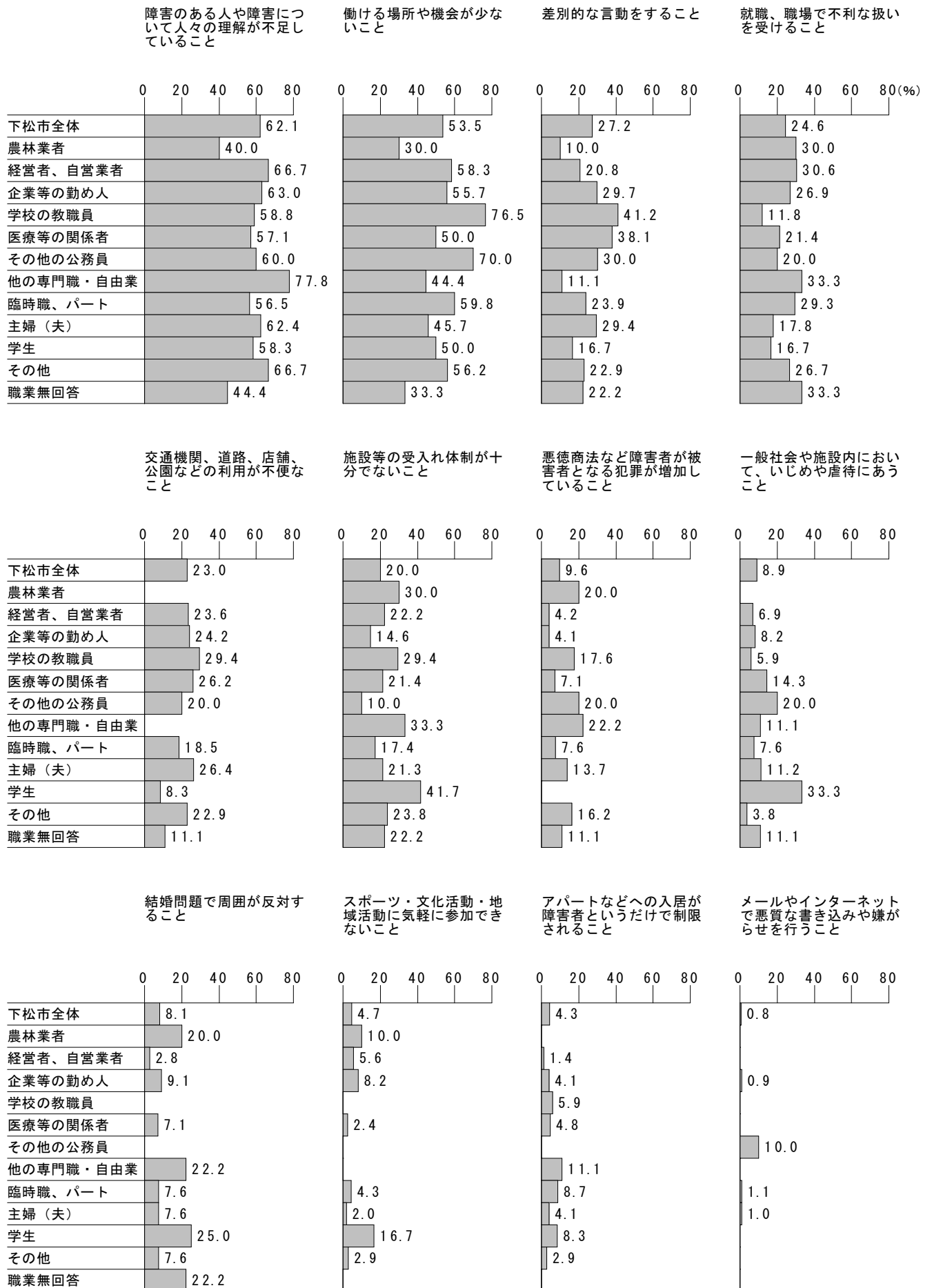




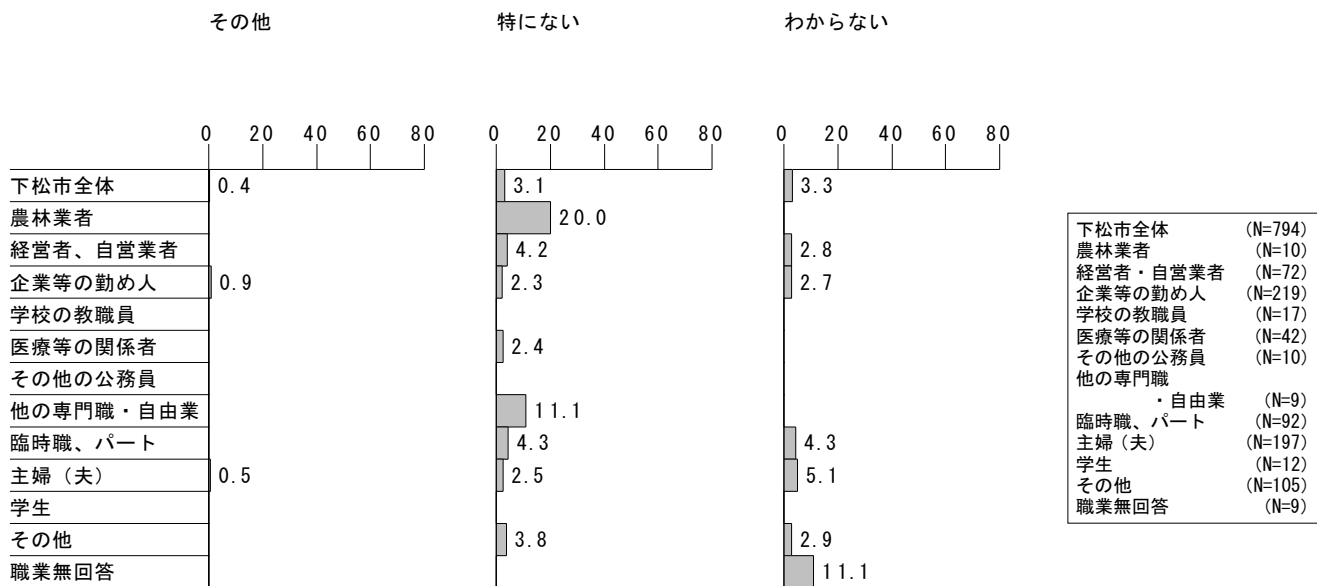
障害のある人に関する人権上の問題点について、性別にみると、「就職、職場で不利な扱いを受けること」との回答では 8.2 ポイント、「働ける場所や機会が少ないこと」との回答は 7.2 ポイント、「障害のある人や障害について人々の理解が不足していること」との回答は 5.6 ポイント、男性が女性をそれぞれ上回っている。反対に「施設等の受入れ体制が十分でないこと」との回答は女性が男性を 6.6 ポイント上回っている。

年齢別にみると、20～29 歳を除くすべての年齢で「障害のある人や障害について人々の理解が不足していること」との回答が 6 割を超え最も高くなっている。また、「働ける場所や機会が少ないこと」との回答は 20～29 歳、60～69 歳で、「交通機関、道路、店舗、公園などの利用が不便なこと」との回答は 50～59 歳でそれぞれ高くなっている。

図8-3 障害のある人に関する人権上の問題点(職業別)







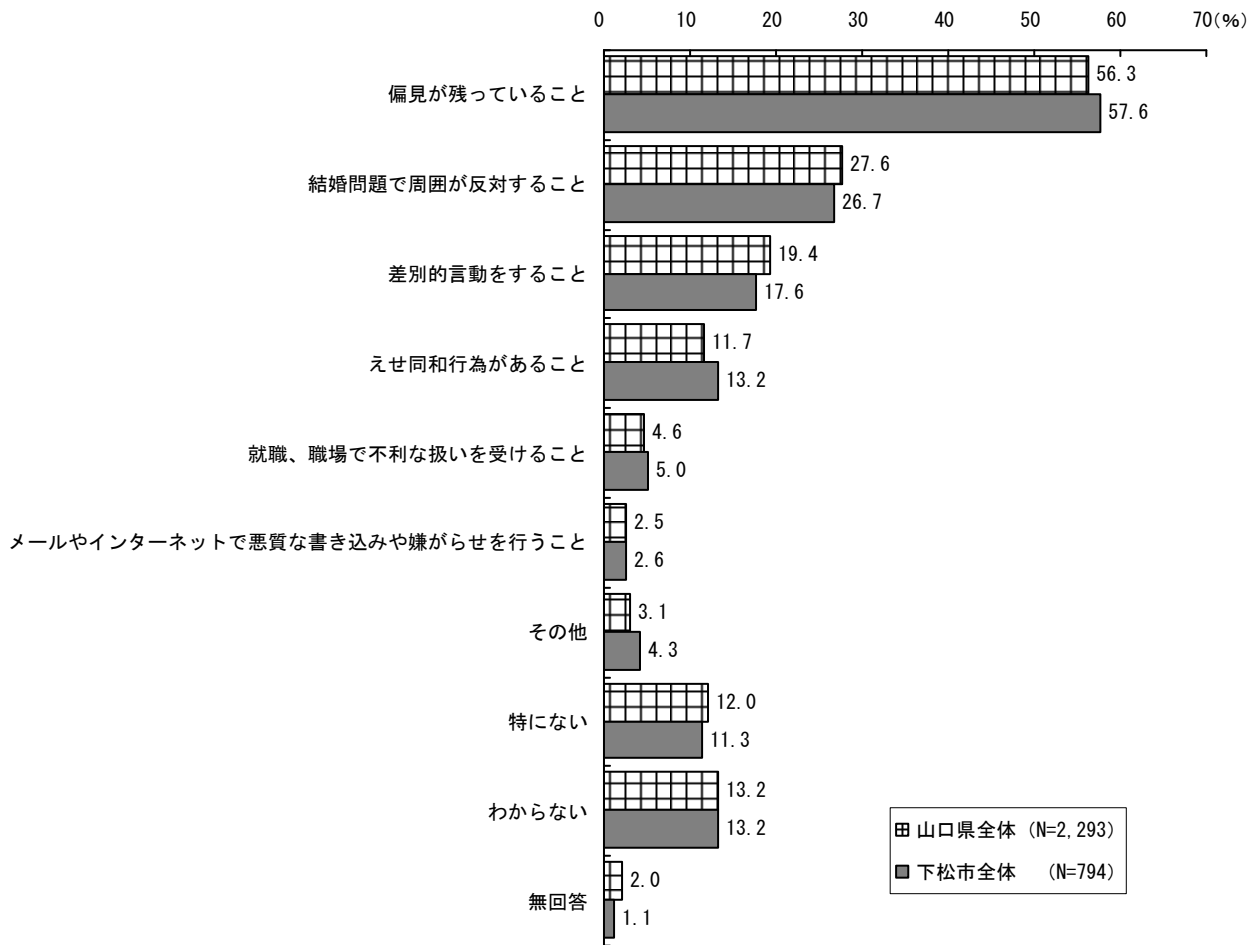
障害のある人に関する人権上の問題点について職業別にみると、農林業者を除くすべての職業で「障害のある人や障害について人々の理解が不足していること」との回答が5割を超え、他の専門職・自由業では7割を超えている。また、「働ける場所や機会が少ないこと」との回答は学校の教職員、その他の公務員で、「差別的な言動をすること」との回答は学校の教職員で、「施設の受入れ体制が十分でないこと」、「一般社会や施設内において、いじめや虐待にあうこと」との回答は学生でそれぞれ高くなっている。

## 6 同和問題について

### (1) 同和問題に関する人権上の問題点

問9 山口県では、県民一人ひとりが同和問題に対する正しい理解を深め、主体的に取り組むことができるよう、人権尊重の視点に立った教育・啓発活動を推進していますが、あなたは、同和問題の解決に関して、現在、どのような問題があると思われますか。  
(✓は2つまで)

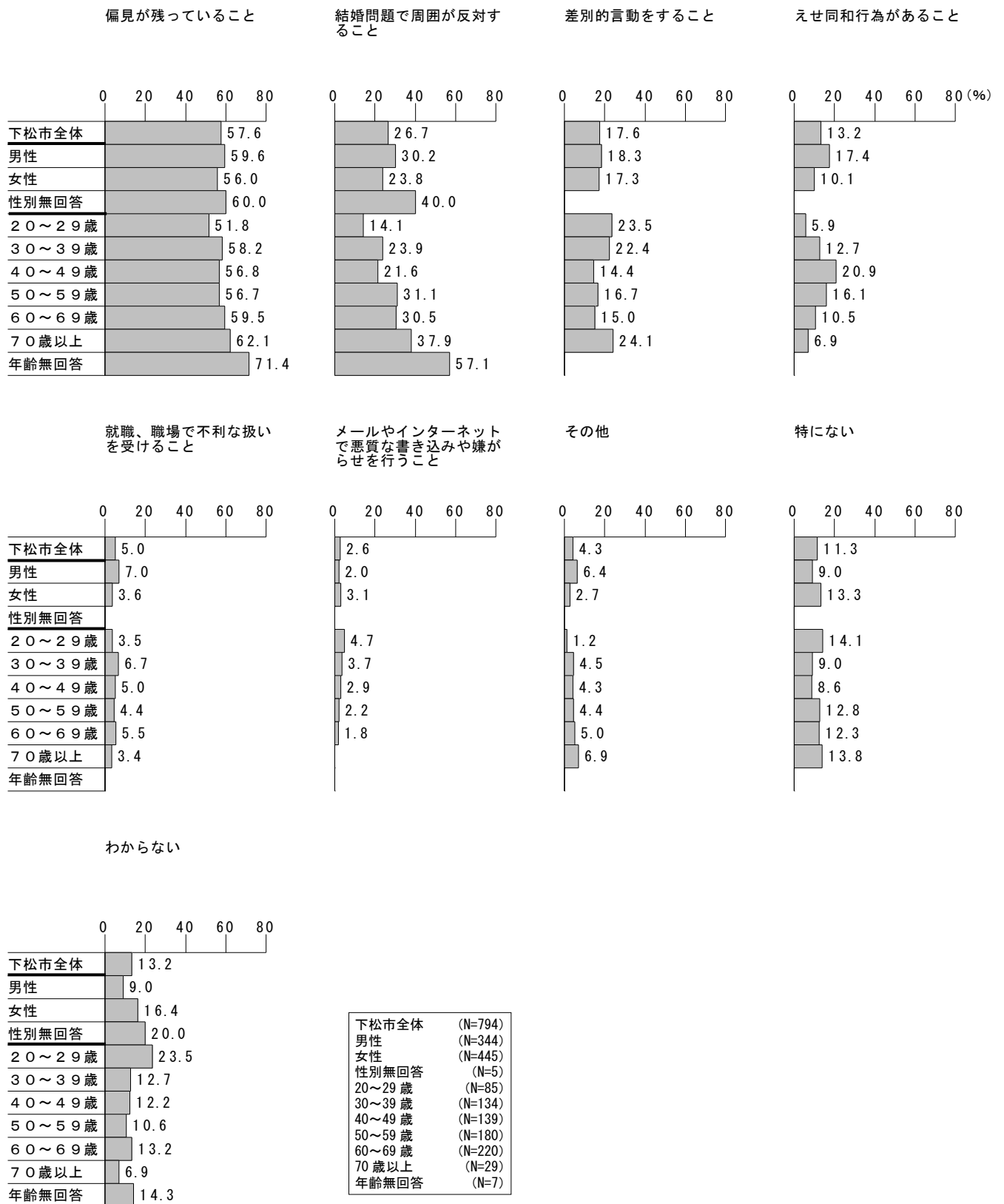
図9-1 同和問題に関する人権上の問題点(県全体・下松市全体)



同和問題に関する人権上の問題点について、「偏見が残っていること」が57.6%で最も高く、次いで「結婚問題で周囲が反対すること」(26.7%)、「差別的言動をすること」(17.6%)、「えせ同和行為があること」(13.2%)などの順となっている。

山口県全体と比較すると、大きな差はみられない。

図9-2 同和問題に関する人権上の問題点(性別・年齢別)



同和問題に関する人権上の問題点について、性別にみると、「えせ同和行為があること」との回答は7.3ポイント、「結婚問題で周囲が反対すること」との回答は6.4ポイント、男性が女性をそれぞれ上回っている。

年齢別にみると、「結婚問題で周囲が反対すること」との回答は70歳以上で、「えせ同和行為があること」との回答は40~49歳でそれぞれ高くなっている。また、20~29歳では「わからない」との回答も2割を超えている。

下松市全体	(N=794)
男性	(N=344)
女性	(N=445)
性別無回答	(N=5)
20~29歳	(N=85)
30~39歳	(N=134)
40~49歳	(N=139)
50~59歳	(N=180)
60~69歳	(N=220)
70歳以上	(N=29)
年齢無回答	(N=7)

図9-3 同和問題に関する人権上の問題点(職業別)

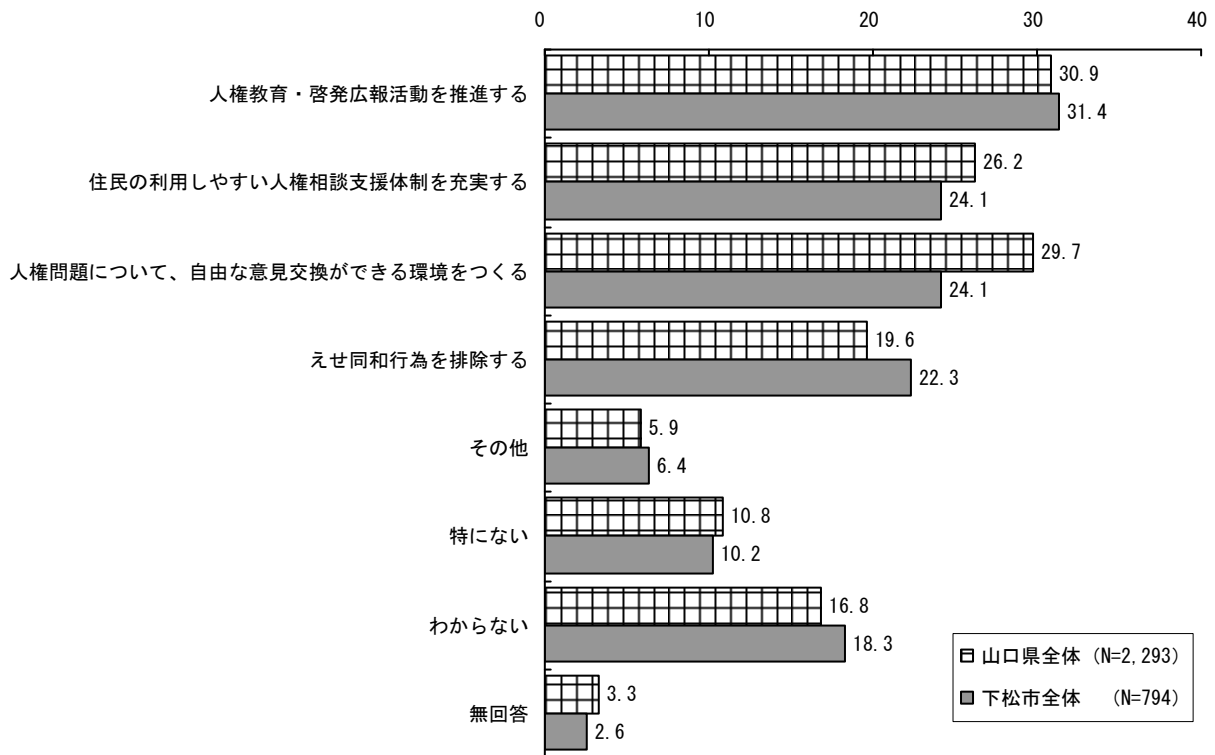


同和問題に関する人権上の問題点について、職業別にみると、その他の公務員、臨時職、パートを除くすべての職業で「偏見が残っていること」との回答が5割を超え、農林業者では7割となっている。「差別的言動をすること」、「えせ同和行為があること」との回答はその他の公務員で高くなっている。

## (2) 同和問題の解決に必要なこと

問10 あなたは、同和問題の解決に必要なことはどのようなことだと思われませんか。  
(✓は2つまで)

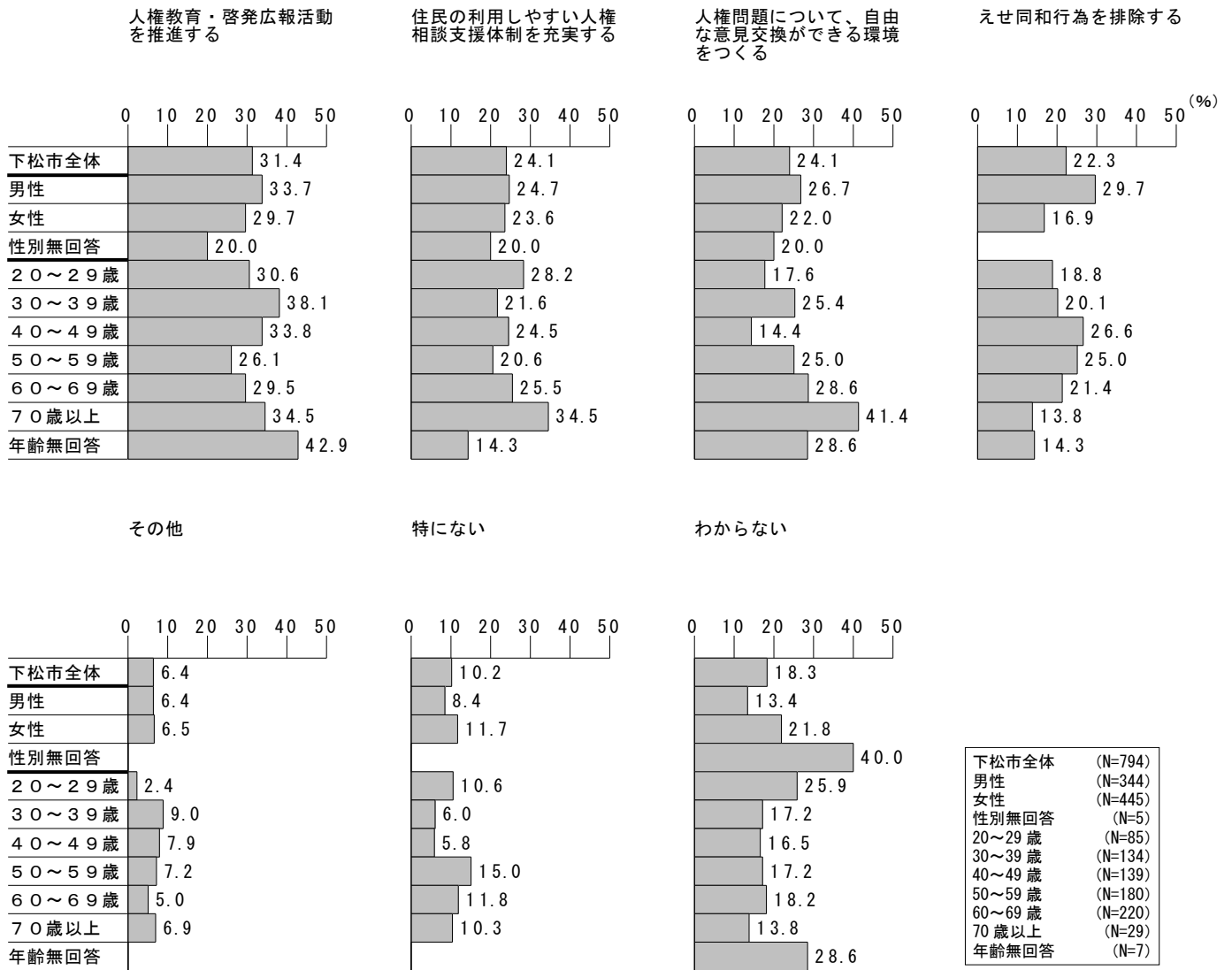
図10-1 同和問題の解決に必要なこと(県全体・下松市全体)



同和問題の解決に必要なことについて、「人権教育・啓発広報活動を推進する」が31.4%と最も高く、次いで「住民の利用しやすい人権相談支援体制を充実する」(24.1%)、「人権問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる」(24.1%)、「えせ同和行為を排除する」(22.3%)などの順となっている。

山口県全体と比較すると、「人権問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる」との回答は本市が山口県全体を5.6ポイント下回っている。

図10-2 同和問題の解決に必要なこと(性別・年齢別)

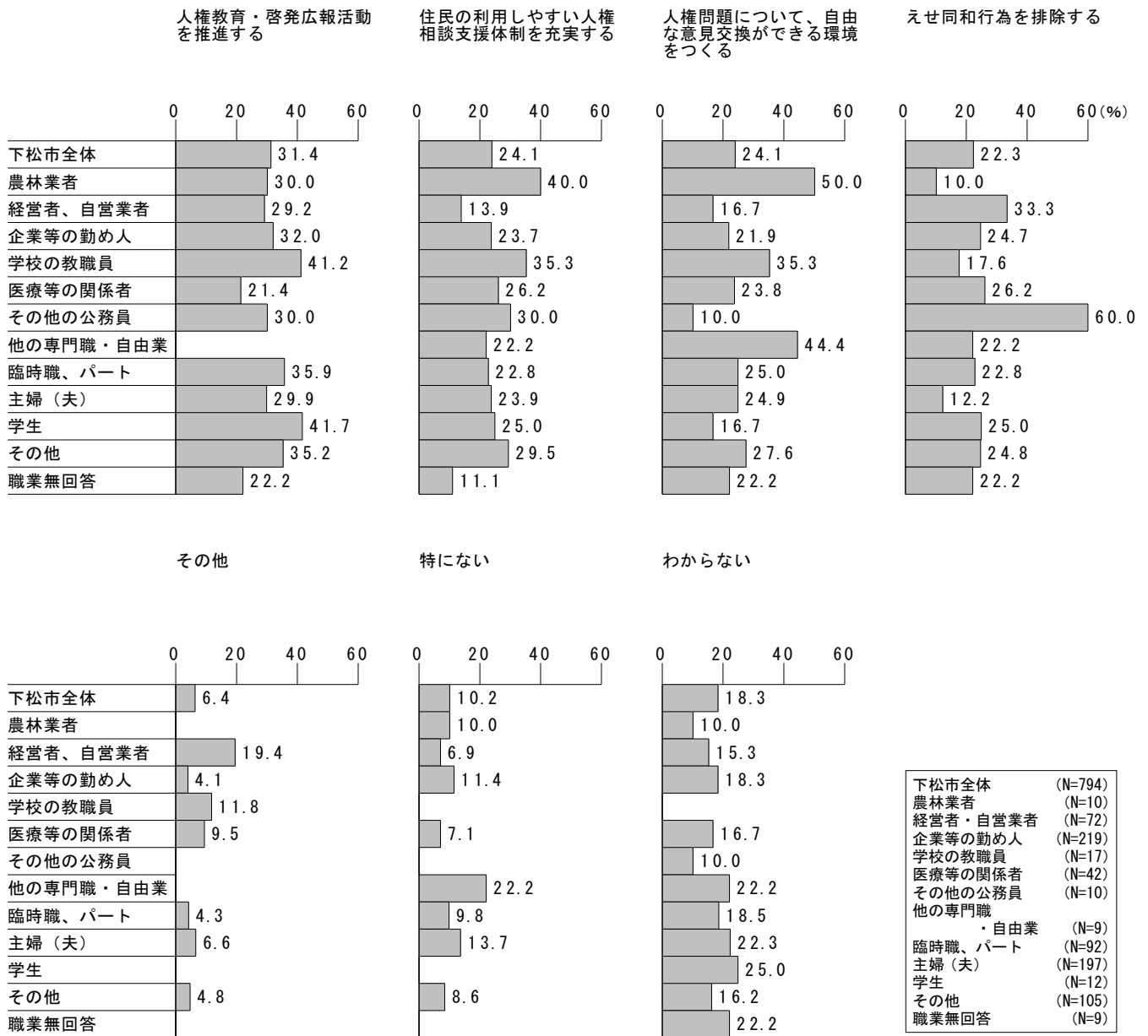


下松市全体 (N=794)  
 男性 (N=344)  
 女性 (N=445)  
 性別無回答 (N=5)  
 20~29歳 (N=85)  
 30~39歳 (N=134)  
 40~49歳 (N=139)  
 50~59歳 (N=180)  
 60~69歳 (N=220)  
 70歳以上 (N=29)  
 年齢無回答 (N=7)

同和問題の解決に必要なことについて、性別にみると、「えせ同和行為を排除する」との回答は 12.8 ポイント、「人権問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる」との回答は 4.7 ポイント、男性が女性をそれぞれ上回っている。

年齢別にみると、「人権教育・啓発広報活動を推進する」との回答は 30~39 歳で、「住民の利用しやすい人権相談支援体制を充実する」、「人権問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる」との回答は 70 歳以上でそれぞれ高くなっている。また、20~29 歳では「わからない」との回答も 4 割ある。

図10-3 同和問題の解決に必要なこと(職業別)

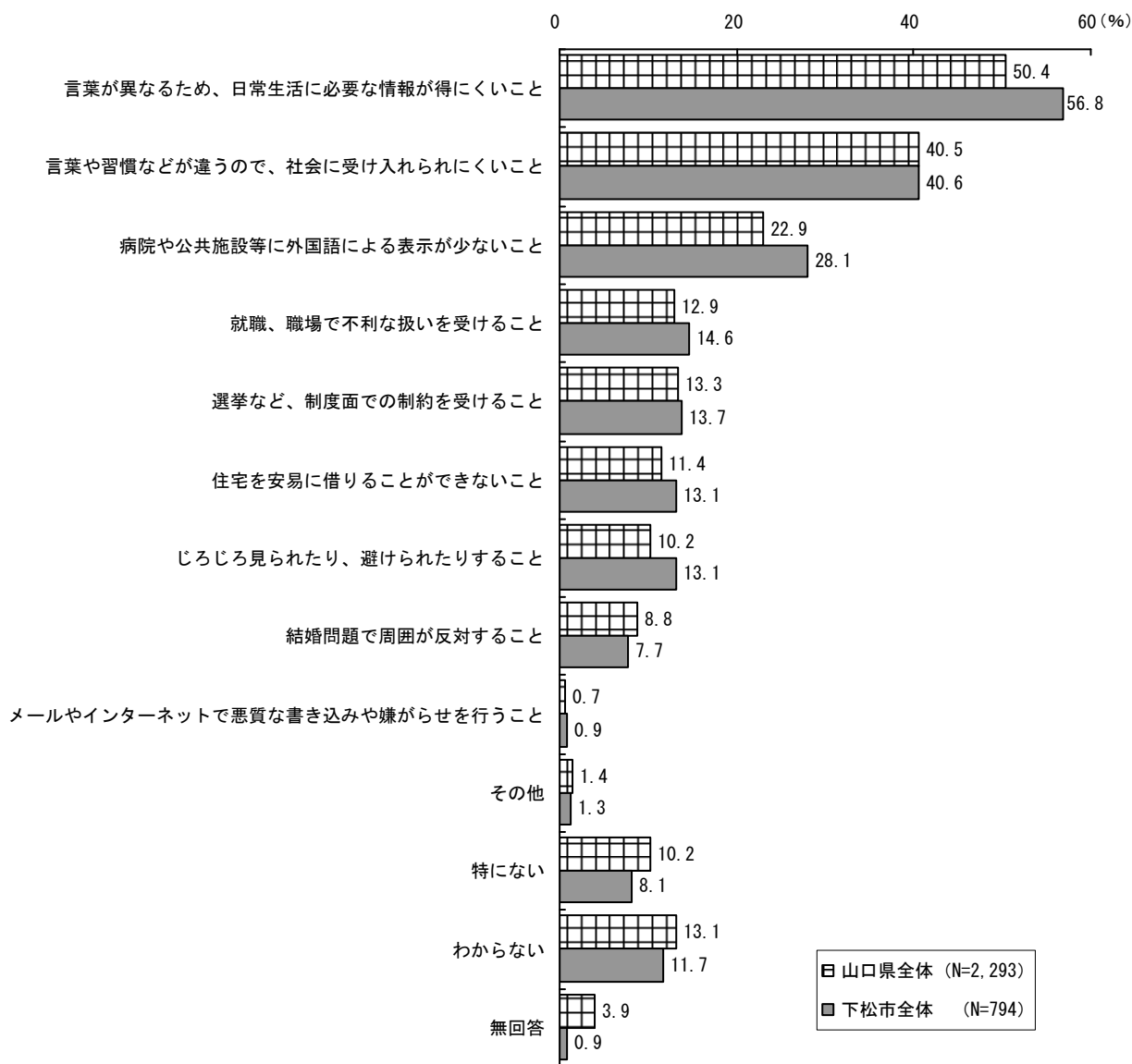


同和問題の解決に必要なことについて、職業別にみると、「人権教育、啓発広報活動を推進する」との回答は学生、学校の教職員で、「住民の利用しやすい人権相談支援体制を充実する」、「人権問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる」との回答は農林業者で、「えせ同和行為を排除する」との回答はその他の公務員でそれぞれ高くなっている。

## 7 外国人の人権について

問11 あなたは、外国人に関することから、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

図11-1 外国人に関する人権上の問題点(県全体・下松市全体)

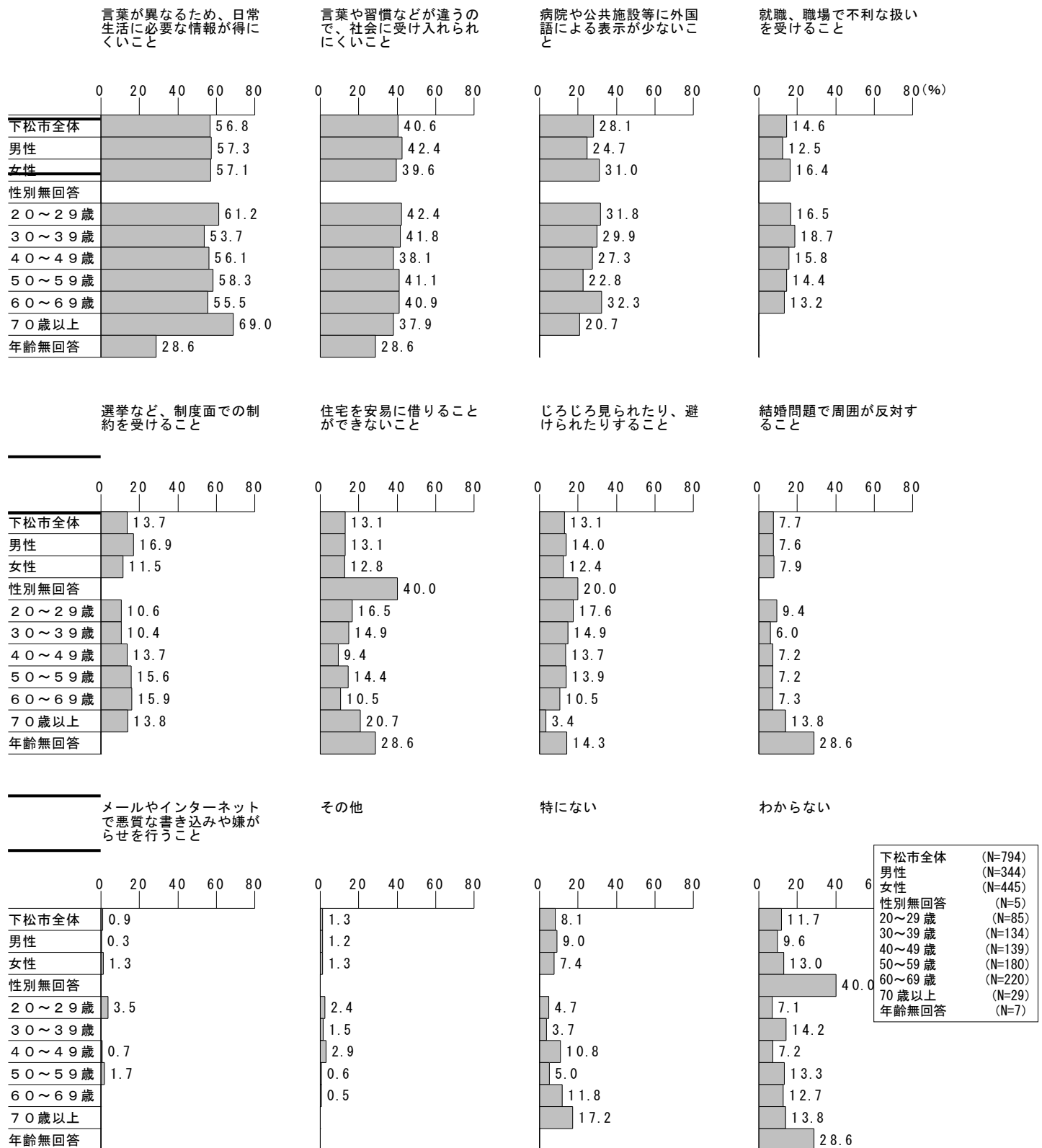


外国人に関する人権上の問題点について、「言葉が異なるため、日常生活に必要な情報が得にくいこと」が56.8%で最も高く、次いで「言葉や習慣などが違うので、社会に受け入れられにくいこと」(40.6%)、「病院や公共施設等に外国語による表示が少ないこと」(28.1%)などの順となっている。

山口県全体と比較すると、「言葉が異なるため、日常生活に必要な情報が得にくいこと」との回答は6.4ポイント、「病院や公共施設等に外国語による表示が少ないこと」との回答は5.2ポイント、本市が山口県全体をそれぞれ上回っている。



図11-2 外国人に関する人権上の問題点(性別・年齢別)

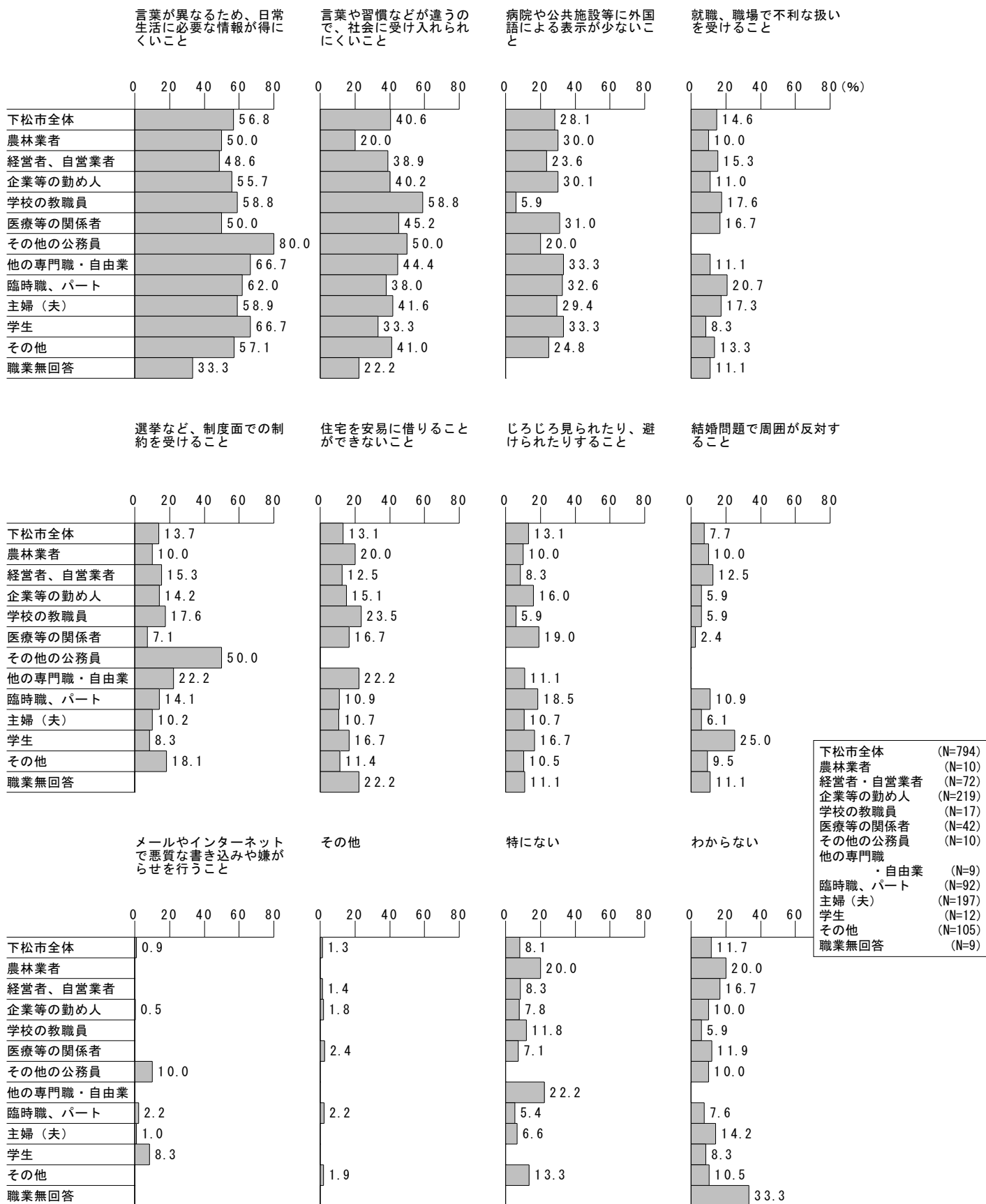


下松市全体 (N=794)  
 男性 (N=344)  
 女性 (N=445)  
 性別無回答 (N=5)  
 20~29歳 (N=85)  
 30~39歳 (N=134)  
 40~49歳 (N=139)  
 50~59歳 (N=180)  
 60~69歳 (N=220)  
 70歳以上 (N=29)  
 年齢無回答 (N=7)

外国人に関する人権上の問題点について、性別にみると、「病院や公共施設等に外国語による表示が少ないこと」との回答は女性が男性を6.3ポイント、「選挙など、制度面での制約を受けること」との回答は男性が女性を5.4ポイントそれぞれ上回っている。

年齢別にみると、「言葉が異なるため、日常生活に必要な情報が得にくいこと」との回答は70歳以上で高くなっている。

図11-3 外国人に関する人権上の問題点(職業別)

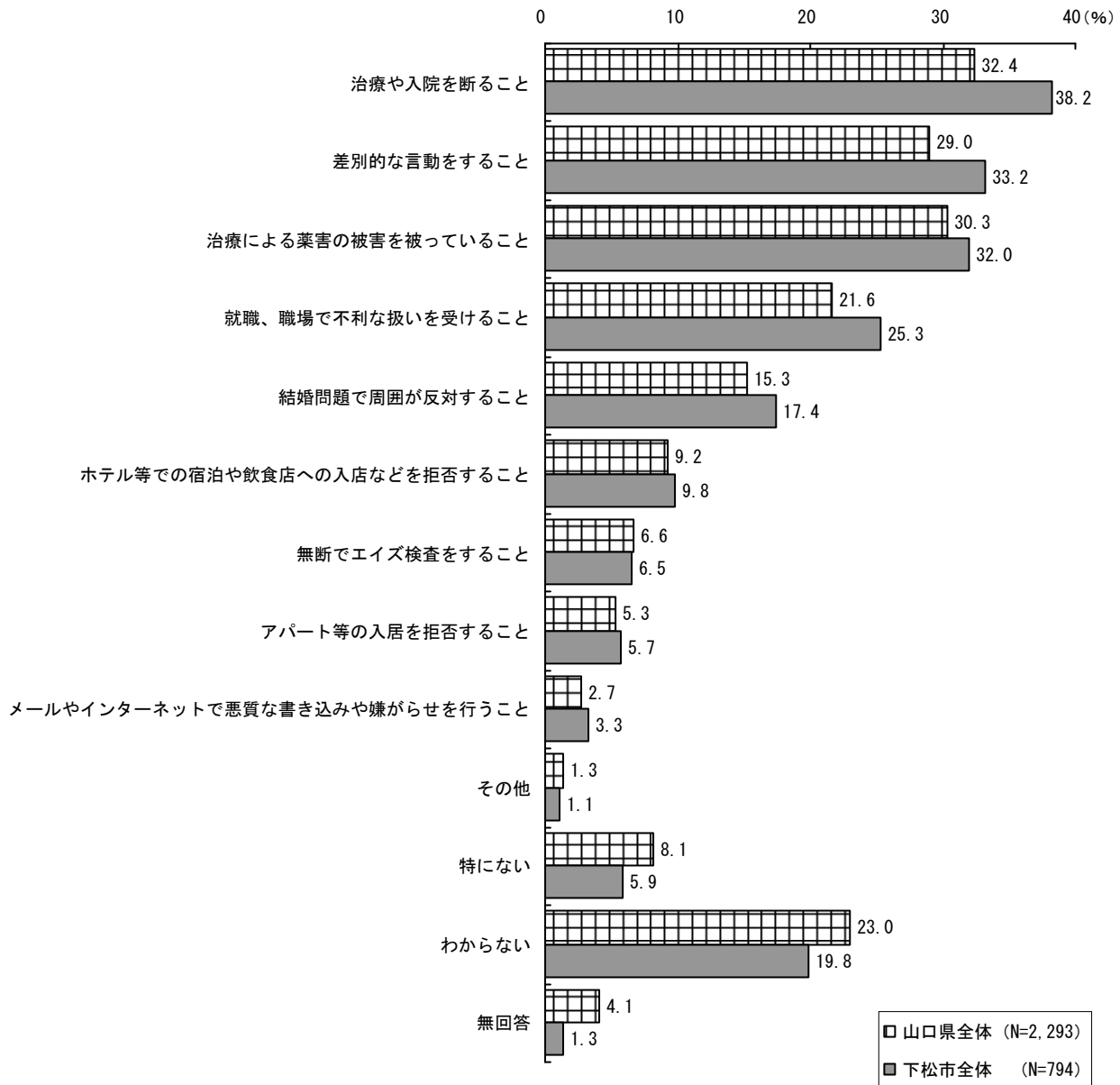


外国人に関する人権上の問題点について、職業別にみると、「言葉が異なるため、日常生活に必要な情報が得にくいこと」、「選挙など、制度面での制約を受けること」との回答はその他の公務員で、「言葉や習慣などが違うので、社会に受け入れられにくいこと」との回答は学校の教職員でそれぞれ高くなっている。

## 8 感染症患者等(HIV感染者・患者等)の人権について

問12 あなたは、感染症患者等(HIV感染者・患者等)についてのことがらで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

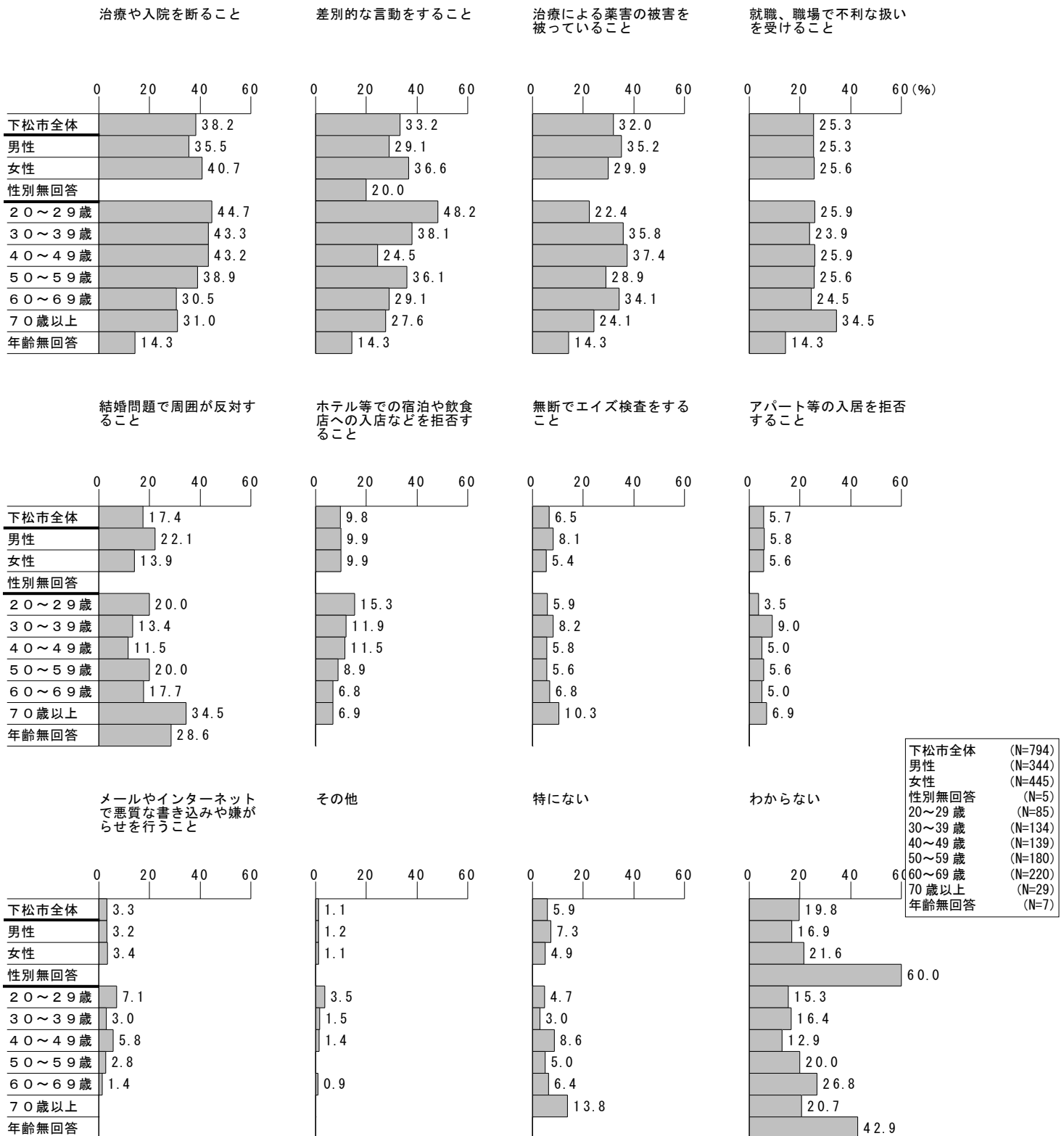
図12-1 感染症患者等に関する人権上の問題点(県全体・下松市全体)



感染症患者等に関する人権上の問題点については、「治療や入院を断ること」、「差別的な言動をすること」、「治療による薬害の被害を被っていること」との回答が3割を超え、「就職、職場で不利な扱いを受けること」との回答も2割を超えている。

山口県全体と比較すると、上位4項目すべてにおいて、本市が山口県全体を上回っている。

図12-2 感染症患者等に関する人権上の問題点(性別・年齢別)

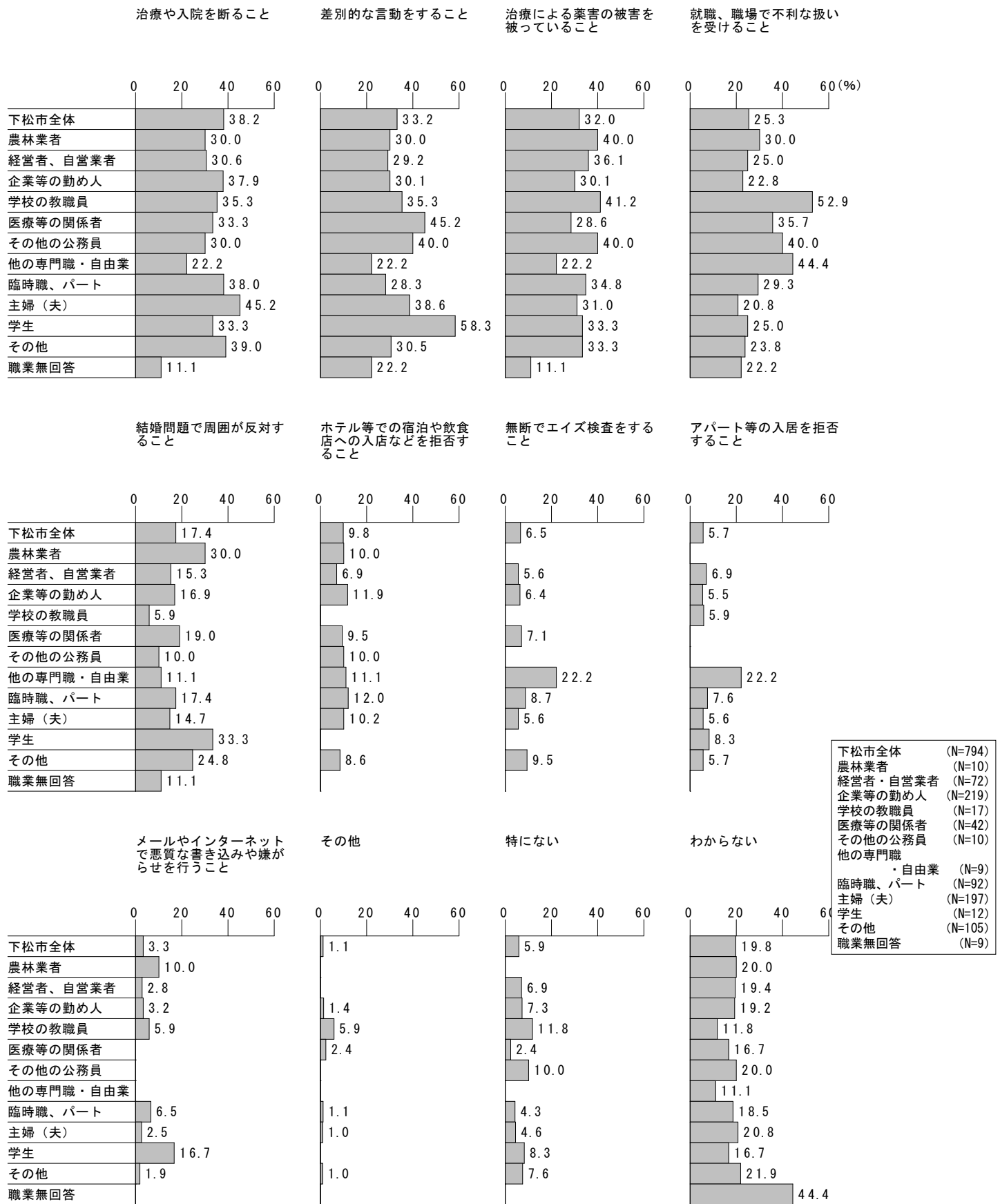


下松市全体 (N=794)  
 男性 (N=344)  
 女性 (N=445)  
 性別無回答 (N=5)  
 20~29歳 (N=85)  
 30~39歳 (N=134)  
 40~49歳 (N=139)  
 50~59歳 (N=180)  
 60~69歳 (N=220)  
 70歳以上 (N=29)  
 年齢無回答 (N=7)

感染症患者等に関する人権上の問題点について、性別にみると、「結婚問題で周囲が反対すること」との回答は男性が女性を8.2ポイント、「差別的な言動をすること」との回答は女性が男性を7.5ポイントそれぞれ上回っている。

年齢別にみると、「差別的な言動をすること」との回答は20~29歳で、「就職、職場で不利な扱いを受けること」、「結婚問題で周囲が反対すること」との回答は70歳以上でそれぞれ高くなっている。

図12-3 感染症患者等に関する人権上の問題点(職業別)



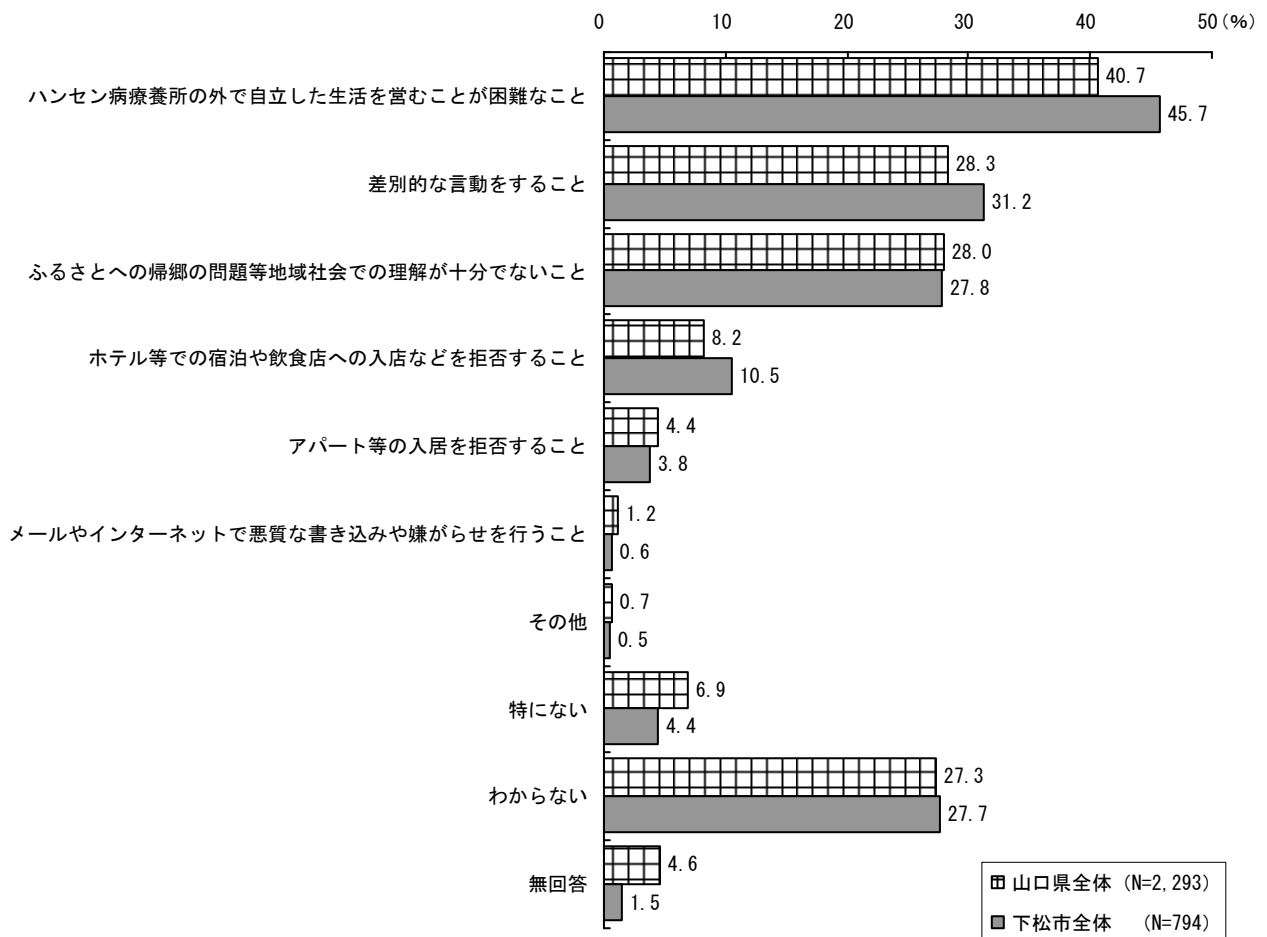
下松市全体 (N=794)  
 農林業者 (N=10)  
 経営者・自営業者 (N=72)  
 企業等の勤め人 (N=219)  
 学校の教職員 (N=17)  
 医療等の関係者 (N=42)  
 その他の公務員 (N=10)  
 他の専門職・自由業 (N=9)  
 臨時職、パート (N=92)  
 主婦(夫) (N=197)  
 学生 (N=12)  
 その他 (N=105)  
 職業無回答 (N=9)

感染症患者等に関する人権上の問題点について、職業別にみると、「治療や入院を断ること」との回答は主婦(夫)で、「差別的な言動をすること」、「結婚問題で周囲が反対すること」との回答は学生で、「就職、職場で不利な扱いを受けること」との回答は学校の教職員でそれぞれ高くなっている。

## 9 ハンセン病問題（ハンセン病患者・元患者等）について

問13 あなたは、ハンセン病問題（ハンセン病患者・元患者とその家族）についてのことから、問題があると思われるのはどのようなことですか。（✓は2つまで）

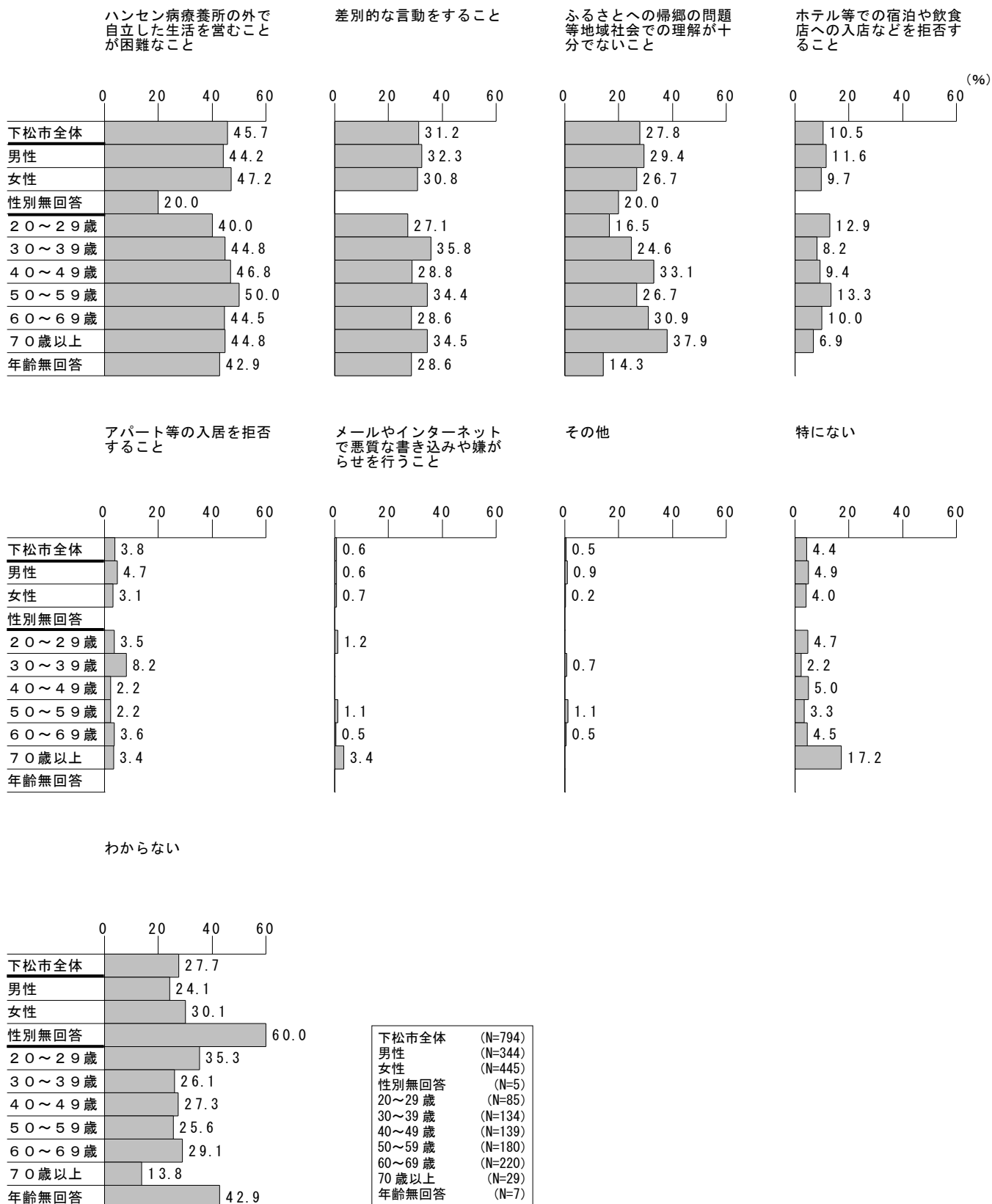
図13-1 ハンセン病問題に関する人権上の問題点（県全体・下松市全体）



ハンセン病問題に関する人権上の問題点について、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むことが困難なこと」が45.7%で最も高くなっており、次いで「差別的な言動をすること」(31.2%)、「ふるさとへの帰郷の問題等地域社会での理解が十分でないこと」(27.8%)などの順となっている。

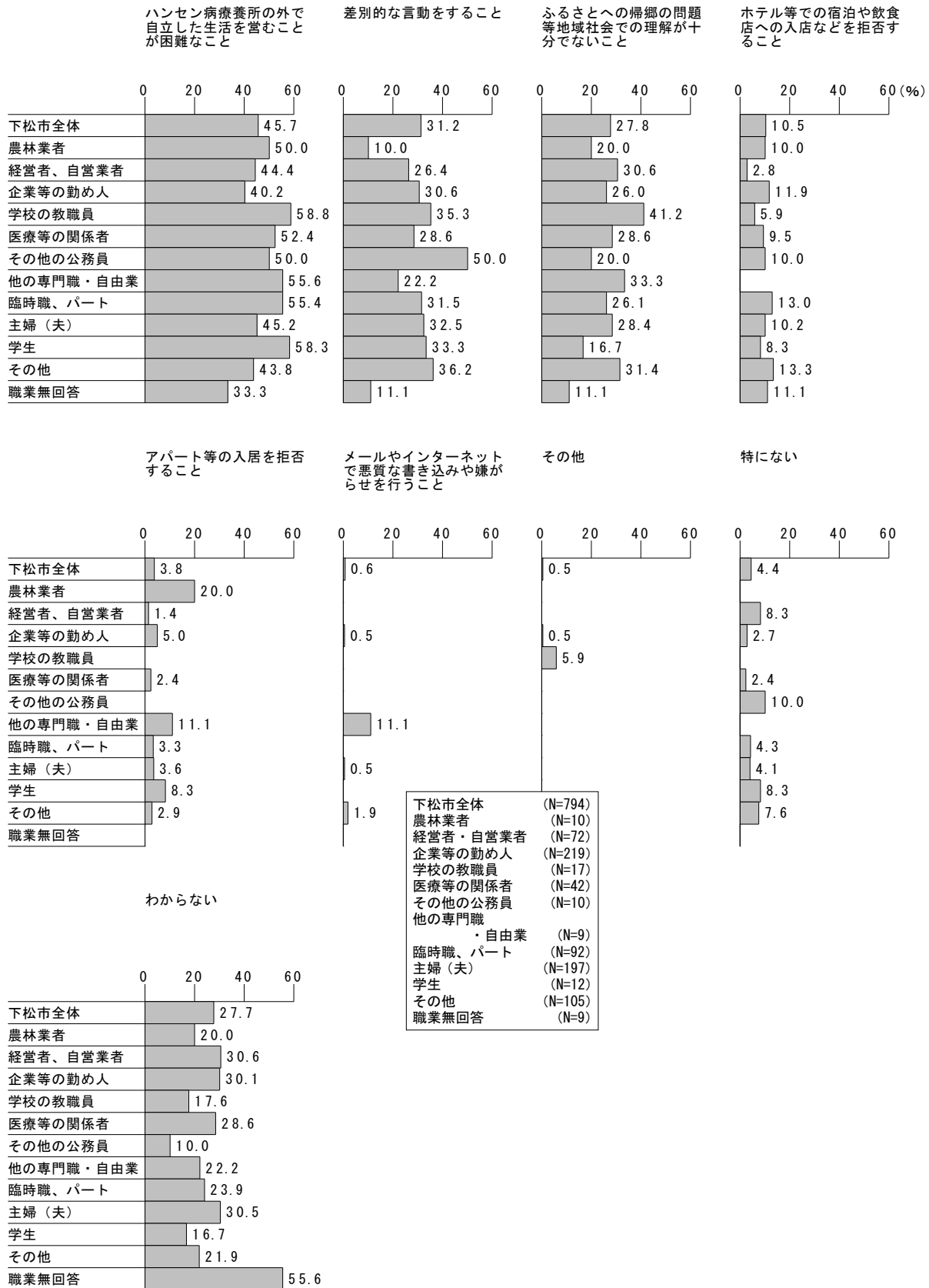
山口県全体と比較すると、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むことが困難なこと」との回答は本市が山口県全体を5.0ポイント上回っている。

図13-2 ハンセン病問題に関する人権上の問題点(性別・年齢別)



ハンセン病問題に関する人権上の問題点について、性別にみると、男女間に大きな差はみられない。年齢別にみると、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むことが困難なこと」との回答は50~59歳で、「ふるさとへの帰郷の問題等、地域社会での理解が十分でないこと」との回答は40~49歳、70歳以上でそれぞれ高くなっている。

図13-3 ハンセン病問題に関する人権上の問題点(職業別)



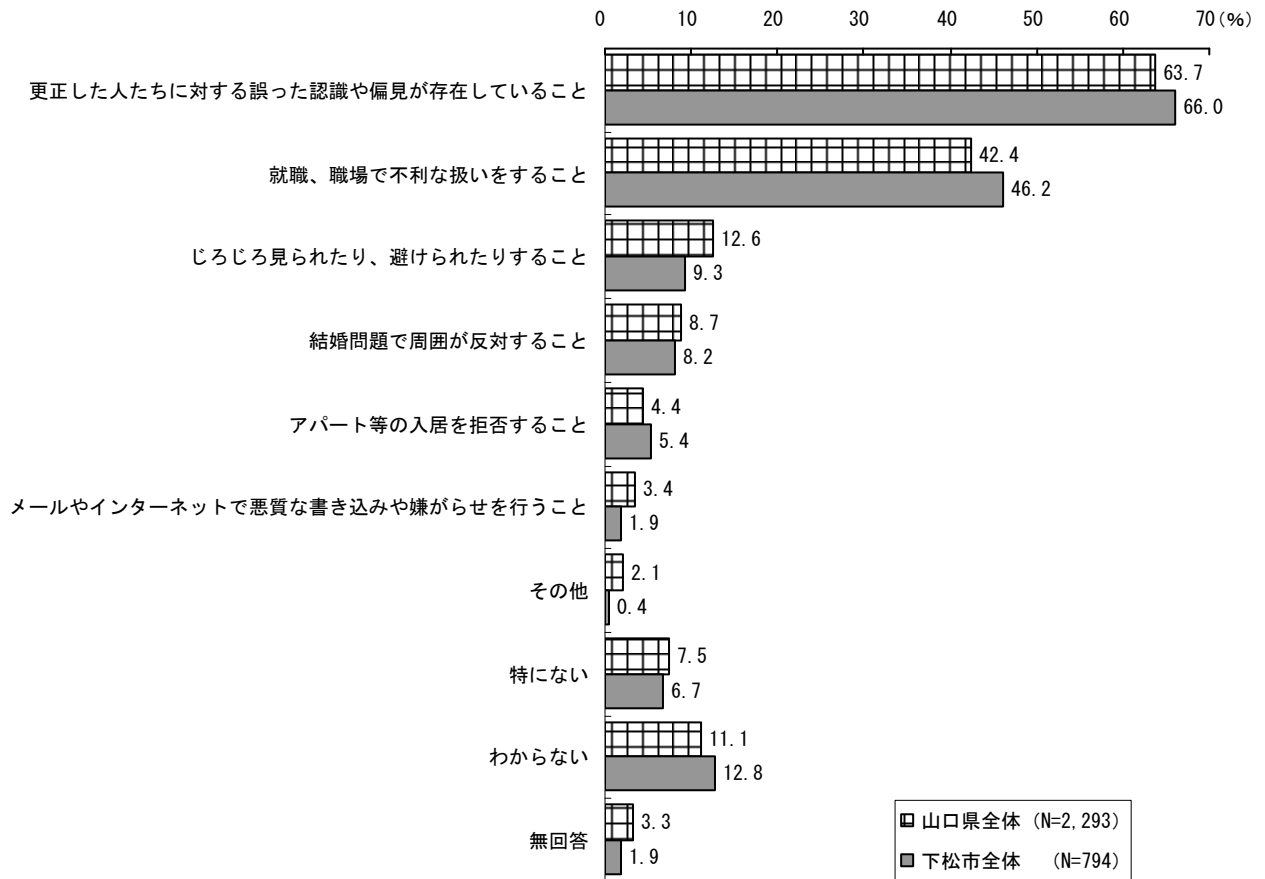
ハンセン病問題に関する人権上の問題点について、職業別にみると、いずれの職業においても「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むことが困難なこと」との回答が4割を超え、学校の教職員、学生では約6割となっている。また、「差別的な言動をすること」との回答はその他の公務員で、「ふるさとへの帰郷の問題等、地域社会での理解が十分でないこと」との回答は学校の教職員で、「アパート等の入居を拒否すること」との回答は農林業者でそれぞれ高くなっている。



## 10 罪や非行を犯した人の人権について

問14 あなたは、罪や非行を犯した人が、罪をつぐなって社会の一員として立ち直ろうとする場合、どのような問題があると思われますか。(✓は2つまで)

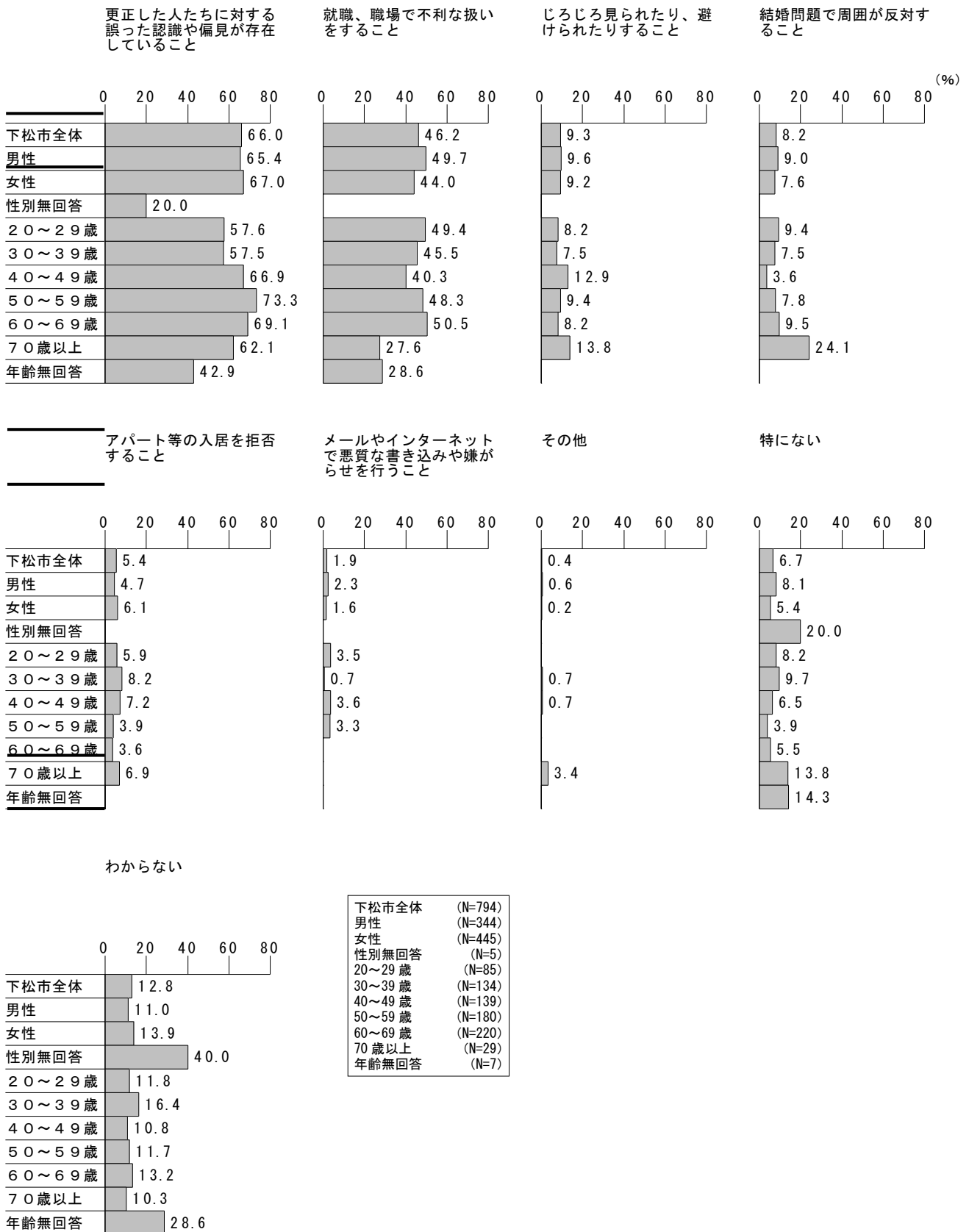
図14-1 罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点(県全体・下松市全体)



罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点について、「更正した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」(66.0%)、「就職、職場で不利な扱いをすること」(46.2%)との回答が高くなっている。

山口県全体と比較すると、上位2項目において、本市が山口県全体をやや上回っている。

図14-2 罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点(性別・年齢別)

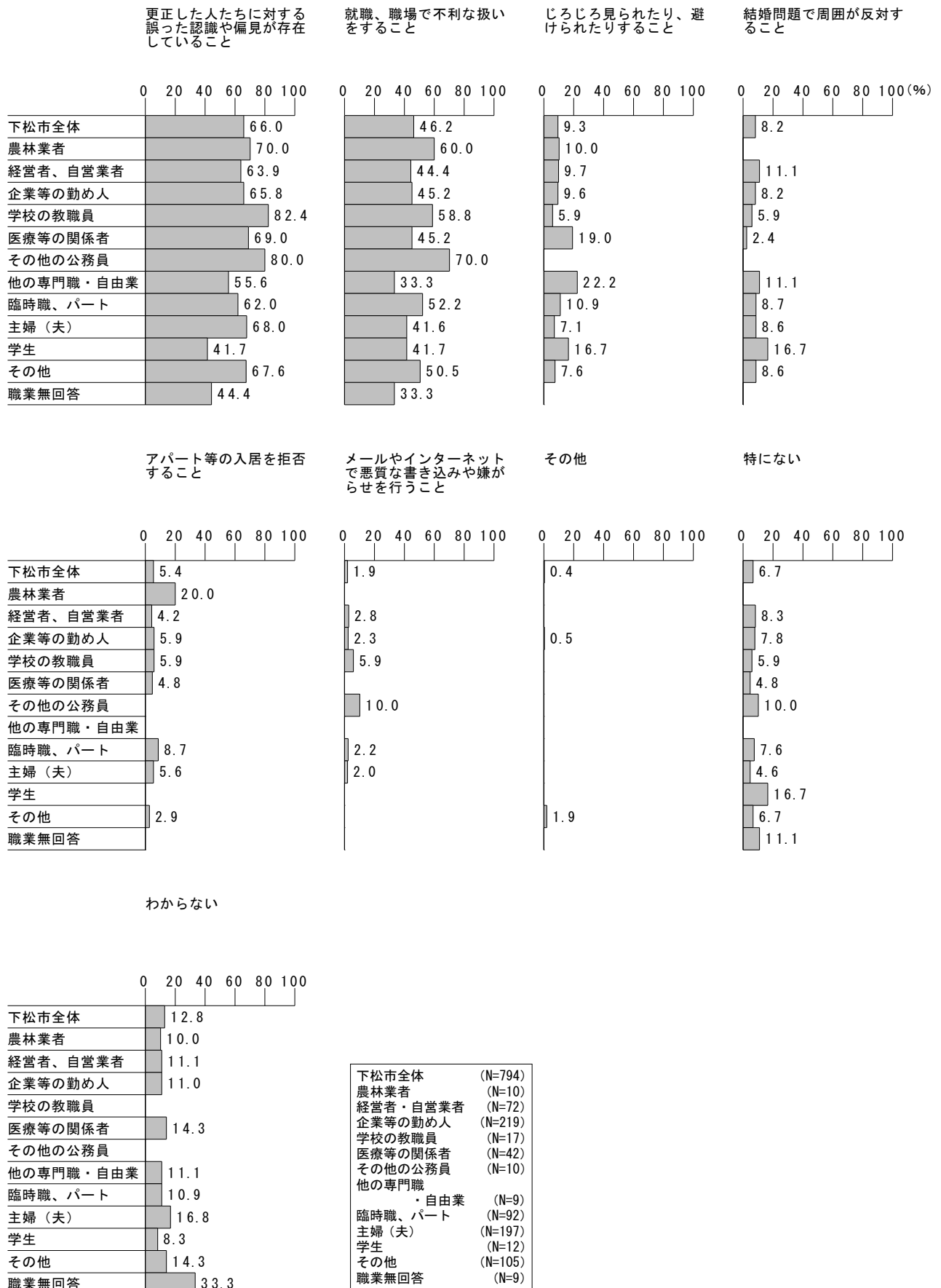


下松市全体 (N=794)  
 男性 (N=344)  
 女性 (N=445)  
 性別無回答 (N=5)  
 20~29歳 (N=85)  
 30~39歳 (N=134)  
 40~49歳 (N=139)  
 50~59歳 (N=180)  
 60~69歳 (N=220)  
 70歳以上 (N=29)  
 年齢無回答 (N=7)

罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点について、性別にみると、「就職、職場で不利な扱いをすること」との回答は男性が女性を5.7ポイント上回っている。

年齢別にみると、「更正した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」との回答は50~59歳、60~69歳で高くなっている。

図14-3 罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点(職業別)



下松市全体 (N=794)  
 農林業者 (N=10)  
 経営者・自営業者 (N=72)  
 企業等の勤め人 (N=219)  
 学校の教職員 (N=17)  
 医療等の関係者 (N=42)  
 その他の公務員 (N=10)  
 他の専門職・自由業 (N=9)  
 臨時職、パート (N=92)  
 主婦(夫) (N=197)  
 学生 (N=12)  
 その他 (N=105)  
 職業無回答 (N=9)

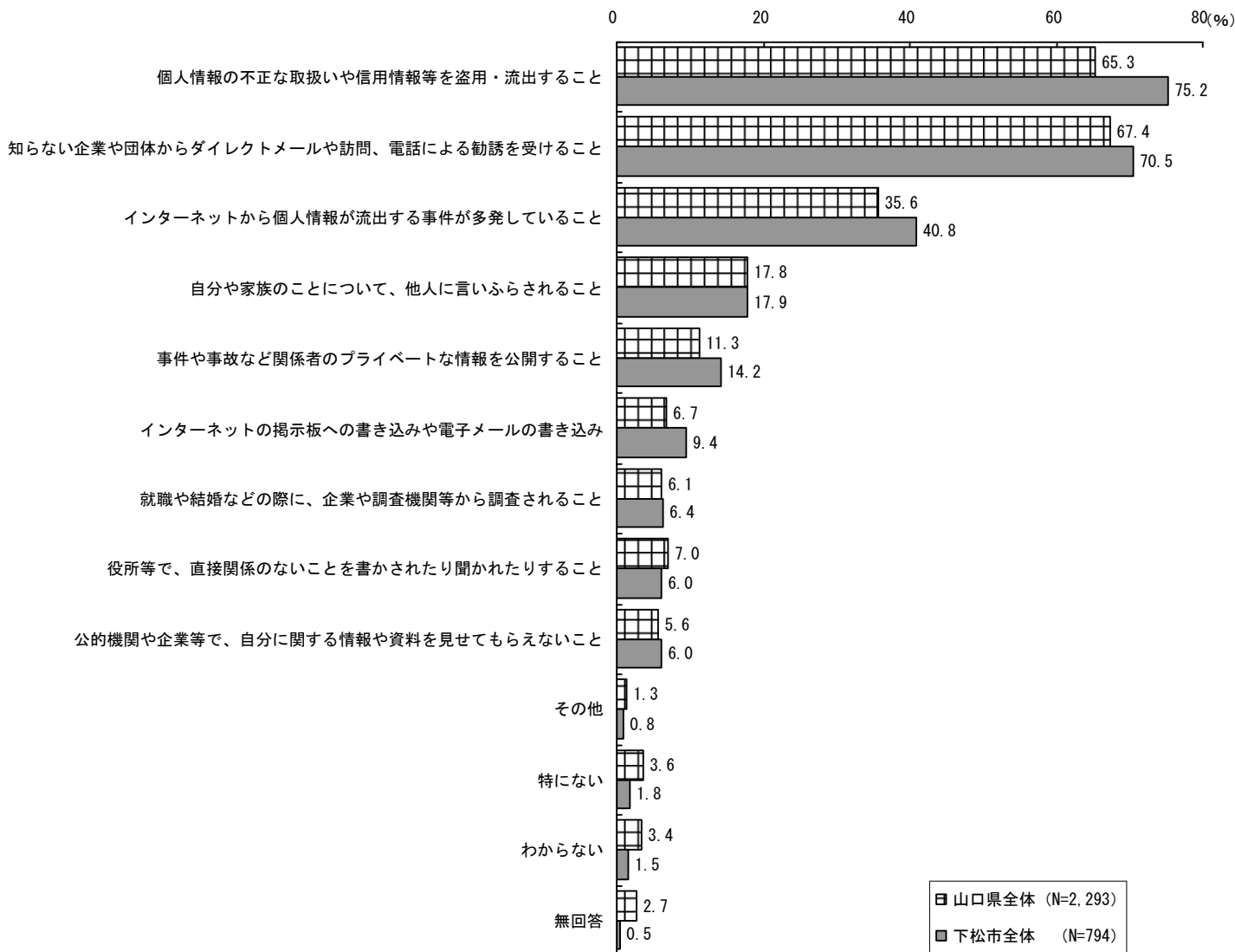
罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点について、職業別にみると、「更正した人々に対する誤った認識や偏見が存在していること」との回答は学校の教職員、その他の公務員で、「就職、職場で不利な扱いをすること」との回答はその他の公務員でそれぞれ高くなっている。

# 1 1 その他の人権について

## (1) プライバシーの保護に関する人権上の問題点

問 1 5 あなたは、プライバシーの保護に関することからで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

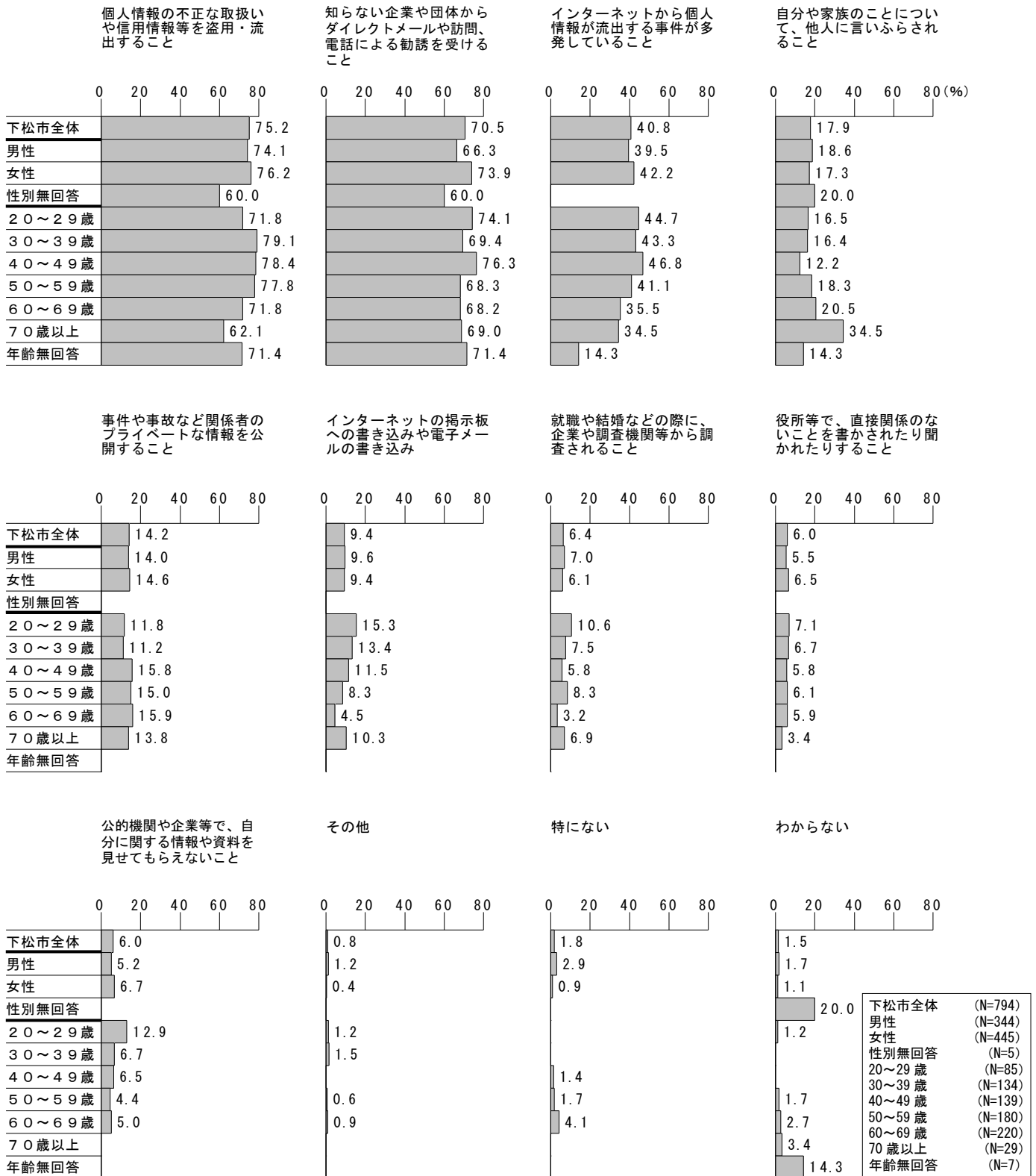
図15-1 プライバシーの保護に関する人権上の問題点(県全体・下松市全体)



プライバシーの保護に関する人権上の問題点について、「個人情報の不正な取扱いや信用情報等を盗用・流出すること」、「知らない企業や団体からダイレクトメールや訪問、電話による勧誘を受けること」が7割を超える高い割合となっており、「インターネットから個人情報が流出する事件が多発していること」との回答も4割を超えている。

山口県全体と比較すると、「個人情報の不正な取扱いや信用情報等を盗用・流出すること」との回答は本市が山口県全体を9.9ポイント上回っている。

図15-2 プライバシーの保護に関する人権上の問題点(性別・年齢別)

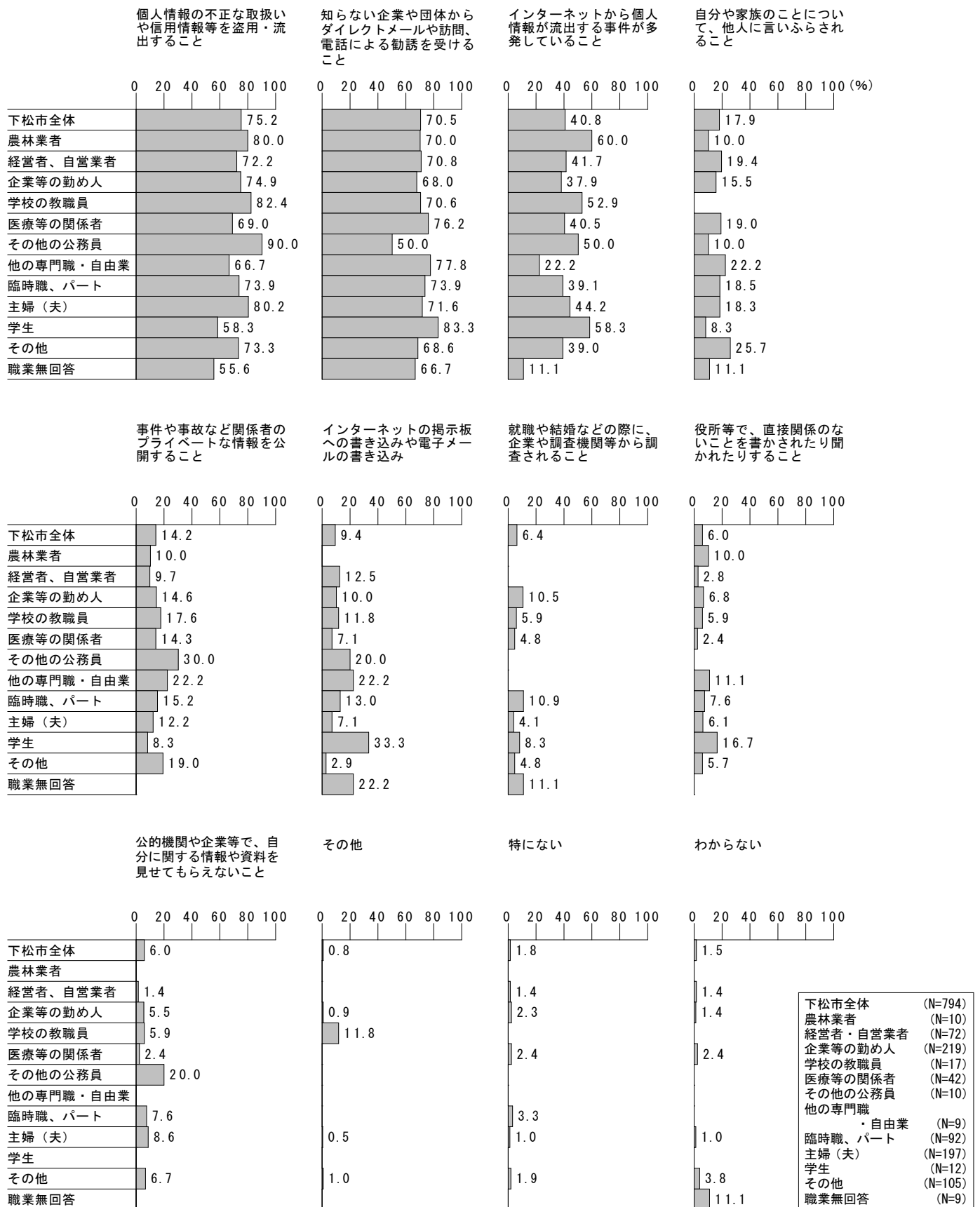


下松市全体 (N=794)  
 男性 (N=344)  
 女性 (N=445)  
 性別無回答 (N=5)  
 20~29歳 (N=85)  
 30~39歳 (N=134)  
 40~49歳 (N=139)  
 50~59歳 (N=180)  
 60~69歳 (N=220)  
 70歳以上 (N=29)  
 年齢無回答 (N=7)

プライバシーの保護に関する人権上の問題点について、性別にみると、「知らない企業や団体からダイレクトメールや訪問、電話による勧誘を受けること」との回答は女性が男性を7.6ポイント上回っている。

年齢別にみると、「個人情報の不正な取扱いや信用情報等を盗用・流出すること」との回答が20~60代で7割を超えている。また、「知らない企業や団体から訪問、電話による勧誘を受けること」との回答では20~29歳、40~49歳で、「自分や家族のことについて、他人に言いふらされること」との回答は70歳以上でそれぞれ高くなっている。

図15-3 プライバシーの保護に関する人権上の問題点(職業別)

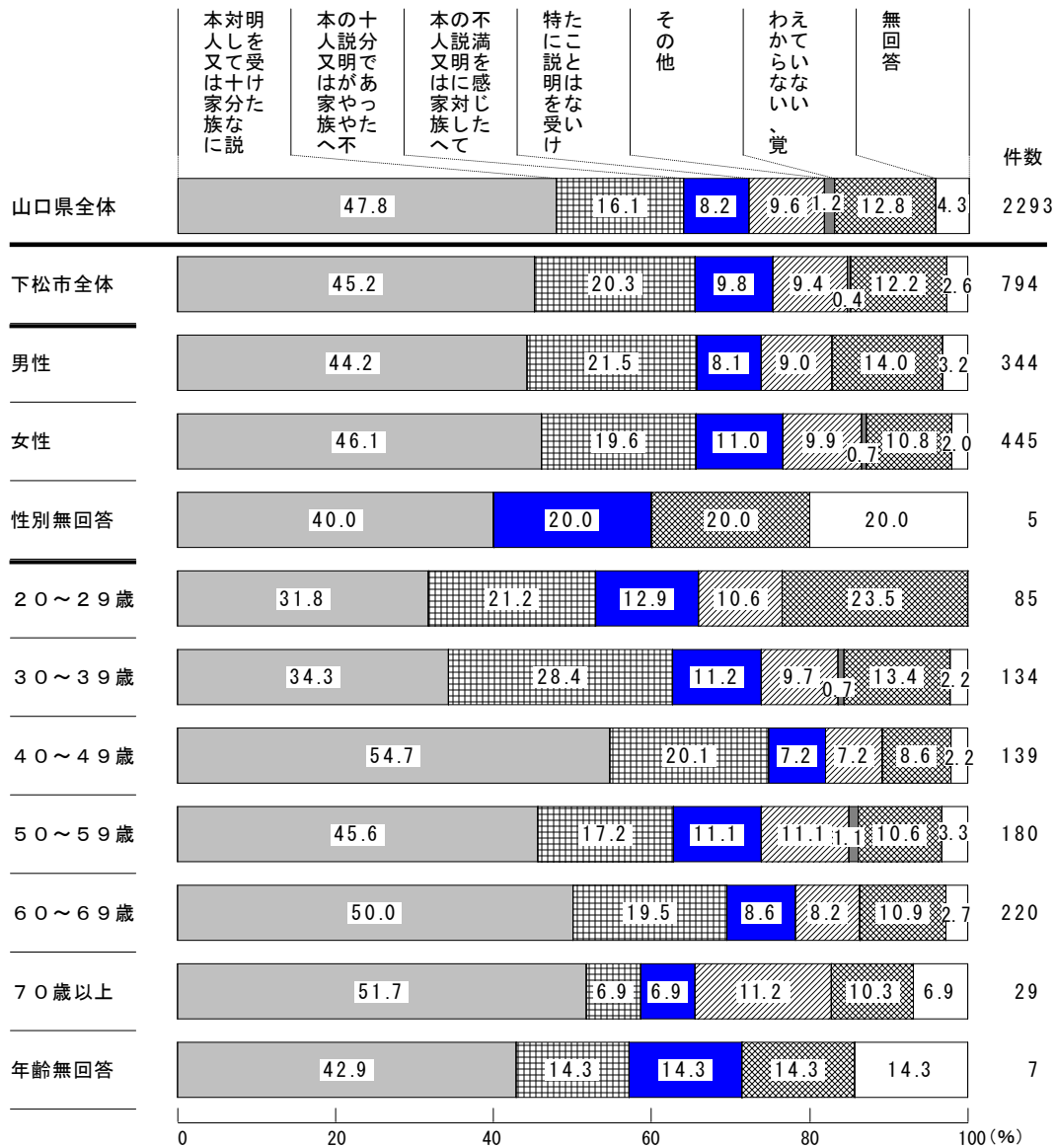


プライバシーの保護に関する人権上の問題点について、職業別にみると、「個人情報の不正な取扱いや信用情報等を盗用・流出すること」との回答はその他の公務員で、「知らない企業や団体からダイレクトメールや訪問、電話による勧誘を受けること」との回答は学生で、「インターネットから個人情報が流出する事件が多発していること」との回答は農林業者、学生でそれぞれ高くなっている。

## (2) インフォームド・コンセントに関する医療機関の対応

問16 「インフォームド・コンセント」(治療の目的や内容を納得できるように患者に説明し、了承を得て治療をすること。)が患者の権利として重視されていますが、あなたがこれまでに受けた医療機関の対応は、次のうちどれに近いですか。(✓は1つ)

図16-1 インフォームド・コンセントに関する医療機関の対応(県全体・下松市全体・性別・年齢別)



インフォームド・コンセントに関する医療機関の対応について、「本人又は家族に対して十分な説明を受けた」が45.2%で最も高くなっているが、「本人又は家族への説明がやや不十分であった」(20.3%)、「本人又は家族の説明に対して不満を感じた」(9.8%)、「特に説明を受けたことはない」(9.4%)を合わせた割合は39.5%と約4割となっている。

山口県全体と比較すると、「本人又は家族への説明がやや不十分であった」との回答は本市が山口県全体を4.2ポイント上回っている。

性別にみると、男女間に大きな差はみられない。

年齢別にみると、「本人又は家族に対して十分な説明を受けた」との回答は40~49歳で54.7%と最も高く、20~29歳、30~39歳で3割台と低くなっている。

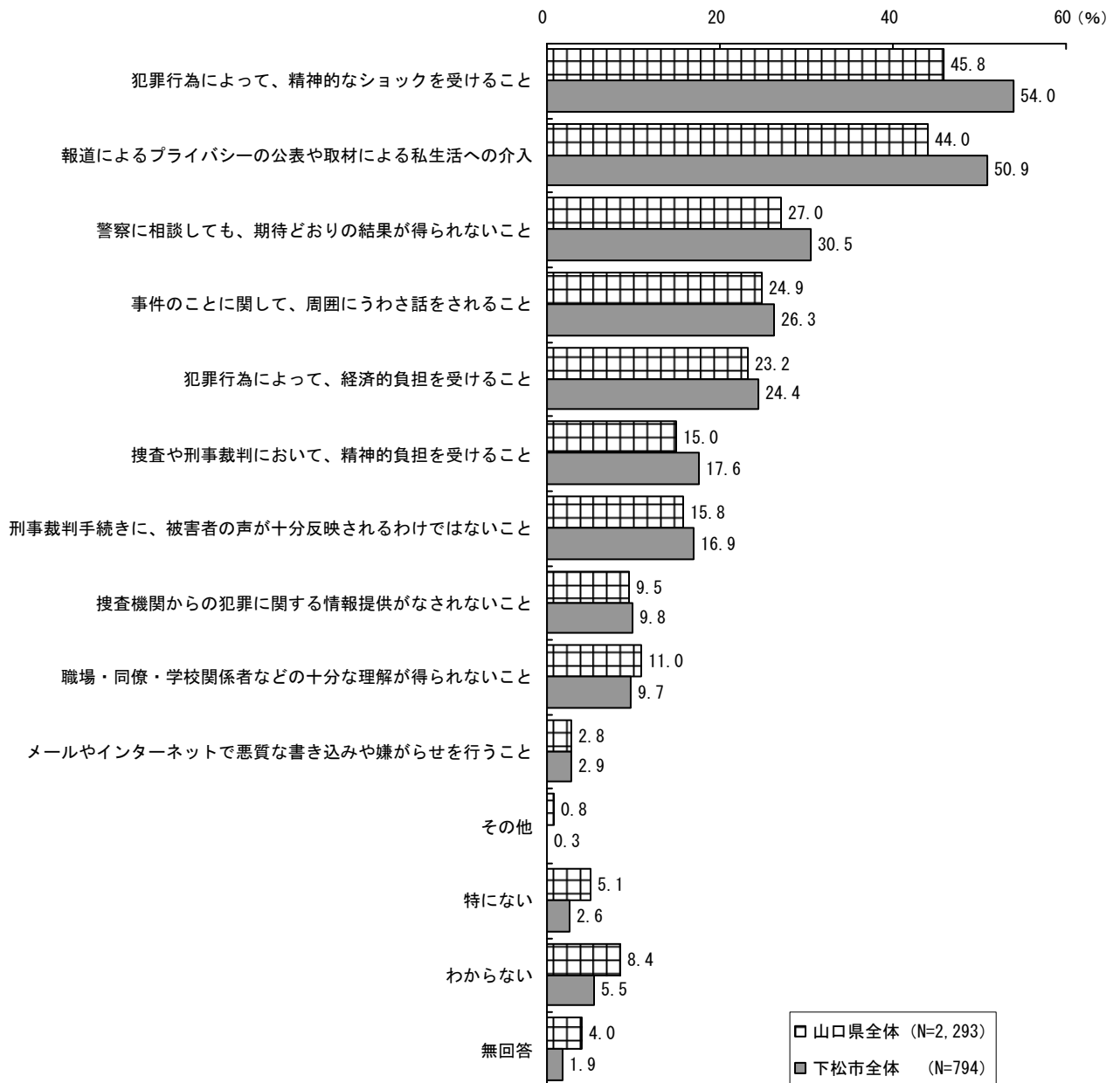




### (3) 犯罪被害者に関する人権上の問題点

問17 あなたは、犯罪被害者についてのことがらで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

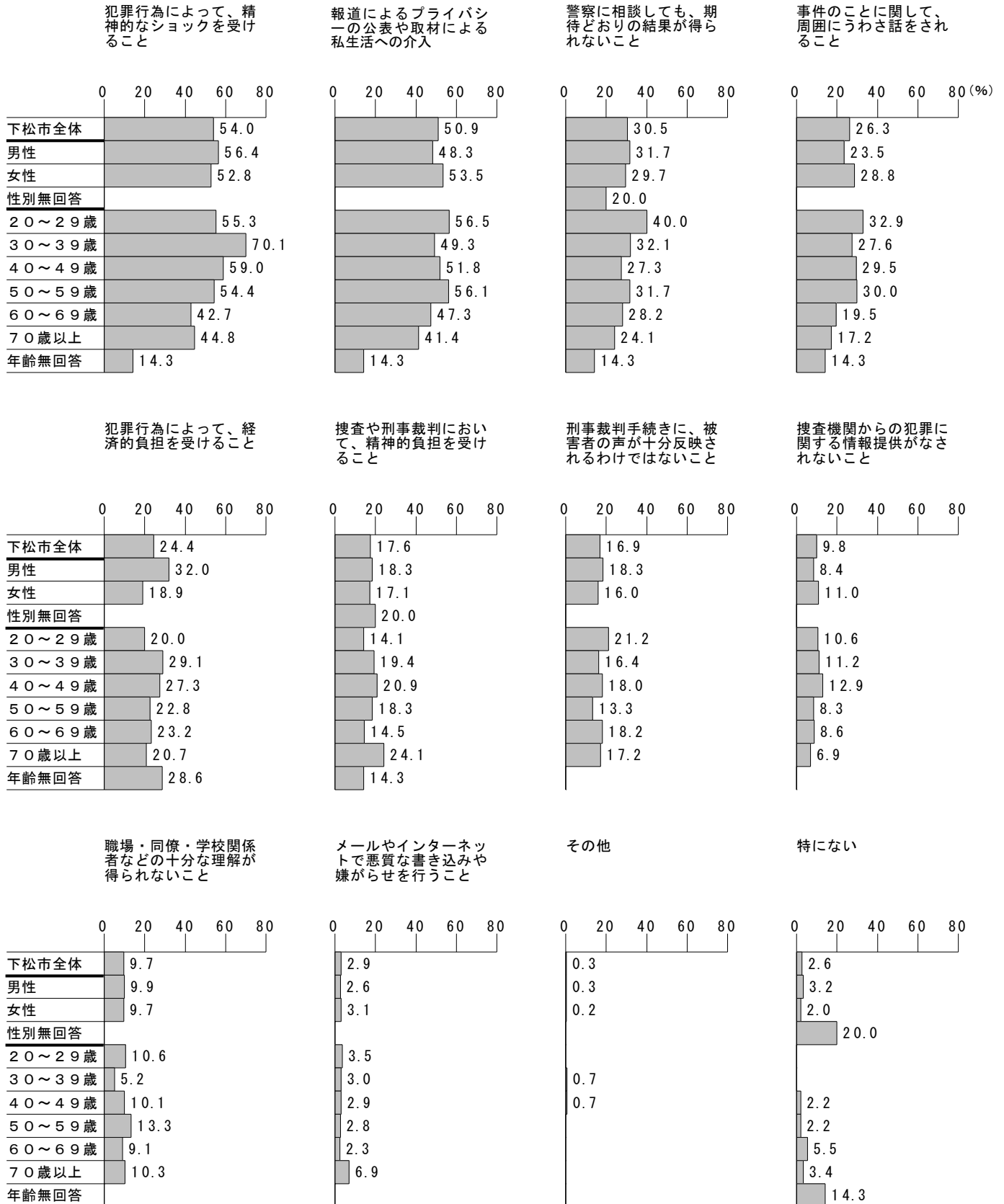
図17-1 犯罪被害者に関する人権上の問題点(県全体・下松市全体)



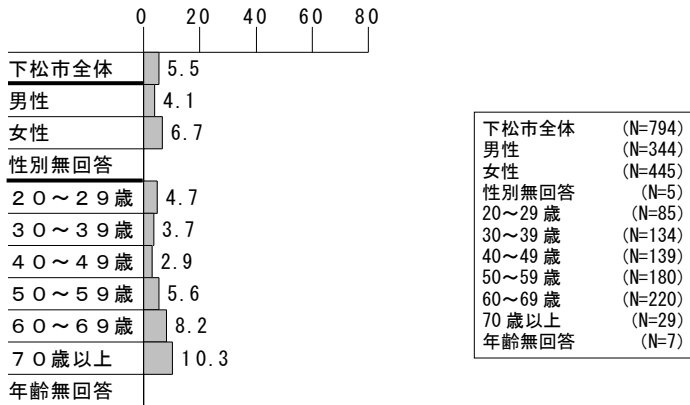
犯罪被害者に関する人権上の問題点については、「犯罪行為によって、精神的なショックを受けること」(54.0%)、「報道によるプライバシーの公表や取材による私生活への介入」(50.9%)が5割を超えており、次いで「警察に相談しても、期待どおりの結果が得られないこと」(30.5%)、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」(26.3%)、「犯罪行為によって、経済的負担を受けること」(24.4%)などの順となっている。

山口県全体と比較すると、上位項目において本市が山口県全体を上回っており、「犯罪行為によって、精神的なショックを受けること」では8.2ポイント、「報道によるプライバシーの公表や取材による私生活への介入」では6.9ポイントの差がみられる。

図17-2 犯罪被害者に関する人権上の問題点(性別・年齢別)



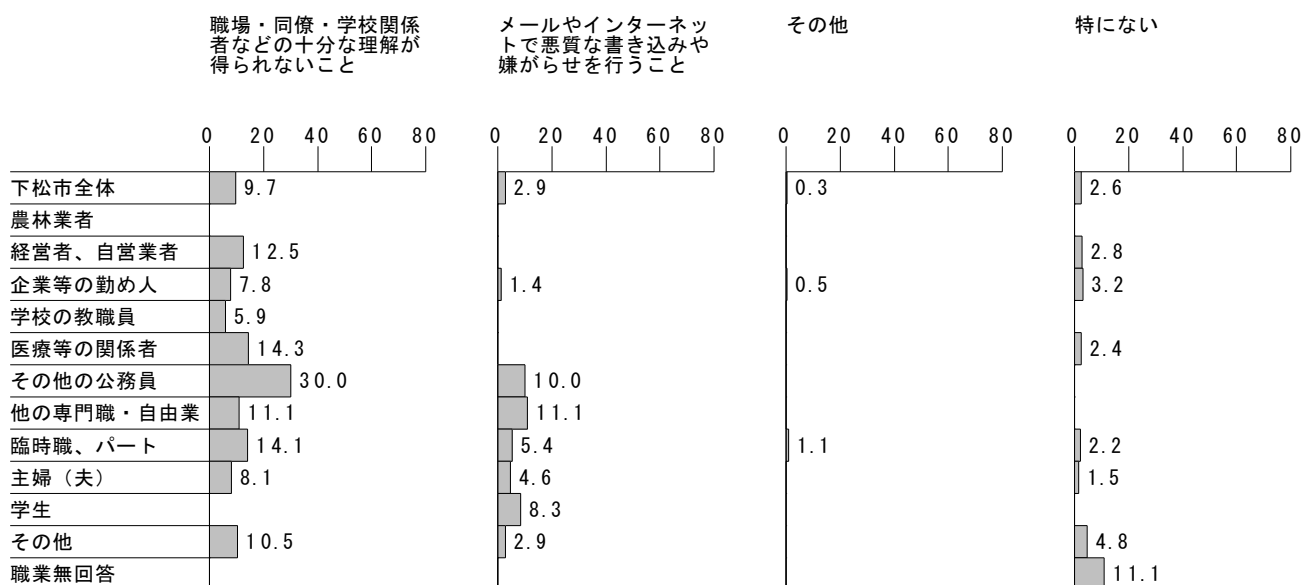
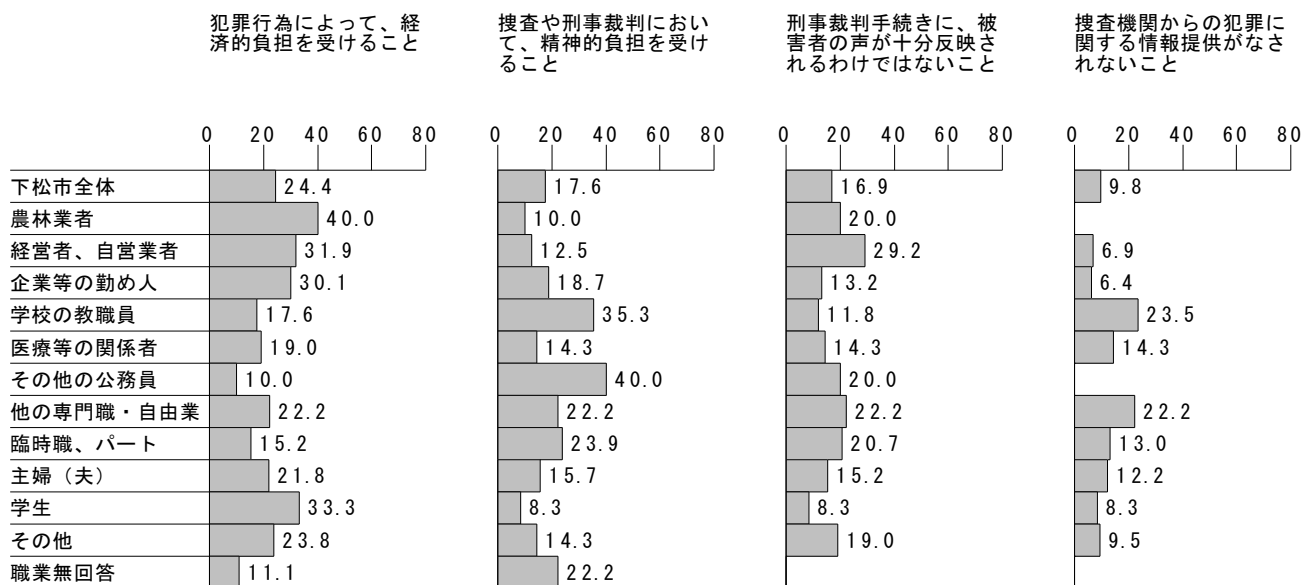
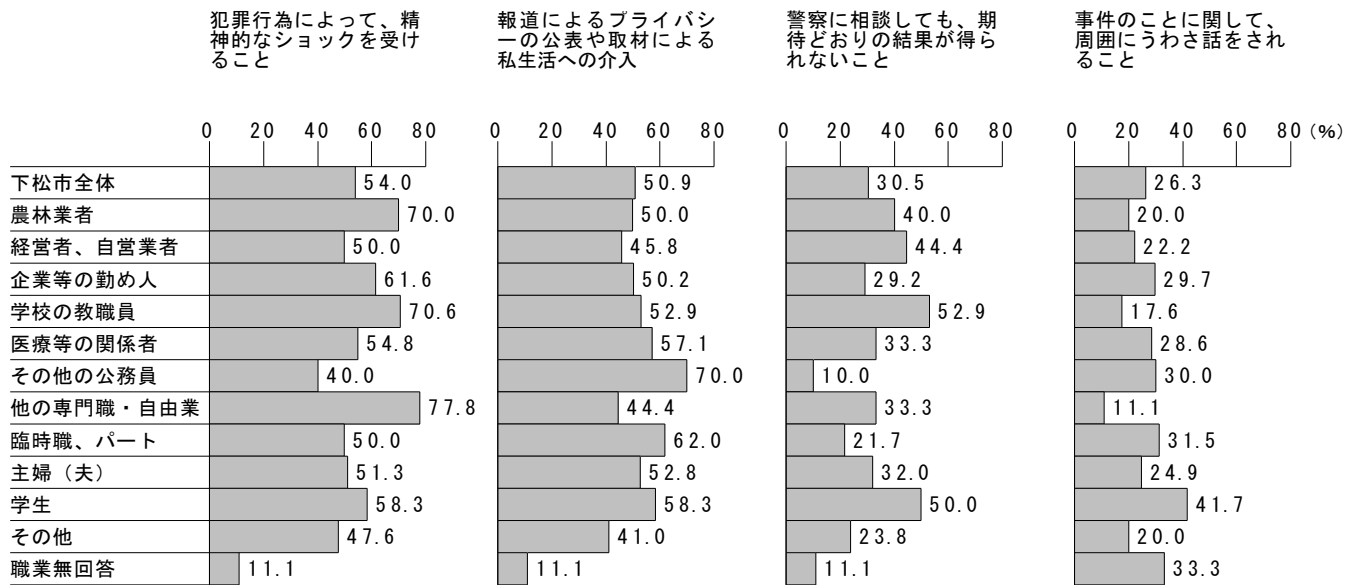
わからない



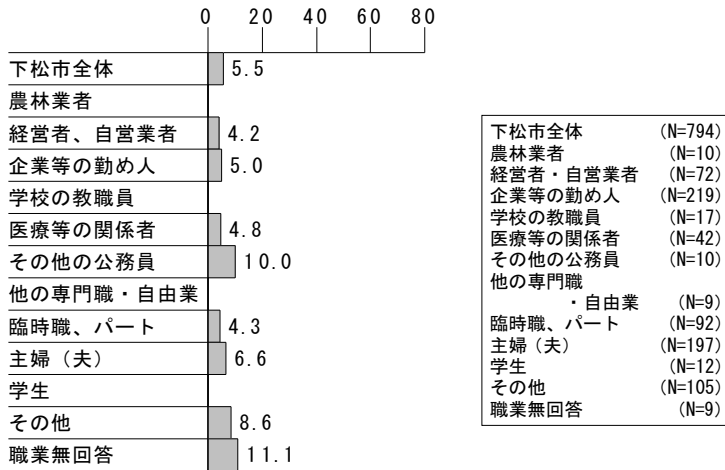
犯罪被害者に関する人権上の問題点について、性別にみると、「犯罪行為によって、経済的負担を受けること」との回答は男性が女性を13.1ポイント上回っており、反対に「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」との回答は5.3ポイント、「報道によるプライバシーの公表や取材による私生活への介入」との回答は5.2ポイント女性が男性をそれぞれ上回っている。

年齢別にみると「犯罪行為によって、精神的なショックを受けること」との回答は30～39歳で、「報道によるプライバシーの公表や取材による私生活への介入」との回答は20～29歳、50～59歳で、「警察に相談しても、期待どおりの結果が得られないこと」との回答は20～29歳でそれぞれ高くなっている。

図17-3 犯罪被害者に関する人権上の問題点(職業別)



わからない



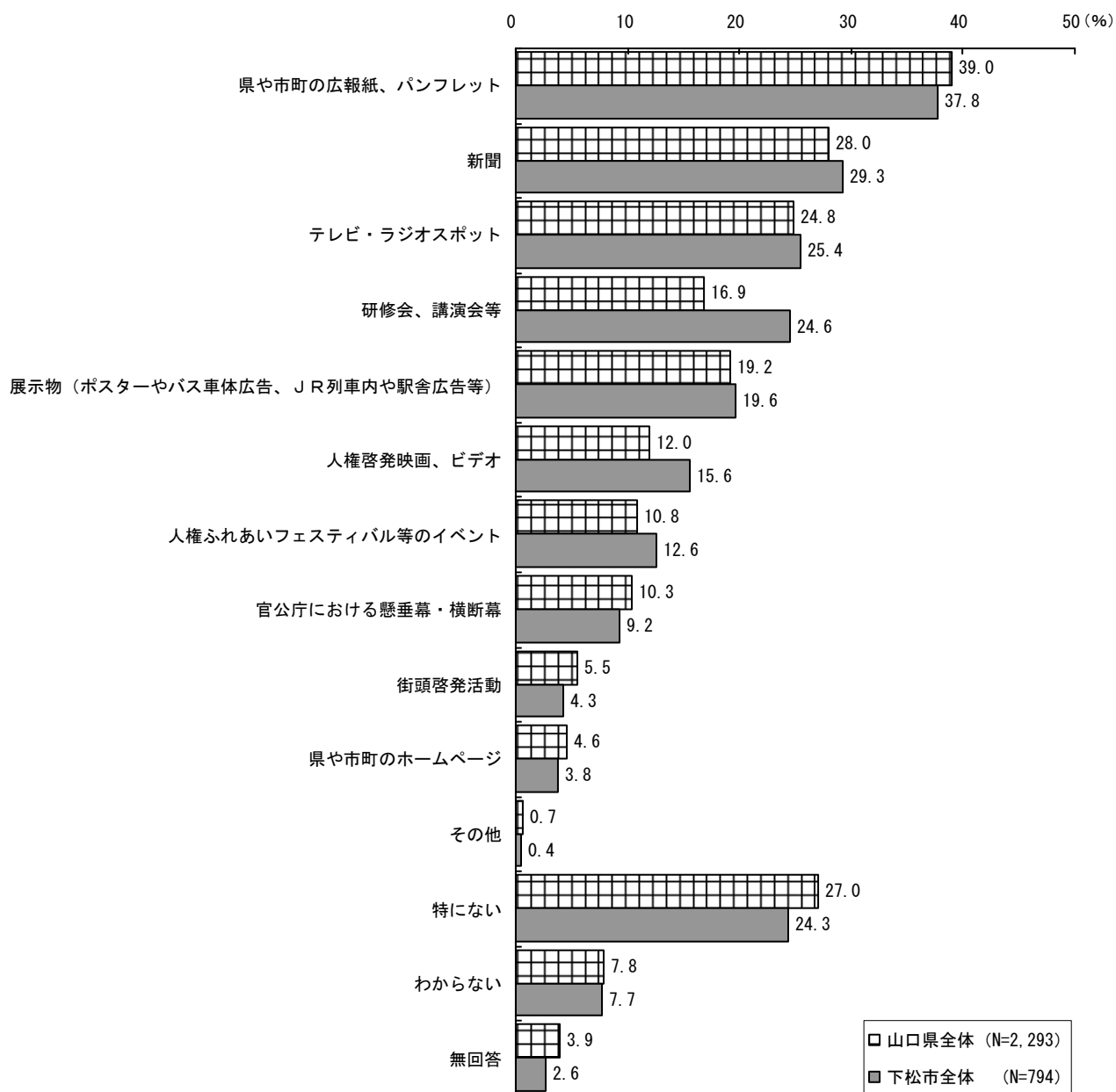
犯罪被害者に関する人権上の問題点について、職業別にみると、「犯罪行為によって、精神的なショックを受けること」との回答は農林業者、学校の教職員、他の専門職・自由業で、「報道によるプライバシーの公表や取材による私生活への介入」との回答はその他の公務員で、「警察に相談しても、期待どおりの結果が得られないこと」との回答は学校の教職員、学生で、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」との回答は学生でそれぞれ高くなっている。

## 12 人権教育・啓発の取組

### (1) 啓発活動への接触度

問18 山口県では、「山口県人権推進指針」に基づき、人権に関する施策を総合的に推進していますが、あなたは、これまでに県又は市町が実施した次のような行事（イベント・研修会等）に参加したり、人権問題に関連した記事等を見たり読んだりした経験がありますか。（✓はいくつでも）

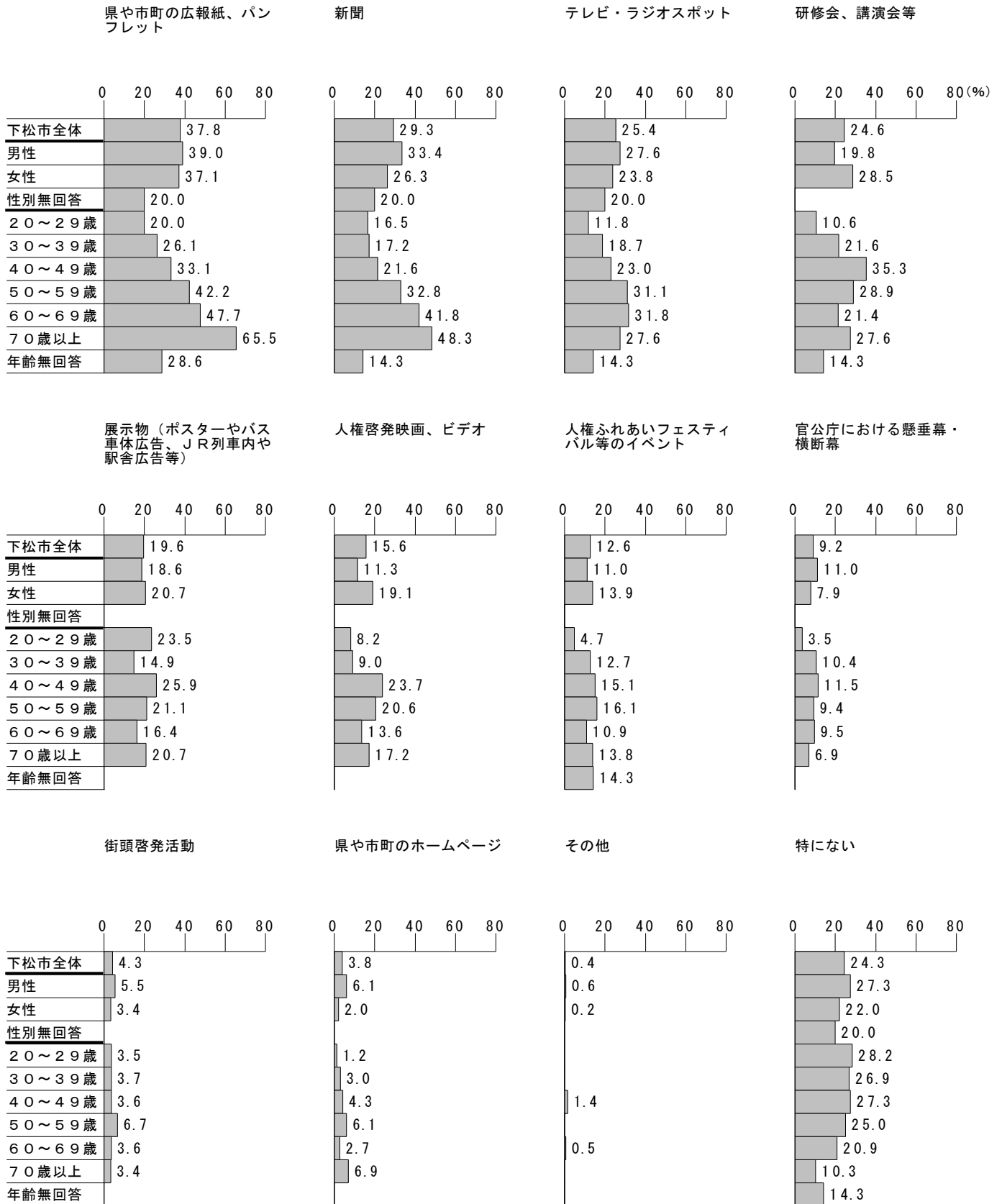
図18-1 啓発活動への接触度（県全体・下松市全体）



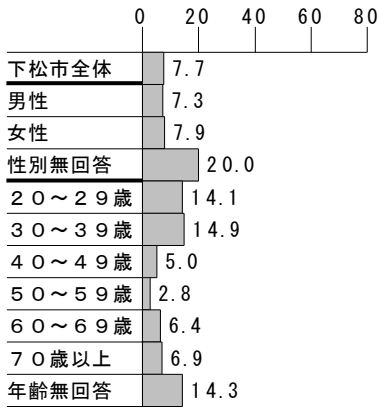
啓発活動への接触度について、「県や市町の広報紙、パンフレット」との回答が37.8%と最も高く、次いで「新聞」（29.3%）、「テレビ・ラジオスポット」（25.4%）、「研修会、講演会等」（24.6%）などの順となっている。

山口県全体と比較すると、「研修会、講演会等」との回答は本市が山口県全体を7.7ポイント上回っている。

図18-2 啓発活動への接触度(性別・年齢別)



わからない



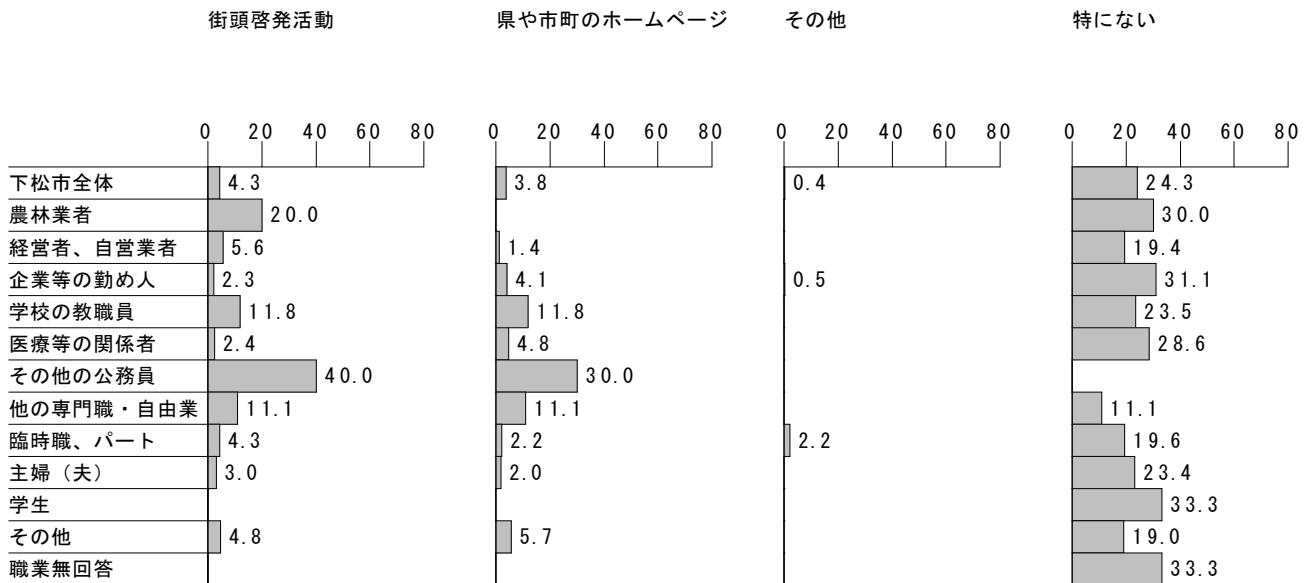
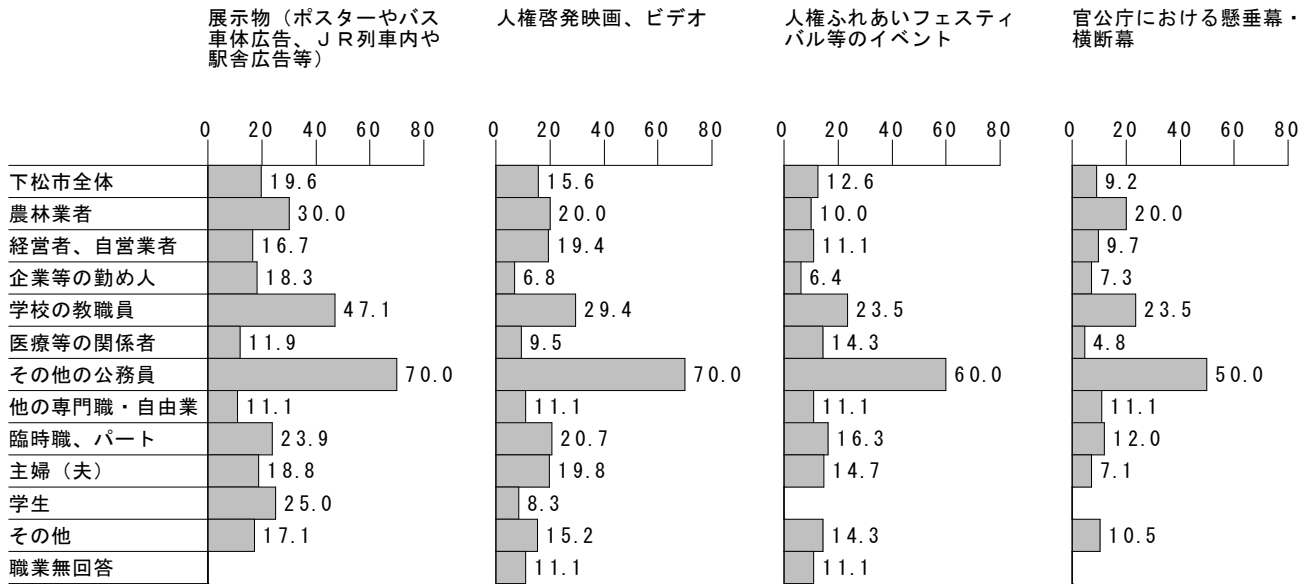
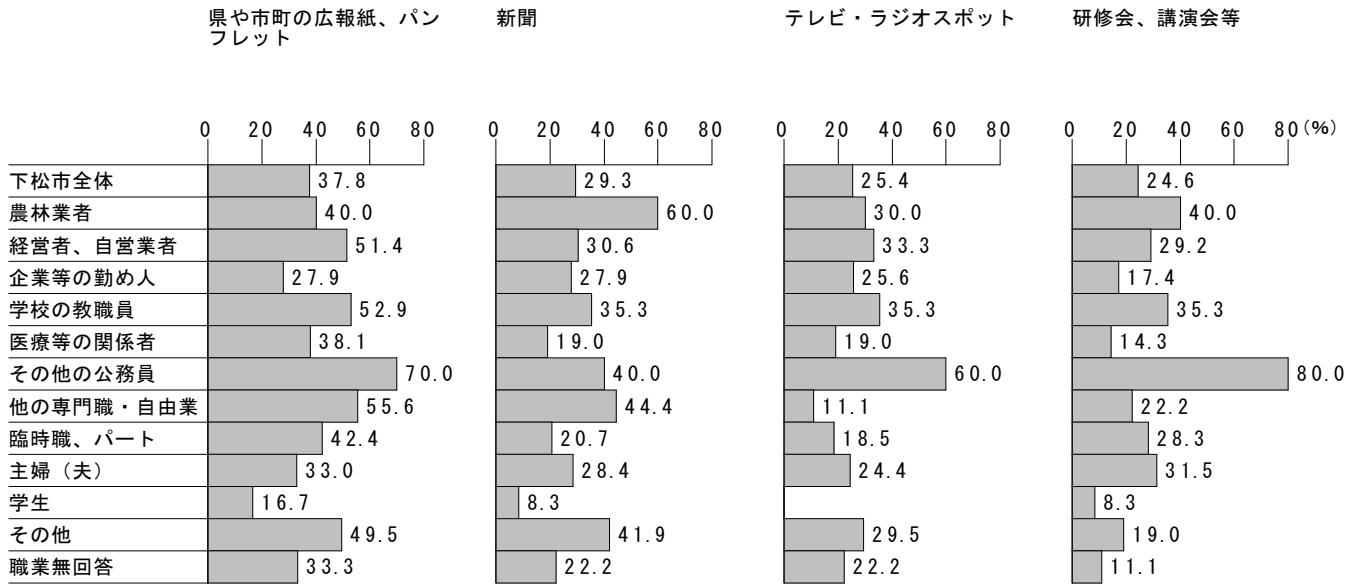
下松市全体	(N=794)
男性	(N=344)
女性	(N=445)
性別無回答	(N=5)
20～29歳	(N=85)
30～39歳	(N=134)
40～49歳	(N=139)
50～59歳	(N=180)
60～69歳	(N=220)
70歳以上	(N=29)
年齢無回答	(N=7)

啓発活動への接触度について、性別にみると、「研修会、講演会等」との回答は女性が男性を8.7ポイント、「新聞」との回答は男性が女性を7.1ポイントそれぞれ上回っている。

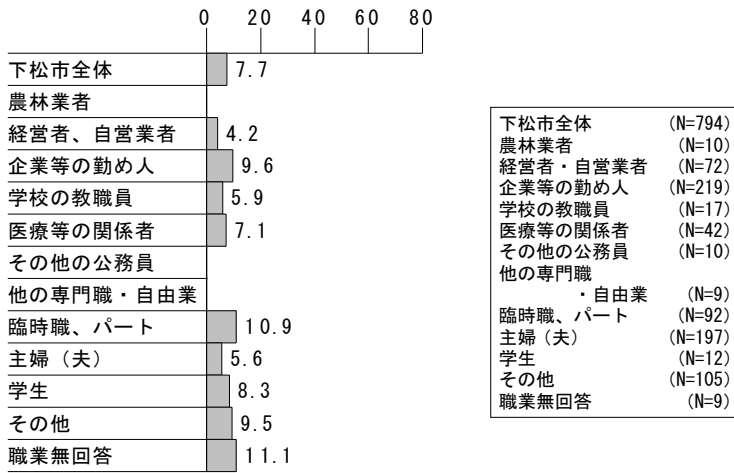
年齢別にみると、「県や市町の広報紙、パンフレット」、「新聞」との回答は年代が上がるにつれ高くなる傾向にあり、「テレビ・ラジオスポット」との回答は50～59歳、60歳～69歳でそれぞれ高くなっている。



図18-3 啓発活動への接触度(職業別)



わからない

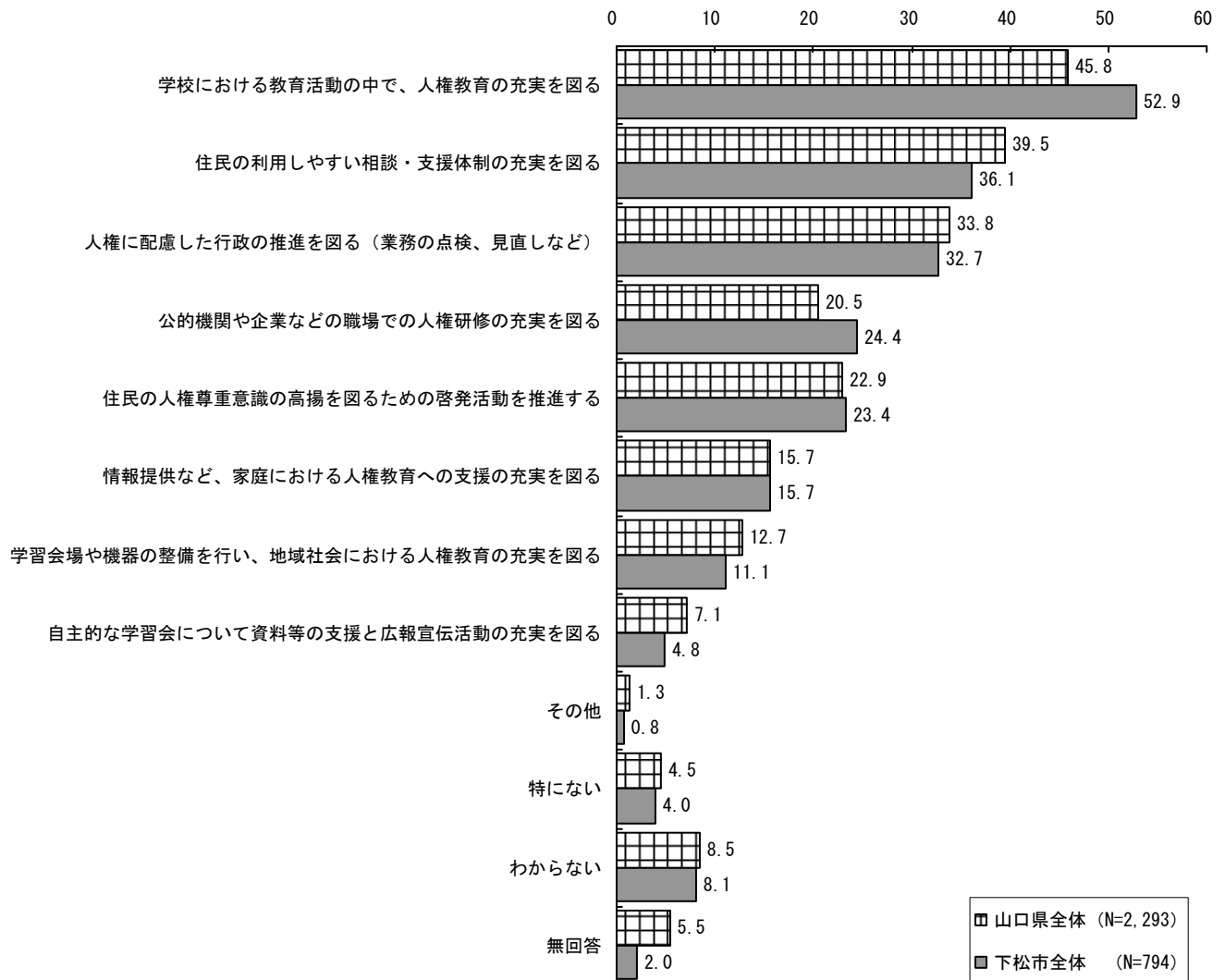


啓発活動への接触度について、職業別にみると、「新聞」を除く項目で、その他の公務員の割合が高くなっている。「新聞」との回答では農林業者が高い割合となっている。

## (2)人権に関する取組の今後の条件整備

問19 あなたは、今後、人権に関する取組として、どのような条件整備に力を入れていけばよいと思われますか。(✓は3つまで)

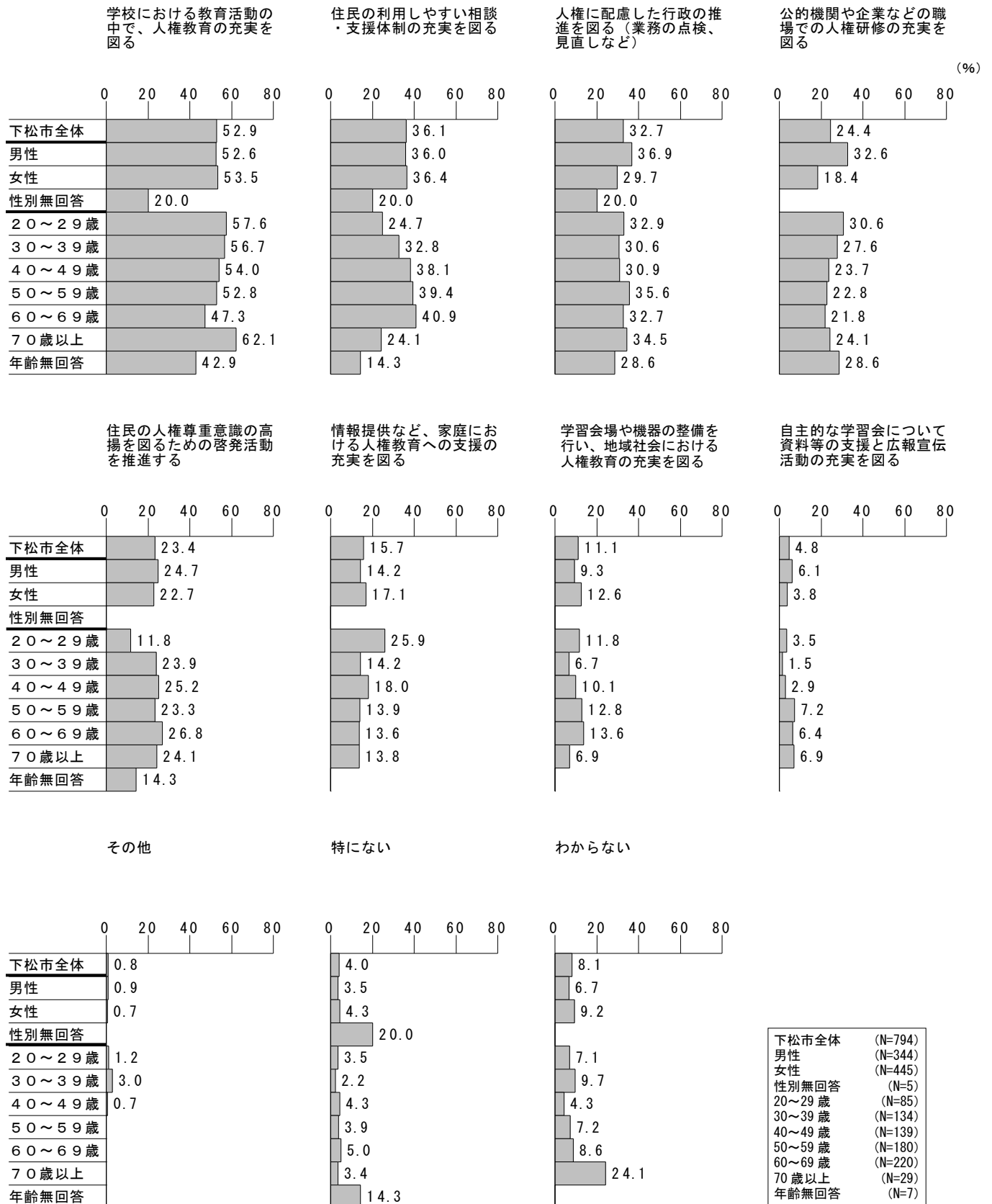
図19-1 人権に関する取組の今後の条件整備(県全体・下松市全体)



今後の人権に関する取組の条件整備について、「学校における教育活動の中で、人権教育の充実を図る」が52.9%で最も高く、次いで「住民の利用しやすい相談・支援体制の充実を図る」(36.1%)、「人権に配慮した行政の推進を図る(業務の点検、見直しなど)」(32.7%)、「公的機関や企業などの職場での人権研修の充実を図る」(24.4%)、「住民の人権尊重意識の高揚を図るための啓発活動を推進する」(23.4%)など順となっている。

山口県全体と比較すると、「学校における教育活動の中で、人権教育の充実を図る」との回答は本市が山口県全体を7.1ポイント上回っている。

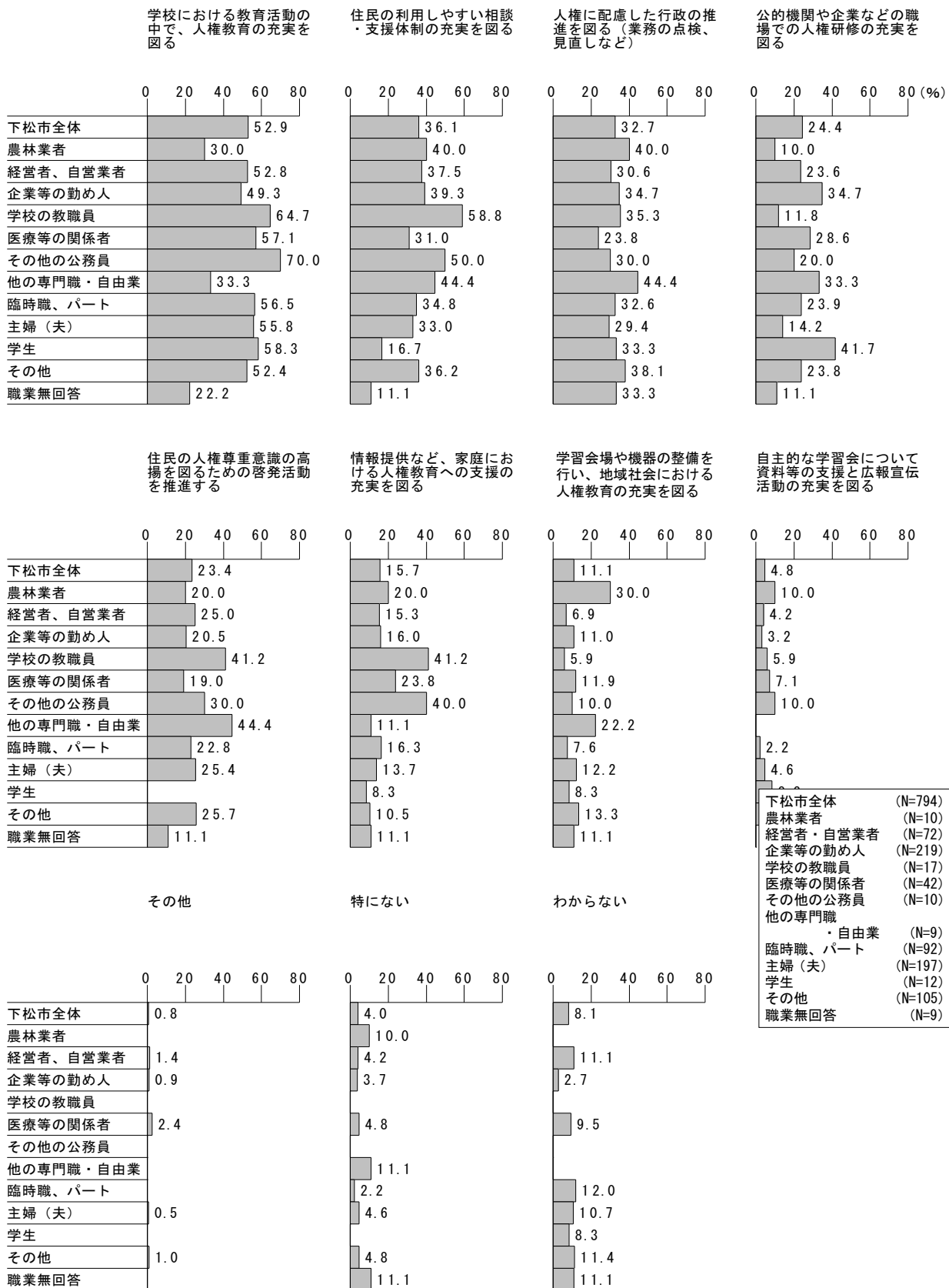
図19-2 人権に関する取組の今後の条件整備(性別・年齢別)



人権に関する取組の今後の条件整備について、性別にみると、「公的機関や企業などの職場での人権研修の充実を図る」との回答は男性が女性を14.2ポイント上回っている。

年齢別にみると、「学校における教育活動の中で、人権教育の充実を図る」との回答は70歳以上で、「情報提供など、家庭における人権教育への支援の充実を図る」との回答では20~29歳でそれぞれ高くなっている。

図19-3 人権に関する取組の今後の条件整備(職業別)

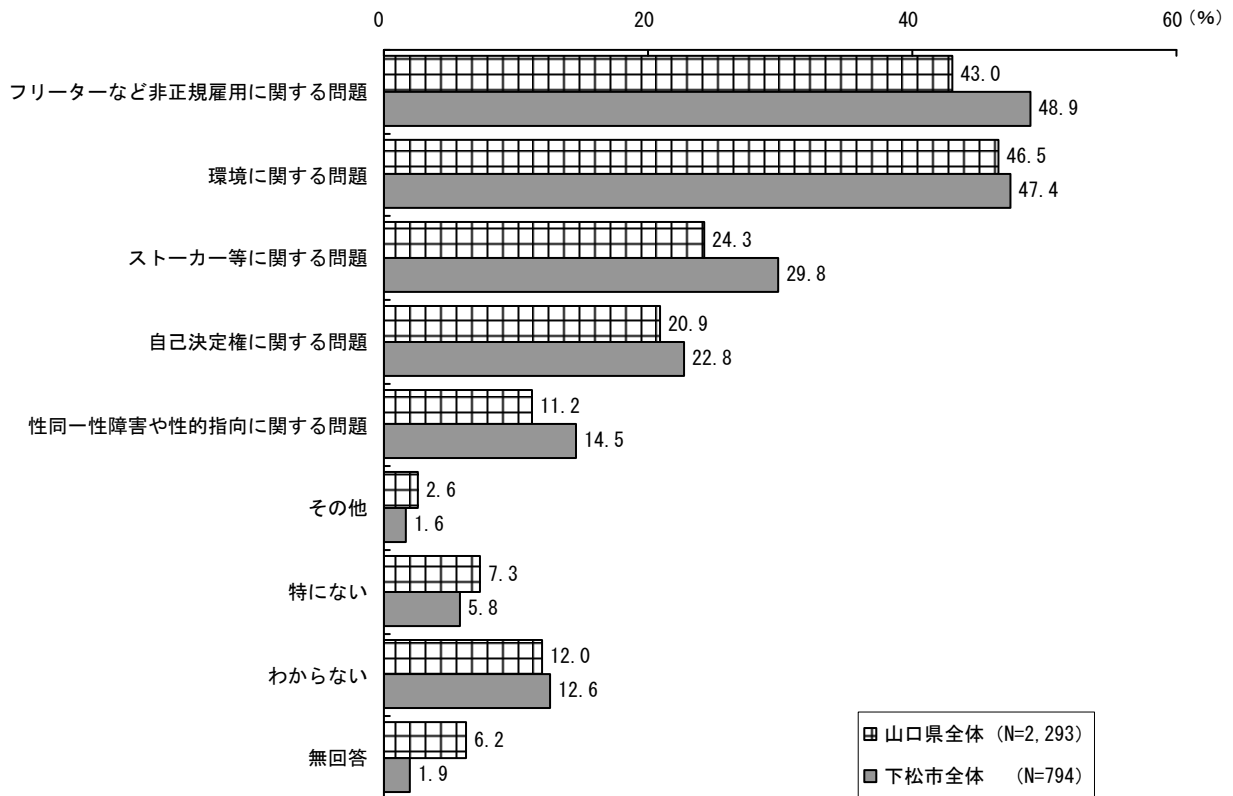


人権に関する取組の今後の条件整備について、職業別にみると、「学校における教育活動の中で、人権教育の充実を図る」との回答はその他の公務員で、「住民の利用しやすい相談・支援体制の充実を図る」との回答は学校の教職員で、「住民の人権尊重意識の高揚を図るための啓発活動を推進する」との回答は学校の教職員、他の専門職・自由業で、「情報提供など、家庭における人権教育への支援の充実を図る」では学校の教職員、その他の公務員でそれぞれ高くなっている。

(3) 今後、山口県人権推進指針に盛り込むべき人権課題

問20 あなたは、人権に関わる課題として、今後、「山口県人権推進指針」にどのような問題を盛り込む必要があると思われますか。(✓はいくつでも)

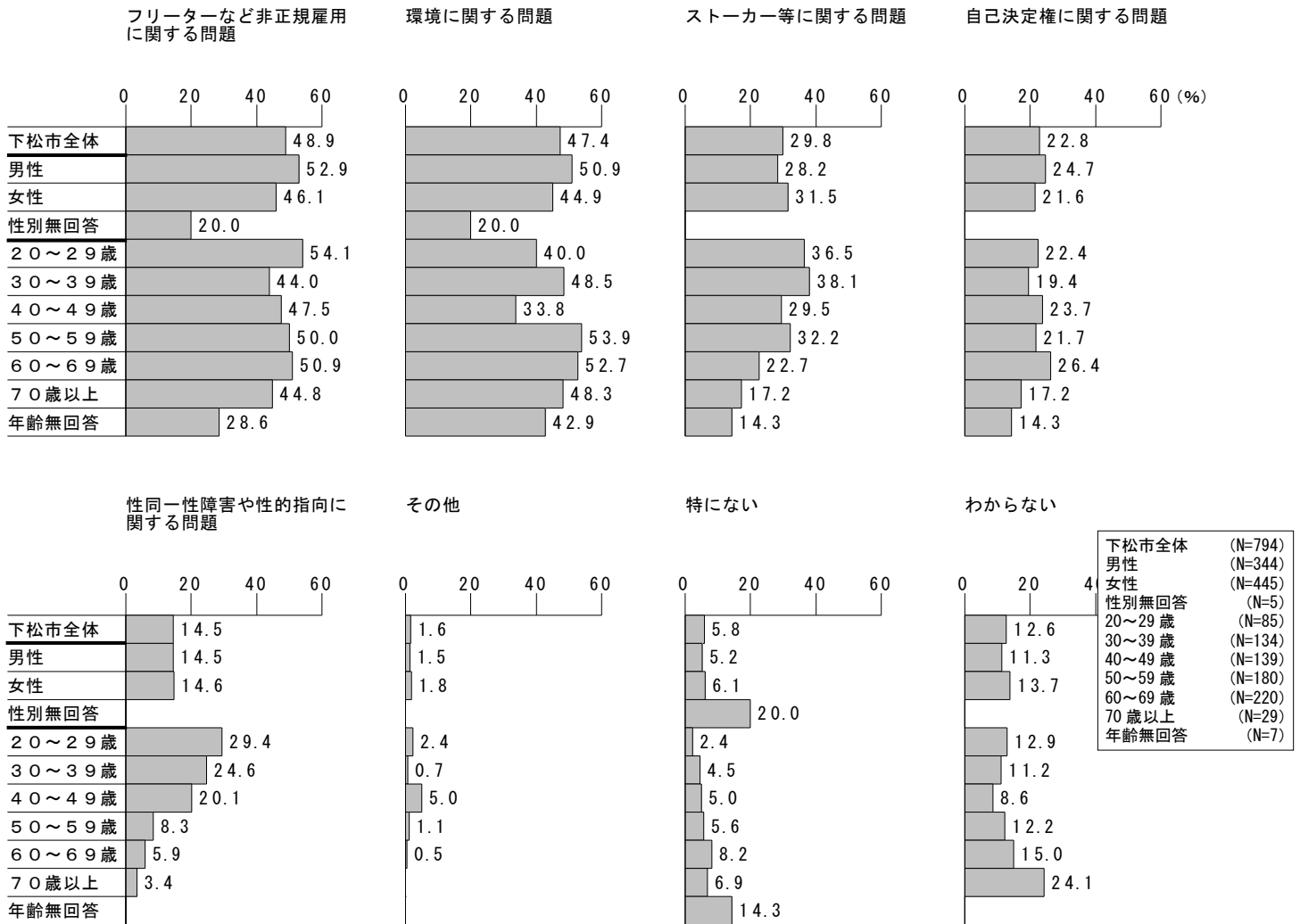
図20-1 今後、山口県人権推進指針に盛り込むべき人権課題(県全体・下松市全体)



今後、山口県人権推進指針に盛り込むべき人権課題について、「フリーターなど非正規雇用に関する問題」(48.9%)、「環境に関する問題」(47.4%)が4割を超え高い割合となっており、次いで「ストーカー等に関する問題」(29.8%)、「自己決定権に関する問題」(22.8%)などの順となっている。

山口県全体と比較すると、「フリーターなど非正規雇用に関する問題」との回答は5.9ポイント、 「ストーカー等に関する問題」との回答は5.5ポイント本市が山口県全体をそれぞれ上回っている。

図20-2 今後、山口県人権推進指針に盛り込むべき人権課題(性別・年齢別)

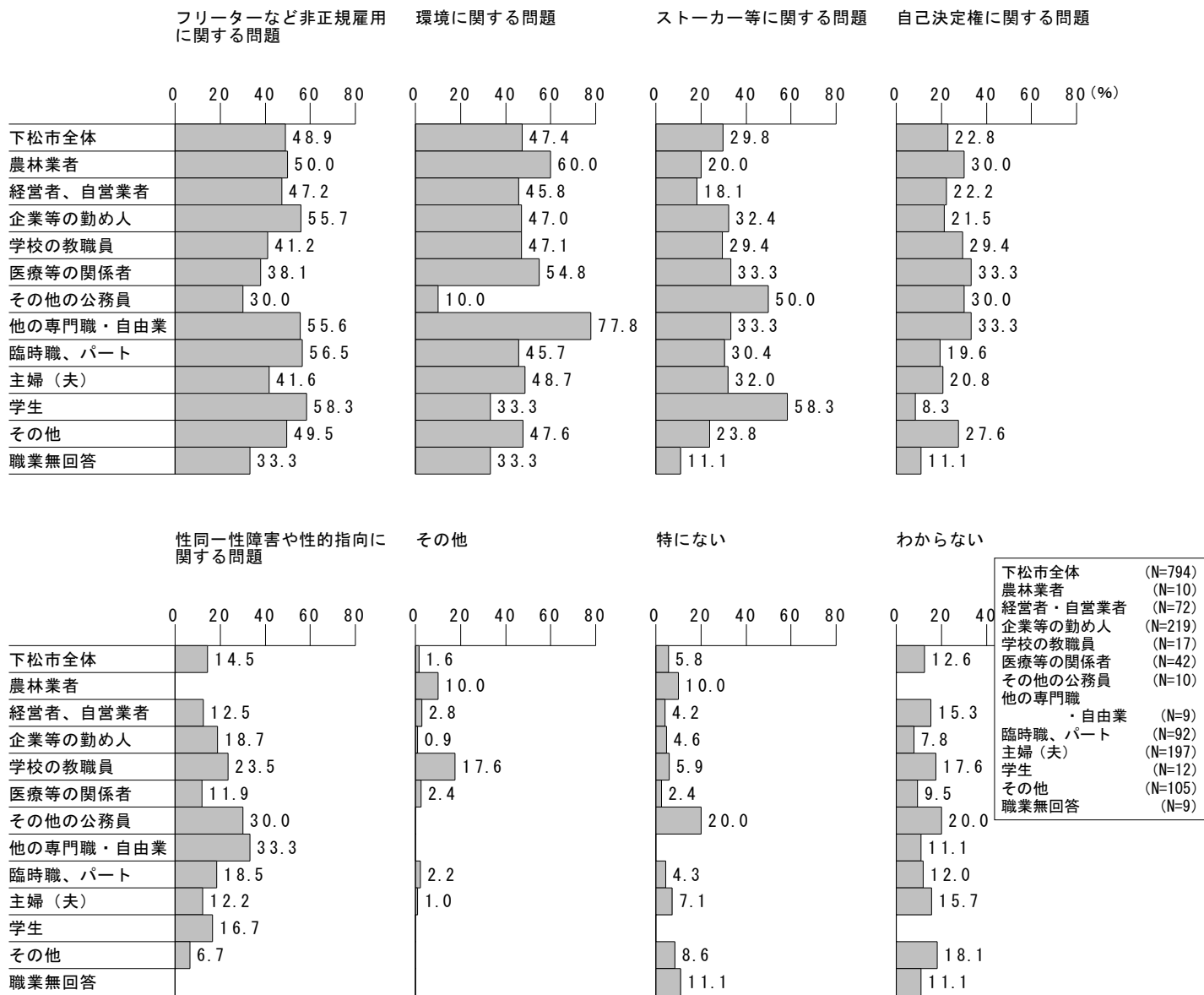


下松市全体 (N=794)  
 男性 (N=344)  
 女性 (N=445)  
 性別無回答 (N=5)  
 20~29歳 (N=85)  
 30~39歳 (N=134)  
 40~49歳 (N=139)  
 50~59歳 (N=180)  
 60~69歳 (N=220)  
 70歳以上 (N=29)  
 年齢無回答 (N=7)

今後、山口県人権推進指針に盛り込むべき人権課題について、性別にみると、「フリーターなど非正規雇用に関する問題」との回答では6.8ポイント、「環境に関する問題」との回答では6.0ポイント、男性が女性をそれぞれ上回っている。

年齢別にみると、「フリーターなど非正規雇用に関する問題」との回答は20~29歳で、「ストーカー等に関する問題」との回答は20~29歳、30~39歳で、「性同一性障害や性的指向に関する問題」との回答は20~29歳でそれぞれ高くなっている。反対に「環境に関する問題」との回答は40~49歳で低くなっている。

図20-3 今後、山口県人権推進指針に盛り込むべき人権課題(職業別)



今後、山口県人権推進指針に盛り込むべき人権課題について、職業別にみると、「環境に関する問題」との回答は他の専門職・自由業で、「ストーカー等に関する問題」との回答はその他の公務員、学生で、「性同一性障害や性的指向に関する問題」との回答はその他の公務員、他の専門職・自由業でそれぞれ高くなっている。



名 称 人権に関する市民意識調査報告書  
発 行 下松市健康福祉部人権推進課  
所在地 〒744-8585  
山口県下松市大手町3-3-3  
電話 0833-45-1825  
発行年月 平成21年(2009年)9月